

令和 6 年度

**むつ市教育委員会の事務の
点検及び評価に関する報告書**

－令和 5 年度の実績－

むつ市教育委員会

まえがき

むつ市教育委員会では、令和４年９月に第２期「むつ市教育大綱」を策定し、【学校教育の充実】、【社会教育の充実】の２つの柱を機軸に据えて、未来を担う子供たちが高い自己肯定感を持ち、他者を尊重し、「生きる力」を育むことを教育方針に掲げ、むつ市の子供たちの未来のために各種教育施策の充実に努めております。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされております。

むつ市教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び市民への説明責任を果たすことを目的に、外部の学識経験者などから意見を伺いながら、実施事業の内容を充実させ、着実にむつ市の教育を向上させることができるよう事務の点検及び評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

むつ市教育委員会では、この点検・評価の結果を今後の事務事業に活かし、むつ市の教育施策の推進に努めてまいります。

令和６年８月

むつ市教育委員会

目 次

◇点検・評価に当たって	1
◇むつ市教育大綱の概要	3
◇令和5年度 むつ市教育大綱事業実施計画の概要	5
◇むつ市教育大綱における各施策項目ごとの評価	7
◇具体的な取組の点検・評価	
1 総務課	
(1) 安全・安心で夢を育む教育環境の整備	9
(2) 教職員の適正・適切な配置	1 5
(3) 通学区域制度の適切な運用及び再編	1 5
(4) 学校規模の適正化に係る研究・検討	1 5
(5) 就学困難な児童生徒等に係る就学援助	1 6
(6) コミュニティ・スクール制度の推進	1 8
(7) 奨学金制度の充実	1 8
(8) 学校保健の充実	2 0
(9) 学校給食の充実	2 4
(10)教職員の働き方改革	2 6
2 生涯学習課	
(1) 生涯学習の推進	2 7
(2) 学校・家庭・地域の連携による教育活動の推進	2 9
(3) 社会教育施設の機能充実	3 0
(4) 芸術・文化活動の奨励と振興	3 2
(5) 郷土の文化遺産の保護・保存と活用	3 3
3 学校教育課	
(1) 質の高い教育課程の創造	4 1
(2) 学力向上対策の充実	4 4
(3) I C Tを活用した教育活動の充実	4 8
(4) 教育研修センター講座等の充実	5 2
(5) 幼・保・小連携及び小中一貫教育の充実	5 2
(6) 大学との連携強化	5 4
(7) 健康教育・安全教育の充実	5 5
(8) キャリア教育の充実	5 6
(9) 特別支援教育体制の充実	5 9
(10)国際化に対応する教育と郷土に対する 愛着と誇りを涵養する教育の推進	6 1

(11)生徒指導の充実と関係機関との連携強化	6 5
(12)教育相談体制の充実	6 7
4 公民館(中央、川内、大畑、脇野沢)	
(1) 公民館の適正管理と運営の充実	6 9
(2) 公民館事業の推進	7 1
(3) 社会教育関係団体等の育成支援	7 5
(4) 生涯学習関連機関等との連携促進	7 7
5 図書館	
(1) 図書館の適正管理	7 9
(2) 資料の収集・保存と活用	8 0
(3) 図書館サービス活動の充実	8 2
(4) 子供の読書活動の推進	8 5
(5) 人と本をつなげるまちづくり事業の推進	8 7
6 地域クラブ企画推進課	
(1) クラブの運営	8 9
◇点検・評価対象事務事業一覧	9 0

◇ 点検・評価に当たって

1 経緯

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

この法律改正を受け、むつ市教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び市民への説明責任を果たすことを目的として、教育委員会の事務の点検及び評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

2 点検・評価の方法

(1) むつ市教育施策の方針

むつ市教育委員会では、「むつ市教育大綱事業実施計画」を定めるとともに、毎年度、各課（館）における重点項目を定め、具体的な取組（事業）を実施しています。

(2) 点検・評価の対象

令和6年度の点検・評価に当たっては、各重点項目を推進するために令和5年度に実施した具体的な取組を点検対象として、その点検結果を踏まえ、事業ごとに評価を行います。

(3) 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため「点検・評価アドバイザー会議」を開催し、学識経験者等からなる「点検・評価アドバイザー」に参集いただいた上で、その実施方法や内容について助言・指導をいただきました。

3 報告書の構成

(1) 教育大綱の基本方針ごとの評価は、各事業の成果や評価を踏まえて評価をしています。

(2) 全体構成

報告書は〔1 総務課〕、〔2 生涯学習課〕、〔3 学校教育課〕、〔4 公民館〕、〔5 図書館〕、〔地域クラブ企画推進課〕の施策ごとに構成しています。

(3) 重点項目の点検（令和5年度の具体的な取組状況）

重点項目を推進するための具体的な取組状況について、個々の事業が適切に実施されているかどうか、その概要・計画・実績を点検しています。

(4) 具体的な取り組み（事業）の評価（点検結果を踏まえた評価）

具体的な取組状況の点検結果を踏まえ、評価・課題等を確認しています。

4 点検・評価アドバイザー会議の概要

(1) 令和6年度点検・評価アドバイザー（50音順、敬称略）

氏 名	団体・役職
岩 淵 崇	むつ市連合PTA会長
金 澤 寿々子	元むつ市教育部長
和 田 正 顕	元田名部中学校長

(2) 点検・評価アドバイザー会議の開催状況

- ・第1回点検・評価アドバイザー会議（令和6年7月31日）
＜内容＞
 - ・教育委員会の事務の点検及び評価の概要について
 - ・点検及び評価の実施方法に関する意見について
 - ・説明担当課：総務課、生涯学習課、地域クラブ企画推進課、学校教育課、公民館、図書館

(3) アドバイザーからの主な意見

<事務の点検・評価の概要について>

- ・教育委員会として、学力向上が図られるよう尽力している様子がうかがえる。
- ・いじめ問題は、子供だけでなく家庭へのフォローも大切なので、今後も学校との連携を大切にしていきたい。
- ・社会教育について「環境整備」「学習機会の提供」「人材育成」の視点でバランス良く取り組んでいると感じられる。
- ・「街の本屋」が衰退していく中で、図書館は今後一層重要な機能を果たしていくと考えられる。ICタグの導入など取組が進められているが、引き続き利用者の増加に努めていただきたい。
- ・教育を数値化することは難しいと認識している。その中で、子供たちをどのように評価していくのか、様々な視点から考察していただきたい。

<次年度以降、引き続き検討することとした主な意見>

- ・タイムレコーダーの導入により、教職員の働き方について意識の変容は見られるのか。勤務時間削減のための対策を講じていただきたい。
- ・英語検定料補助により意欲向上が図られている。他教科にも幅を拡げるなど児童生徒の主体性に結びつく事業を増やして欲しい。
- ・教育現場でのデジタル化において、そこから得られるデータを活用するなど、より効果的な取組を期待したい。
- ・「全国トップクラスの学力育成」「0歳から18歳までの切れ目のない学力向上の推進」といった施策について、検証を重ねながら取り組んでいただきたい。
- ・全国的に地域のつながりや文化活動が先細りしていく状況が見られるが、公民館事業等をとおして、地域の文化活動を支えていただきたい。

◇むつ市教育大綱の概要

1. 学校教育の充実

(1) 学力の向上

①明確な目標設定

「むつ市教育プラン」に具体的な数値目標を定め、授業改善とＩＣＴの活用を推進し、全国トップクラスの学力の育成に努めます。

②教員の資質向上

新たな課題にも適切に対応できる多様な専門性を持った教職員の育成に資するよう、キャリアステージに応じた学校内外での研修の充実に努めます。

③主体的な学習の推進

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け多様な学習活動に取り組みます。

④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進

新入学児童への相談体制の充実やスタートカリキュラムの導入、小中一貫教育の推進、志高く高等教育機関への進学を希望する生徒を支援します。

(2) 体育・健康教育の充実

①健康な体を育む学校づくり

健康についての正しい知識を身に付けさせ、自ら健康な生活を実践する能力や態度を育てます。

②安全・防災教育の推進

起こりうる危険を予測し、子供たちが自ら安全に関する情報をもとに正しく判断して、いかなる状況においても、身を守る行動ができるような資質・能力を育てます。

(3) 夢を育む教育

①キャリア教育の充実

自分の生き方について自覚を深め、急速な社会の変化に適切に対応するため、キャリア教育のさらなる充実に努めます。

②特別支援教育の充実

個々の能力や適性に応じたきめ細かい指導・支援を更に充実させるとともに、就学前における早期の相談を実施するなど教育相談体制の充実に努めます。

③豊かな心の育成

他者への思いやりなど豊かな心の育成に努めるとともに、一人ひとりの状況に合わせた支援ができるよう、教育相談体制と生徒指導の充実を図ります。

④高等教育機関との連携

高等教育機関と連携し、市内における教育機会の充実を図り、地域の将来を担う人材育成を図ります。

(4) 地域とともにある学校

①ふるさとむつ市への愛着と誇りを育む教育

文化財や伝統芸能、ジオパークなどの地域資源について学び、知識を得ることができるよう学習機会の提供を推進します。

②コミュニティ・スクールの推進

コミュニティ・スクール機能を生かした特色ある学校づくり、地域づくりを図ります。

2. 社会教育の充実

(1) 社会教育・文化の充実と文化財の保存活用

①スポーツ活動の推進

むつ市版総合型スポーツクラブを創設し、スポーツ活動の推進、中学校部活動の地域移行を図ります。

【主な事業と目標】

ア 中学校運動部活動の地域移行を図るため、総合型地域文化・スポーツクラブの創設に向けて、関係機関との協議や意見交換を進めます。

②生涯を通じた学びの推進

人生100年時代を見据えた「いつでも、どこでも、何度でも、誰でも」学べる環境整備と学習機会の提供を図ります。

【主な事業と目標】

ア 青少年教育、成人教育等、各年齢に応じた事業を、参加者の満足度が80%以上となるよう、テーマや開催方法を工夫して実施できるよう努めます。

イ 図書館の貸し出し点数が増加していくよう、周知等のイベントやPRに努めます。

③学校・家庭・地域の連携による教育活動の推進と人材育成

むつ市地域学校協働本部を設置し、地域住民が学校と協働して、子供を取り巻く課題を共有するとともに、様々な活動を通して子供たちの交流の促進を図る等環境づくりを推進します。

また、社会教育の推進にあたり、地域の指導者等の人材育成に努めます。

④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実

文化財の活用を通して郷土愛の醸成を図ります。

また、文化・芸術に触れる機会の創出に努めるとともに、中学校文化部活動について、スポーツ部活動と方向性を合わせ、地域移行を推進します。

(2) 変化に対応できる人材の育成

①持続的発展のための人材の育成

高等教育機関との連携し、講習受講履歴の適正な評価及び指導者・リーダーの育成のあり方を研究やリモート学習やICTを活用など、社会の変化に対応した学び方を推進します。

②社会人の学び直しの推進

社会が大きく変わる中で、求められる能力を身につけるため、リカレント教育等を受けられるよう企業や高等教育機関と協議して、持続可能な社会の創り手を育成するための研究を行います。

◇令和5年度 むつ市教育大綱事業実施計画の概要

この「むつ市教育大綱事業実施計画」は、「むつ市教育大綱」に示した理念を実現するために、大綱の趣旨に沿って教育委員会で実施する事業の具体的な実施計画となります。また、子供たちを育む家庭、学校、地域社会に期待される役割を明らかにし、事業を計画・実施するための基本的な指針としていきます。

計画には、各所属において毎年度の予算に基づき実施する事業を明記し、当該年度において着実に実施するとともに、実施した事業について毎年度検証及び評価を行い、子供たちにとってよりよい施策となるよう努めるものとします。

【各所属における重点項目】

1. 総務課

子供が豊かな心をもち、自ら学び、自ら考える力など「生きる力」を育成するための教育環境の整備を推進する。また、活力ある学校教育を推進するため、教職員の適切な配置を図るとともに、その他教育環境の整備と保健衛生及び学校給食の充実を図る。

- (1) 安全・安心で夢を育む教育環境の整備
- (2) 教職員の適正・適切な配置
- (3) 通学区域制度の適切な運用及び再編
- (4) 学校規模の適正化に係る研究・検討
- (5) 就学困難な児童生徒等に係る就学援助
- (6) コミュニティ・スクール制度の推進
- (7) 奨学金制度の充実
- (8) 学校保健の充実
- (9) 学校給食の充実
- (10) 教職員の働き方改革

2. 生涯学習課

社会教育では、地域学校協働本部において、学校と地域との連携・協働を強化し、様々な活動を通して子供たちが活動できる環境づくりを促進する。

文化財については、既存の施設や学校等を利用しながら保存を行い、収蔵品を活用し、市民の皆様に公開することにより文化財に親しむ機会の充実に努める。

子供から大人までが一層文化活動に親しめる環境を整備する。

- (1) 生涯学習の推進
- (2) 学校・家庭・地域の連携による教育活動の推進
- (3) 社会教育施設の機能充実
- (4) 文化・芸術活動の奨励と振興
- (5) 郷土の文化遺産の保護・保存と活用

3. 学校教育課

知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童生徒を育成するために、校長の強力なリーダーシップのもと、「教育は人づくり」という視点に立ち、全教職員が協働して特色ある学校運営を図り、「郷土に根ざし、生きる力と夢をはぐくむ」学校教育の推進に努める。

- (1) 質の高い教育課程の創造
- (2) 学力向上対策の充実
- (3) I C Tを活用した教育活動の充実
- (4) 教育研修センター講座等の充実
- (5) 幼・保・小連携及び小中一貫教育の充実
- (6) 大学との連携強化
- (7) 健康教育・安全教育の充実
- (8) キャリア教育の充実
- (9) 特別支援教育体制の充実
- (10) 国際化に対応する教育と郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進
- (11) 生徒指導の充実と関係機関との連携強化
- (12) 教育相談活動の充実

4. 公民館（中央、川内、大畑、脇野沢）

市民の最も身近な生涯学習施設として、学習活動の支援や豊かな地域づくり・人づくりのため、公民館活動の充実に努める。

- (1) 公民館の適正管理と運営の充実
- (2) 公民館事業の推進
- (3) 社会教育関係団体等の育成支援
- (4) 生涯学習関連機関等との連携促進

5. 図書館

市内全域の読書環境の保全に努めるとともに、多種多様な資料や情報等の積極的な収集・整備による読書活動の拠点として図書館機能の充実を図り、地域の教育・文化の向上発展に寄与する。

- (1) 図書館の適正管理
- (2) 資料の収集・保存と活用
- (3) 図書館サービス活動の充実
- (4) こどもの読書活動の推進
- (5) 人と本をつなげるまちづくり事業の推進

6. 地域クラブ企画推進課

中学生の文化・スポーツ活動の選択肢を拡充し、生徒一人ひとりの充実した放課後活動を確保するため、むつ市地域文化・スポーツクラブ「むつ☆かつ」を運営主体としながら、中学校部活動の段階的な地域移行を図る。

最終的には、子供から大人までが、いつでも、だれでも、いつまでも文化・スポーツ活動を楽しむことができる社会の実現を目指し、総合型地域文化・スポーツクラブを設置する。

- (1) クラブの運営

◇むつ市教育大綱における各施策項目ごとの評価

重点項目１．学校教育の充実

施策項目（１） 学力の向上

各種学力調査については、全国学力・学習状況調査では、小学校６年生・中学校３年生ともすべての教科で全国を下回る結果となった。しかし、青森県学習状況調査では、小学校５年生はすべての教科において県を下回ったが、中学校２年生は理科及び全体において県通過率を上回り、他教科においても県との差が縮まるなど一定の成果が得られた。このことは、各校の地道な指導をはじめ、当学校教育課の新しい取組である「むつ市総合学力調査の結果返却の工夫」「学力向上に向けた協議会の開催」「算数・数学チャレンジの実施」等による成果が、少しずつ表れてきたことによるものと考えられる。

また、ＩＣＴに関する取組においても、「デジタル教材配備」「ＩＣＴ活用検証事業」「学習用ＨＰ開設」等の事業により、児童生徒及び教員のＩＣＴ環境を整えることができた。

次年度は、ＡＩドリルの導入等により、さらに学習環境の充実や指導方法の工夫が図られ、児童生徒の学習意欲の向上につながっていくものと思われる。

施策項目（２） 体育・健康教育の充実

各校では、新体力テスト等の結果をもとに、教科体育や業間活動において多様な運動場面を設定しているが、項目によっては国や県を下回るものもあった。今後も、運動する機会を計画的に設定するとともに、日常生活においても運動に親しめるよう家庭と連携した取組について引き続き各校に周知していく。

弘前大学大学院医学研究科の協力のもと実施している「健康の未来」を変えるプロジェクト授業では、今年度は３校において実施した。そして、そのうちの２校では測定・結果・健康教育までを実施する「ＱＯＬ 健診」の内容を取り入れたことにより、子供たちが自身の健康状態をもとに日常生活を見直すなど、内容の充実が図られた。

安全・防災に関する取組としては、昨年度改定した学校危機管理マニュアルの活用について、学校訪問等の機会に周知することができた。

施策項目（３） 夢を育む教育

今年度において、「児童生徒の高い志をはぐくむ支援事業」を活用した学校は７校であり、どの学校からも事業の効果があつたと報告が寄せられた。また、同事業における英語検定半額補助においては、検定を受験した生徒の割合が昨年度に比べて約２％増加したことから、少しずつ事業の効果が表れてきていると言える。今後も、特別支援教育や生徒指導における教育的ニーズに応じた指導・支援の充実も含めて、児童生徒が夢や志をもって自らの将来を切り開いていこうとする意欲を高めることができるよう努めていく。

施策項目（４） 地域とともにある学校

各学校においては、学校運営協議会を適切に開催し、目標やビジョンを共有した

上で、地域や保護者の意見も踏まえながら学校運営に取り組むことができた。

また、地域の人材や教材を生かした体験活動をはじめ、ジオパークを活用した学習など、学校や地域の実態に応じて創意工夫した取組がなされていた。

今後も、児童生徒の郷土を愛する心情の育成に努めていくことができるよう、生涯学習課及びジオパーク推進課等とも連携しながら、各校の活動の充実に努めていく。

重点項目２．社会教育の充実

施策項目（１） 社会教育・文化の充実と文化財の保存活用

令和５年度より段階的な中学校部活動の地域移行を推進することとした上で、令和５年度は「むつ市地域文化・スポーツクラブ（愛称：むつ☆かつ）」を設立し、３クラブのスポーツクラブと１０クラブの文化クラブを地域へ移行し、中学生に対して新たな文化活動の場を提供することができた。

社会教育事業においては、学校を核として地域が連携・協働して、子供たちに様々な体験をさせる地域学校協働活動推進事業等を実施した。その中で新しい取り組みとして市内の全ての学校を対象とした移動体験型子ども教室を実施、学校の垣根を越えた体験を提供することができた。

成人については市民大学をはじめ、教養型の事業の実施、自らの知見を生かしたボランティア活動を支援した。

文化活動においては、下北プロジェクトの一環として音楽によるまちづくり事業を実施し、プロから直接学ぶ機会とプロと一緒に演奏を披露するなど貴重な体験をする機会を提供できた。

文化財の保存及び活用事業については、発掘調査の体験や出土した遺物をむつ☆かつで活用することができた。また、重要文化財修理事業は順調に進捗し、市民に公開、周知することができた。その他、日本各地で地域コミュニティの衰退により地域の祭り等の継続が困難となる事例が散見されているが、市民からの要望に応え、伝統行事及び民俗芸能の継承発展に関する条例を策定した。

公民館の利用者数は、前年度より増加したが、長期的にみると減少傾向にある。

主催事業については、ほとんどの事業を実施することができ、市民が望む学びの場を提供することができた。今後も市民の学習ニーズに応え、可能な範囲で学習の場の確保に努めていく。

図書館においては、主催イベント、企画展等を実施しながら読書活動の活性化を図り、図書館に来館するきっかけづくりを行い、本の貸出点数の増加に努めた。また、公共施設を対象とした「クーリングシェルトー」では、期間中、視聴覚ホールで「クーリングシネマ」を実施。たくさんの方が涼みながら映画を楽しんだ。

施策項目（２） 変化に対応できる人材の育成

高等教育機関との連携として、青森大学むつキャンパスでの公開講座や放送大学が開催した公開講座等、高等教育機関と連携した学習機会の提供を行った。また、あおり県民カレッジと共催した公開講座も行い、参加者には講座内容に関する関係者の出席が見られるなど、専門的知識を学ぶ方への良い機会となった。

このような高等教育機関での講演や公開講座は高い知見をもった教授クラスの講師となり、専門分野を学ぶ機会となることから、開催の周知等を積極的に行い、学ぶ機会を市民に提供していきたい。

◇ 具体的な取組の点検・評価

1 総務課

■ 具体的な取組の評価 ■

(1) 安全・安心で夢を育む教育環境の整備

事業名		スクールバス運行管理事業	
大綱施策		なし	
概要	学校統合により徒歩での通学が困難な児童生徒の安全な輸送を行うため、スクールバスの運行を行う。		
計画	○下記地区から通学する児童生徒の安全な輸送を行う。 ・関根地区（烏沢） ・奥内地区（大室平・金谷沢・中野沢） ・大湊地区（角違・城ヶ沢） ・川内地区（戸沢・蛸崎・湯野川） ・大畑地区（小目名・釣屋浜） ・脇野沢地区（源藤城・九艘泊・小沢） ※計画人数：195人	実績・成果	○運行時の事故もなく、安全に輸送を行うことができた。 ・関根地区：30人 ・奥内地区：14人 ・大湊地区：23人 ・川内地区：50人 ・大畑地区：48人 ・脇野沢地区：7人 合 計：172人
予算	予算総額 96,472,118 円 (内訳) バス委託料 関根地区 8,165,520 円 奥内地区 16,786,000 円 大湊地区 12,745,656 円 川内地区 27,314,610 円 大畑地区 15,899,400 円 脇野沢地区 15,560,932 円	決算	決算総額 96,057,082 円 (内訳) バス委託料 関根地区 8,165,520 円 奥内地区 16,716,370 円 大湊地区 11,873,136 円 川内地区 26,952,200 円 大畑地区 17,081,856 円 脇野沢地区 15,268,000 円
評価	対象地区に居住している児童生徒のフォローに対しては確実に対応できている。 しかしながら、対象区域外の児童生徒（例大湊小学校路線における桜木町住民）等の要望には応えられていない状態にある。		
課題	バス車内への児童生徒の置き去り事案防止に係る各事業者への対応依頼を徹底する。 また、バスの安全装置の設置を今後も進めていくにあたり、補助金の活用及び財源の確保について検討する必要がある。	今後の方針	児童生徒の減少に伴うバス停留所の適正配置について検討する。 令和6年度末に正津川小学校が閉校し、大畑小学校への統合を予定していることから、大畑地区における路線拡張に向けて、適正な路線の計画を検討する。

事業名	まさかり高校医学部進学・特進コース事業		
大綱施策	1-(1)-④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進		
概要	むつ下北地域の学力向上と医師不足解消を目的として、むつ下北活性化応援プロジェクトである「まさかり高校」の中に医学部進学・特進コースを開設し、医師や国立大学等選抜制の高い大学への進学を希望する高校生を対象に、大手予備校講師を招聘し、難関大学合格に向けた、レベルの高い学習の場を提供する。		
計画	○予備校講師派遣プログラム（3回） 夏期：60人 冬期：60人 春期：40人 ○2次試験対策講習会 ○代ゼミ本部校講習会 ○東京大学見学ツアー：20人	実績・成果	○予備校講師派遣プログラム（3回） 夏期：31人 冬期：34人 春期：38人 ○京都大学ほか国公立大学へ20名合格（講習会等参加経験者・令和5年度卒業生実績） ○代ゼミ本部での講習会と東京大学見学ツアーは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。
予算	予算総額 5,421,000 円 （内訳） 報 償 費 0 円 旅 費 71,000 円 需用費 0 円 委託料 5,350,000 円	決算	決算総額 1,996,311 円 （内訳） 報 償 費 0 円 旅 費 0 円 需用費 0 円 委託料 1,996,311 円
評価	リモート授業と対面授業どちらも受けた受講者からやはり対面で実施できてより理解できたと好評だった。また受講者全員が実力養成に効果的であった、受講者の約97%が次回の講習会を受講したいとの回答があるなど高い評価を受けている（夏期・冬期アンケート結果より）。また、当該事業に受講実績のある令和5年度卒業生の進学実績等を踏まえれば、一定の受講生の支援につながっているものと考えている。		
課題	その年度の生徒の学力や志望校等により参加人数が左右される。 講習会の時間も短時間であり、受験生の学力向上のため、より効果的な事業となるよう内容の見直しを検討していく必要がある。	今後の方針	医学部進学率が増加するような効果的な講習となるよう一度内容を見直しする必要がある。



予備校講師派遣プログラム

事業名	下北Project（学びのイノベーション）事業		
大綱施策	1－(1)－④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進		
概要	東京大学との連携を主軸とし、「学力の向上」「スポーツの振興」「音楽によるまちづくり」等の実現という下北の狙いと「研究成果の社会実装」という東京大学の狙いの双方を掛け合わせた「学びのイノベーション」を起こす。		
計画	○「学力の向上」 東京大学運動部による合宿を誘致し、市内高校運動部員への実技指導のほか、市内中学生に対する学習方法の指導や交流を図る機会の設定 ○「スポーツの振興」 サッカー、野球等の各教室及び指導者や保護者講習会の実施 ○「音楽によるまちづくり事業」 プロのオーケストラメンバーを講師とした、楽器ごとの対面指導及びコンサートの実施	実績・成果	○「学力の向上」 ・東京大学漕艇部の合宿誘致・交流会（10月） ○「スポーツの振興」 ・むつ☆かつサッカークラブ指導（6月） ・野外教育・家族キャンプ教室（7月） ・杉本美香柔道教室（12月） ・工藤公康野球教室（1月） ○「音楽によるまちづくり事業」 ・みこし祭りステージ参加（8月） ・吹奏楽コンサート参加（10月） ・対面指導・コンサート実施（11月）
予算	予算総額 9,016,520 円 （内訳） 旅 費 132,520 円 需用費 30,000 円 役務費 3,934,000 円 委託料 4,920,000 円	決算	決算総額 5,265,064 円 （内訳） 旅 費 0 円 需用費 25,764 円 役務費 0 円 委託料 5,239,300 円
評価	各種教室等について滞りなく実施することができた。東京大学との交流会及びスポーツ講習会のアンケートにおいて、いずれも参加者の95%以上が満足したと回答するなど、高い効果を得られたと考えている。		
課題	事業の見直しにより、講習会事業等が地域クラブ企画推進課へ移管されることから、委員会内で十分な連携を図る。 東京大学との共同研究の一環として、むつマエダアリーナに設置しているモーションキャプチャーカメラの活用等について検討を続ける。	今後の方針	むつ☆かつと連動した、より効果の高い講習会等の実施に向け、検討を進める。



工藤公康野球教室



東京大学漕艇部交流会

事業名	G I G Aスクール端末等購入事業		
大綱施策	1－(1)－③主体的な学習の推進		
概要	文部科学省のG I G Aスクール構想により整備したG I G Aスクール端末及びソフトウェアや周辺機器等の整備、更新を行う。		
計画	○故障Windowsタブレット代替機購入 ○令和5年度 100台更新予定	実績・成果	○更新（1回目） 100台 ○更新（2回目） 20台
予算	予算総額 7,040,000 円 (内訳) 消耗品費 0 円 修繕費 0 円 委託料 0 円 備品購入費 7,040,000 円	決算	決算総額 6,758,400 円 (内訳) 消耗品費 0 円 修繕費 0 円 委託料 0 円 備品購入費 6,758,400 円
評価	機種を再選定することで当初の計画を超える台数を更新できた。これにより児童生徒のICTのスキルを習得する機会が増え、教育の質を向上させることに繋がったと考えている。今後もG I G Aスクール構想第二期に向け、随時更新を行っていく。		
課題	膨大な端末を管理運用するための体制。端末の経年劣化等による更新に係る費用。	今後の方針	端末の管理運用及び経年劣化等による更新に努める。

事業名	校務用パソコン等購入事業		
大綱施策	1－(1)－③主体的な学習の推進		
概要	経年劣化した校務用パソコン及び財務情報システム用パソコンを更新する。		
計画	○平成29年度、平成30年度に購入した校務用パソコンの更新。	実績・成果	○更新（1回目） 72台 ○更新（2回目） 20台
予算	予算総額 11,805,000 円 (内訳) 使用料及び賃借料 0 円 (内訳) 備品購入費 11,805,000 円	決算	決算総額 11,491,106 円 (内訳) 使用料及び賃借料 202,400 円 (内訳) 備品購入費 11,288,706 円
評価	当初計画を超える台数を更新できたことで、教職員の校務の効率化に繋がったと考える。3ヶ年計画での更新を見越しているため、未だ更新できていない端末もあり、早急な対応が必要である。		
課題	未更新の校務用パソコンの更新。故障発生時の対応。	今後の方針	引き続き校務用パソコンの更新を行う。

事業名	学校情報通信環境管理運営事業		
大綱施策	1－(1)－③主体的な学習の推進		
概要	市内小中学校のネットワークや端末等のＩＣＴ環境の維持管理や、ＩＣＴ環境の変化により業務負担が増加する教員の支援などを行う。		
計画	○学校の通信回線の維持管理、モバイルルーターの購入及び維持管理 ○学校のＩＣＴ環境の維持管理 ○教員の支援	実績・成果	○18校分の通信回線の維持管理 ○特別教室用モバイルルーターの購入・維持管理 ○Googleフォーム、ロイロノート等アプリの活用支援、定期訪問等によるヒアリングの実施
予算	予算総額 48,525,000 円 (内訳) 消耗品費 252,000 円 役務費 5,859,000 円 委託料 39,167,000 円 使用料 0 円 備品購入費 3,247,000 円	決算	決算総額 40,103,453 円 (内訳) 消耗品費 203,216 円 役務費 4,424,990 円 委託料 32,669,037 円 使用料 161,700 円 備品購入費 2,644,510 円
評価	ＩＣＴ環境の維持管理を継続して行うことができた。また、各小中学校にモバイルルータを追加で配備することで特別教室でのネットワーク接続が可能となり、教育の柔軟性と多様性の向上に繋がったと考える。		
課題	学校のデジタル化の進展に伴い、教員の支援の必要性が増している。	今後の方針	引き続き、ＩＣＴ環境の維持管理を行う。また、教員の支援の拡充を検討する。

事業名	中学校整備事業（市立大平中学校玄関庇改修工事）		
大綱施策	なし		
概要	経年劣化により、生徒玄関の庇から建材の剥離が生じていることから改修を実施し、安心・安全な学校運営に努める。		
計画	○玄関庇外壁の全面的な補修	実績・成果	○R5.4.20 実施設計業務委託契約 ○R5.7.18 実施設計業務委託完了 ○R5.8.28 工事契約 ○R5.12.18 工事完成
予算	予算総額 8,129,000 円 (内訳) 委託料 1,999,000 円 工事請負費 6,130,000 円	決算	決算総額 7,799,000 円 (内訳) 委託料 1,144,000 円 工事請負費 6,655,000 円
評価	予定どおりに事業が完了し、生徒の安全性の確保が図られた。		
課題	経年劣化への対応を含め、学校のニーズに合わせた設備改修を、財源の確保を図りながら計画的に実施していく必要がある。	今後の方針	安心・安全な学校運営に資するため、必要な設備改修を計画的に行っていく。

事業名	中学校整備事業（市立中学校消防設備更新工事）		
大綱施策	なし		
概要	経年劣化により川内中学校、脇野沢中学校の一部防火シャッターが作動不良になっていることから改修を実施し、安心・安全な学校運営に努める。		
計画	○防火シャッターの改修	実績・成果	○R5. 4. 20 実施設計業務委託契約 ○R5. 7. 18 実施設計業務委託完了 ○R5. 8. 31 工事契約 ○R6. 2. 22 工事完成
予算	予算総額 15,676,000 円 （内訳） 委 託 料 3,320,000 円 工事請負費 12,356,000 円	決算	決算総額 8,371,000 円 （内訳） 委 託 料 1,705,000 円 工事請負費 6,666,000 円
評価	予定どおりに事業が完了し、生徒の安全性の確保が図られた。		
課題	経年劣化への対応を含め、学校のニーズに合わせた設備改修を、財源の確保を図りながら実施していく必要がある。	今後の方針	安心・安全な学校運営に資するため、必要な設備改修を計画的に行っていく。

事業名	中学校大規模改修事業（市立川内小中学校消火栓給水管・ポンプ改修工事）		
大綱施策	なし		
概要	経年劣化により消火栓給水管から漏水が発生していることから、これを改修するとともに、老朽化が進む消火栓ポンプを更新し、安心・安全な学校運営に努める。 ※R 4 繰越事業		
計画	○消火栓給水管及びポンプの更新 ○関連して必要となる電気設備の改修	実績・成果	○R5. 1. 31 工事契約（明許繰越） ○R5. 12. 15 工事完成
予算	予算総額 9,000,000 円 （内訳） 工事請負費 9,000,000 円 （R4からの繰越予算）	決算	決算総額 8,316,000 円 （内訳） 工事請負費 8,316,000 円 （R4からの繰越予算）
評価	予定どおりに事業が完了し、生徒の安全性の確保が図られた。		
課題	経年劣化への対応を含め、学校のニーズに合わせた設備改修を、財源の確保を図りながら実施していく必要がある。	今後の方針	安心・安全な学校運営に資するため、必要な設備改修を計画的に行っていく。

(2) 教職員の適正・適切な配置

事業名	県費負担職員の任免、服務、その他の人事管理		
大綱施策	なし		
概要	より良い学習環境をつくるため、適正な人事配置を要請するとともに、休暇・休職等の服務管理を行う。		
計画	○県の人事異動方針に基づき、適正な人員配置を要請する。 ○代替教員の配置を適正に行うよう要請する。	実績・成果	○人事異動については、概ね適正な配置が行われた。 ○代替教員の配置については、人材が確保できず配置できない学校もあった。
予算	0 円	決算	0 円
評価	県の指導及び助言等に基づき、概ね適正な配置、管理等がなされているものと考えているが、代替人材の不足等により、一部において定数人員を確保できず、学校に負担が生じている状況にある。		
課題	通常学級において、個別の支援を要する児童生徒に対する、学校からの教員の増員要望に必ずしも応えられていない状況にある。	今後の方針	引き続き、市のスクールサポーターによる対応の強化に努めていくほか、教科指導のできる教員の増員について、県教委へ要望していく。

(3) 通学区域制度の適切な運用及び再編

事業名	むつ市通学区域審議会の設置		
大綱施策	なし		
概要	小学校又は中学校に就学する児童生徒の通学区域の適正化を図るため、通学区域の新設又は改廃に関する事項を調査審議し、その結果を答申する。		
計画	○必要に応じて行う	実績・成果	○なし
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円
評価	令和5年度において審議対象事案がなかった。		
課題	なし	今後の方針	現在、審議対象がなく、設置されていないが、審議対象が生じた場合設置する。

(4) 学校規模の適正化に係る研究・検討

事業名	学校規模適正化のための地域説明会等の開催		
大綱施策	1-(2)-②安全・防災教育の推進		
概要	よりよい教育環境を実現するために、小規模校の統廃合についてPTAや地域住民の理解・協力を得られるよう話し合いの場を設ける。特に大畑地区については、津波等の災害について検討する必要があることから、学校施設の場所やあり方について地域の理解を得られるよう説明会等を開催する。		

計 画	○大畑地区の正津川小学校について統廃合に向け保護者、地区住民への周知を図る。	実 成 績 果 ・	○保護者・住民へ向け広報むつへ統廃合についての文書を折り込む。 ○教職員、保護者、地区住民により閉校記念実行委員会が立ち上げられた。
予 算	予算額 0 円	決 算	決算額 0 円
評 価	正津川小学校について、保護者及び地区住民へ統廃合についてのお知らせを送付した。正津川小学校では教職員、保護者、地区住民により閉校へ向け実行委員会の設置を行った。		
課 題	正津川小学校の統合先の大畑小学校についても、一次避難先であるものの、津波の浸水区域内となっている。	今 後 の 方 針	大畑小学校についても移転の可能性等について、防災担当課と共に検討していく。

(5) 就学困難な児童生徒等に係る就学援助

事業名	要保護児童生徒援助事業		
大綱施策	なし		
概 要	経済的な理由によって就学困難な児童生徒に対して修学旅行費を給付し就学の援助を図る。(生活保護受給世帯)		
計 画	○対象者：13人 ○支給額：1,019,000円	実 成 績 果 ・	○対象者：12人 ○支給額：953,411円
予 算	予算総額 1,019,000 円 (内訳) 小学生(4名) 200,000 円 中学生(9名) 819,000 円	決 算	決算総額 953,411 円 (内訳) 小学生(4名) 192,000 円 中学生(8名) 761,411 円
評 価	要保護世帯には修学旅行費を援助しているが、各校においてコロナ前の内容で実施されていることから、支出額に関しても概ね見込みどおり推移している。		
課 題	年度途中で要保護対象者となる場合があるため、生活福祉課との連携が必要となる。月例の異動報告は月末に一括しての報告となるため、生活保護認定のタイミングによっては就学支援制度認定のタイミングまで時間差が生じる。	今 後 の 方 針	引き続き生活福祉課との連携をしっかりと行う。月例の異動報告だけではなく、随時の異動報告についても検討を実施する。

事業名	準要保護児童生徒援助事業		
大綱施策	なし		
概 要	経済的な理由によって就学困難な児童生徒に対して、学用品費等を給付し就学の援助を図る。		
計 画	○対象者：439人 ○支給額：51,302,340円	実 成 績 果 ・	○対象者：387人 ○支給額：42,670,775円

予 算	予算総額	51,302,340 円	決 算	決算総額	42,670,775 円
	(内訳) 学用品費	8,170,000 円		(内訳) 学用品費	7,241,487 円
	新入学学用品費	6,248,000 円		新入学学用品費	3,424,000 円
	修学旅行費	8,870,000 円		修学旅行費	7,868,507 円
	校外活動費	370,500 円		校外活動費	213,397 円
	給食費	27,643,840 円		給食費	23,923,384 円
評価	修学旅行、宿泊行事等が、各校においてコロナ前の内容で実施されていることから、支出額に関しても概ね見込みどおり推移している。				
課題	認定基準の拡大や支給費目の拡大に対する要望が市民及び市民団体より寄せられていることから、経済的な支援が必要な児童生徒に援助するために財務部と協議の上、検討していく必要がある。		今後の方針	支給費目の拡大及び認定基準の緩和などを検討していく。 自宅等でのリモート学習に係る費用について引き続き研究する。	

事業名	医療的ケア児童生徒就学支援事業				
大綱施策	1-(3)-②特別支援教育の充実				
概要	医療的ケアを必要とする児童生徒の健康の維持・増進及び安全な学習環境の整備を図るため、訪問看護師の派遣による専門的な処置を行う。				
計画	○対象者：1名 ○事業額：1,213,550円 ・週3日まで@5,550×120日＝666,000円 ・週4日以降@6,550×80日＝524,000円 ・延長料金（1日6時間） @5,200×3回＝15,600円 ・緊急訪問看護加算 @2,650×3日＝7,950円	実績・成果	○対象者：1名（小学校2年） ○内 容：血糖値測定及びインスリン注射 ○事業額：1,030,800円 ・週3日まで@5,550×122日＝677,100円 ・週4日以降@6,550×54日＝353,700円 ※対象児童は令和5年4月から医師の指示書のもと血糖値測定とインスリン注射を行った。		
予算	予算総額 1,213,550 円 (内訳) 訪問看護委託料 1,213,550 円	決算	決算総額 1,030,800 円 (内訳) 訪問看護委託料 1,030,800 円 ※決算総額のうち353,000円は国補助額		
評価	対象児童の登校日に加え、遠足等の校外活動を行う日にも訪問看護を実施した。児童の体調面を考慮しつつ、児童が学習活動への参加ができたことから、目的を達成できた。				
課題	事例の蓄積がまだ少なく、宿泊を伴う校外活動等への対応の可否など、未検討の課題も多い。時間的・人力的な制約により、保護者や学校の要望に対応しきれないケースが出てくる懸念される。	今後の方針	児童生徒が安心して通える環境の整備を万全にするため、主治医・保護者・学校・訪問看護事業所・子育て支援課（学校休業日の学童保育における医療的ケア実施担当課）等関係者との連携を密にしながら実施していく。		

事業名	特別支援教育就学奨励事業				
大綱施策	1-(3)-②特別支援教育の充実				
概要	小中学校の特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及、奨励を図ることを目的として奨励費を支給する。				
計画	○対象者：132人 ○支給額：6,583,815円	実績・成果	○対象者：115人 ○支給額：5,535,510円		

予 算	予算総額	6,583,815 円	決 算	決算総額	5,535,510 円
	(内訳) 学用品費	1,012,440 円		(内訳) 学用品費	830,950 円
	新入学学用品費	649,595 円		新入学学用品費	733,520 円
	修学旅行費	551,590 円		修学旅行費	327,990 円
	校外活動費	259,640 円		校外活動費	104,605 円
	通学費	0 円		通学費	0 円
	給食費	4,110,550 円		給食費	3,538,445 円
評価	特別支援学級在籍児童生徒の大半が支給対象（一部辞退者、所得による対象外あり）となっており、保護者の経済的な負担軽減に寄与している。				
課題	生活保護基準の見直しにより、対象者数が大きく変わる場合がある。 年度途中で入級する児童生徒の申請について、学校と連携して対応する必要がある。		今後の方針	今後も対象者に対し適正に支給を行う。	

（６）コミュニティ・スクール制度の推進

事業名	学校運営協議会の設置				
大綱施策	1-(4)-②コミュニティ・スクールの推進				
概要	学校運営協議会を設置し、学校の教育目標、教育方針、教育活動の実施、地域の連携、学校運営に地域の意見を反映させ、開かれた学校づくりを推進する。				
計画	○学校運営協議会実施校 市内全校 ※合同で実施する地区も有り ○実施回数 各校（地区）3回程度を目安とする		実績・成果	○学校運営協議会実施校 市内全校 ・単一校実施 11校 ・地区実施 5地区（10校） ○実施回数 各校（地区） 合計51回実施	
予算	予算総額 1,996,000 円 (内訳) 報酬 480,000 円 費用弁償 1,306,000 円 需用費 210,000 円		決算	決算総額 859,524 円 (内訳) 報酬 230,000 円 費用弁償 629,524 円 需用費 0 円	
評価	授業参観や学校運営の現状についての情報提供・意見交換を主に行っており、学校運営協議会での意見を取り入れ、学校運営等の改善に向けて取り組んでいる。				
課題	学校及び地域関係者において「学校運営協議会」そのもののあり方、考え方に差があるため、制度の意義等に関し、更なる周知徹底を図っていく必要がある。		今後の方針	各学校に対する制度の周知及び活用方法について検討し、併せて先進地区の優良事例等があれば共有する等、学校運営協議会の活性化を図り、よりよい学校運営を目指す。	

（７）奨学金制度の充実

事業名	奨学金貸付事業				
大綱施策	1-(1)-④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進				
概要	当市に住所を有する者の子弟で高等学校又はそれと同等以上の学校に修学している者に対して、修学上必要な学費の一部を貸与し、人材の育成を図る。				

計 画	○貸 与 ・高 校 生：2,520,000円 （継続4人、新規10人 計14人） ・大学生等：43,920,000円 （継続82人、新規40人 計122人） ○返 還 ・現年度分：36,450,000円 ・滞 納 分：18,678,000円	実績・成果	○貸 与 ・高 校 生：1,080,000円 （継続4人、新規2人 計6人） ・大学生等：34,440,000円 （継続79人、新規18人 計97人） ○返 還 ・現 年 度分：35,535,000円 ・繰上返還分：5,970,000円 ・滞 納 分：2,756,000円
予 算	予算総額 87,769,000 円 （内訳） 委 員 報 酬 59,000 円 費 用 弁 償 104,000 円 需 用 費 12,000 円 役 務 費 33,000 円 委 託 料 184,000 円 貸 付 金 46,440,000 円 積 立 金 40,937,000 円	決 算	決算総額 81,320,038 円 （内訳） 委 員 報 酬 32,500 円 費 用 弁 償 30,985 円 需 用 費 5,533 円 役 務 費 0 円 委 託 料 0 円 貸 付 金 35,520,000 円 積 立 金 45,731,020 円
評 価	令和5年度は新規20名を含む103名への貸与を行った。新規で応募のあった者は、全員貸与対象者となった。		
課 題	本奨学金はあくまで貸与型であり、貸与額も高校生で月額1万5千円、大学生等で月額3万円とやや少額であるが、無利子で返還しやすいこともあり、修学に係る経済的負担を軽減する制度の一つとして求められている。他の制度と併用している方が多いため、国や県、他自治体の動向を注視し、給付型奨学金の創設を含め奨学金制度の見直しについて調査研究していく必要がある。 経済的理由により進学を断念することがないように、市内の中学校及び高等学校の生徒や保護者、学校関係者に対して十分に制度を周知していく必要がある。	今後の方針	給付型奨学金の実施には新たな財源が必要となるため現状では難しい。他の制度と併せて検討し利用してもらえるよう、引き続き周知・運用していく。 加えて、国や県、他自治体等の多様な取組を参考に、進学を望む生徒たちのよりよい将来を考え、制度設計や運用について柔軟に検討していく。

○貸与金 （単位：人、円）

区 分		貸与者数	貸与額
高校生	継続貸与者	4	720,000
	新規貸与者	2	360,000
大学生等	継続貸与者	79	27,960,000
	新規貸与者	18	6,480,000
合計		103	35,520,000

○育英基金の状況

歳 入	前年度末残高	176,986,614
	奨学金貸付金元金収入	44,261,000
	緊急支援金貸付金元金収入	1,470,000
	寄附金	0
	預金利息・運用利息	3,529
	今年度歳入合計	222,721,143
	今年度奨学金貸与貸付金	35,520,000
今年度末基金残高		187,201,143

事業名	むつ市大学医学部修学助成金交付事業（未来人材育成奨学金プロジェクト）		
大綱施策	1-(1)-④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進		
概要	市内の高等学校から大学に進学し、医学を履修する課程を修学する者に対し、修学上必要な学費の一部を助成し、将来医師となる人材を育成するとともに、市の医師不足の解消、明確な目的を持った学習による高校生の学力向上を図る。		
計画	○募集人数：6人 （継続5人、新規1人） ○助成金額：3,000,000円 （1人当たり500,000円）	実績・成果	○決定人数：5人 （継続5人、新規0人） ○助成金額：2,500,000円 （1人当たり500,000円）
予算	予算総額 3,000,000 円 （内訳） 助 成 金 3,000,000 円	決算	決算総額 2,500,000 円 （内訳） 助 成 金 2,500,000 円
概要	市内の高等学校から大学に進学し、医学を履修する課程を修学する者に対し、修学上必要な学費の一部を助成し、将来医師となる人材を育成するとともに、市の医師不足の解消、明確な目的を持った学習による市内の高等学校の学力の向上を図る。		
評価	令和5年度は新規交付申請はなく、継続者からの申請に基づき5名に交付した。まだ実際に医師になった対象者がいないため、評価が難しい面もあるが、医学部修学に係る経済的負担を軽減することで、将来医師となる人材の育成に寄与していると考ええる。		
課題	当市の医師不足の解消につなげることが本事業の趣旨の一つであるが、それが「しほり」のように感じられ、学生の負担となるという市民からの指摘もあった。 また、毎年度目標値を掲げてはいるが、新規の申請者数の増減を予測しづらい面もある。	今後の方針	本制度については市民の意見や地域の実情を踏まえ検討していくこととする。

（８）学校保健の充実

事業名	健康診断委託事業		
大綱施策	1-(2)-①健康な体を育む学校づくり		
概要	学校保健安全法の規定により、当該児童生徒並びに教職員（県費）の健康管理及び健康維持のために健康診断を毎年定期に実施する。		
計画	○対象児童生徒数：3,563人 ○対象教職員数：306人	実績・成果	○受診児童生徒数：3,472人 ○受診教職員数：260人 ※未受診者は、個別に人間ドック等を受診
予算	予算総額 8,121,878 円 （内訳） 委託料内訳 尿 検 査 712,600 円 心電図検査 1,800,000 円 貧 血 検 査 506,748 円 教職員健診 4,896,920 円 教職員ストレスチェック 205,610 円	決算	決算総額 7,248,805 円 （内訳） 委託料内訳 尿 検 査 694,400 円 心電図検査 1,803,000 円 貧 血 検 査 469,480 円 教職員健診 3,875,985 円 教職員ストレスチェック 405,940 円

評価	教職員健康診断は毎年全4日間（内1日は脇野沢診療所）で実施しており、今年度も発熱等で受診できなかった人のために当初予定よりも2日追加し、希望者が受診できるようにした。海外赴任している教職員については、個別に病院と契約し、年度末までに健診を実施することができた。県費負担教職員441人の内、教職員健康診断受診者数は260人、受診率は58.9%（ドック、ヤングヘルス等受診者を除く）。		
課題	教職員健康診断について、平日の早朝に実施後、通常勤務のため、体力的に厳しいという声が上がっている。そのため、夏休み等の実施を検討する必要がある。	今後の方針	教職員健康診断について、実施時期を青森県総合健診センターと相談の上、見直していく。

事業名		学校医委託事業	
大綱施策		1-(2)-①健康な体を育む学校づくり	
概要		学校における児童生徒及び教職員の健康の保持増進を図るよう各種健康診断や健康相談業務を行うため、学校保健安全法の規定に基づき、産業医、学校医及び学校歯科医並びに学校薬剤師を委嘱する。	
計画	○学校医 ・児童生徒400人以下 @ 226, 000 円×16 人 ・児童生徒401人以上700人以下 @ 293, 800 円×10 人 ○学校歯科医 ・児童生徒数500人以下 @ 224, 000 円×18 人 ・児童生徒数501人以上 @ 291, 200 円×1 人 ○学校薬剤師 @ 157, 000 円×21 人 ○産業医 ・教職員数50人以上 @ 360, 000 円× 1 人 ○眼科耳鼻科医 (川内・大畑・脇野沢検診) ・眼科医 (大畑) @ 200, 000 円× 1 人 ・眼科医 (川内・脇野沢) @ 100, 000 円× 2 人 ・耳鼻科医 (大畑) @ 200, 000 円× 1 人 ・耳鼻科医 (川内・脇野沢) @ 100, 000 円× 2 人	実績・成果	○学校医 ・児童生徒400人以下 @ 226, 000 円×14 人 ・児童生徒401人以上700人以下 @ 293, 800 円× 7 人 ○学校歯科医 ・児童生徒数500人以下 @ 224, 000 円×17 人 ・児童生徒数501人以上 @ 291, 200 円× 1 人 ○学校薬剤師 @ 157, 000 円×21 人 ○産業医 ・教職員数50人以上 @ 360, 000 円× 1 人 ○眼科耳鼻科医 (川内・大畑・脇野沢検診) ・眼科医 (大畑) @ 200, 000 円× 1 人 ・眼科医 (川内・脇野沢) @ 100, 000 円× 2 人 ・耳鼻科医 (大畑) @ 200, 000 円× 1 人 ・耳鼻科医 (川内・脇野沢) @ 100, 000 円× 2 人
予算	予算総額 15, 334, 000 円 (内訳) 委託料内訳 学校医 6, 554, 000 円 学校歯科医 4, 323, 200 円 学校薬剤師 3, 297, 000 円 産業医 360, 000 円 眼科耳鼻科医 800, 000 円	決算	決算総額 14, 906, 800 円 (内訳) 委託料内訳 学校医 6, 350, 600 円 学校歯科医 4, 099, 200 円 学校薬剤師 3, 297, 000 円 産業医 360, 000 円 眼科耳鼻科医 800, 000 円
評価	委嘱等も滞りなく行い、医師会等としっかりと連携がとれた。		
課題	学校医の委嘱が遅れないよう、医師会との連携をしっかりと行う必要がある。	今後の方針	健康診断の日程調整前に医師会に確認を行う。

事業名	学校災害共済給付事業		
大綱施策	1-(2)-①健康な体を育む学校づくり		
概要	保護者の同意を得て文部科学省が所管する日本スポーツ振興センターとの間に災害共済給付契約を締結し、学校管理下の災害に対して児童生徒に当該医療費を給付する。		
計画	○日本スポーツ振興センター 災害共済掛金（1人当たり） ・一般：935円 ・要保護：55円	実績・成果	○日本スポーツ振興センター 災害共済掛金（加入者数：3,544人） ・一般：935円（市負担：475円） ・準要保護：935円（全額市負担） ・要保護：55円（全額市負担） ※R2年度からは準要保護は計上しない。 ○日本スポーツ振興センター災害共済 ・災害発生件数：201件 ・医療費給付額：1,372,845円
予算	予算総額 3,314,300 円 （内訳）負担金内訳 一般・準要保護 3,288,395 円 要保護 2,530 円 転入者分 23,375 円	決算	決算総額 3,228,490 円 （内訳）負担金内訳 一般 3,107,005 円 準要保護 119,145 円 要保護 2,340 円 転入者分 0 円
評価	学校管理下の災害に対して、日本スポーツ振興センターの災害共済に加入していることで、医療費を給付するものである。18歳未満の医療費無償化開始に伴いむつ市の財政負担が大きくなるため、学校災害に限り窓口負担のうえ4割給付の内1割は療養に要する費用としての加算分の申請をするよう周知が必要。現在、保護者では無く学校が主体となって病院との事務手続きを行っており、むつ市の子ども医療費給付事業と併用して窓口負担が無かったとしても加算分1割分が給付されるため、実際に制度を利用した保護者から好評を得た。認知度が低く、1回の通院で治療終了した児童へも利用の呼びかけが課題。		
課題	給付の請求漏れがないよう、保護者の制度への認知、理解度を深めることが必要となる。	今後の方針	給付制度について、保護者の理解、認知度を高めるため、学校を通じ制度の周知を図る。

事業名	学校保健会補助事業		
大綱施策	1-(2)-①健康な体を育む学校づくり		
概要	学校保健安全教育を推進し、地域社会の協力を得て心身ともに健全な児童、生徒の育成に寄与することを目的としたむつ市学校保健会及びむつ下北学校保健会に協賛する。		
計画	○負担金 ・むつ市学校保健会 20,000円 ・むつ下北学校保健会 108,445円	実績・成果	○負担金 ・むつ市学校保健会 20,000円 ・むつ下北学校保健会 108,445円
予算	予算総額 128,445 円 （内訳）負担金 128,445 円	決算	決算総額 128,445 円 （内訳）負担金 128,445 円
評価	学校保健会への負担金を通して、学校保健関係の研修等を実施することができた。研修を通して医療・学校現場での保健教育の意識向上に寄与していると考ええる。		
課題	負担金の大半が、むつ下北学校保健会への支出であるため、圧縮が難しい。	今後の方針	むつ下北学校保健会の決算状況を精査していく。

【参考】肥満傾向児数及び肥満傾向児出現率

1. 令和4年度

男 子	むつ市	単位	小 学 校								中 学 校			
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		1年	2年	3年	計
			176	197	216	211	207	251	1,258		191	229	203	623
女 子	むつ市	人	受検者数											
			軽肥満（肥満度20%以上30%未満）	12	13	20	20	19	24	108	21	21	17	59
			中等度肥満（肥満度30%以上50%未満）	6	16	17	19	21	30	109	14	13	13	40
			高度肥満（肥満度50%以上）	5	4	13	14	8	10	54	7	10	10	27
			肥満計	23	33	50	53	48	64	271	42	44	40	126
		%	肥満傾向児出現率	13.07	16.75	23.15	25.12	23.19	25.50	21.54	21.99	19.21	19.70	20.22
			青森県肥満傾向児出現率	9.90	12.30	17.80	20.10	19.90	21.00		18.10	16.50	15.50	
			全国肥満傾向児出現率	5.74	8.02	11.14	13.17	15.11	13.95		13.27	12.25	11.31	

※出典：令和4年度学校保健統計調査、むつ市学校保健会報第46号

2. 令和5年度

男 子	むつ市	単位	小 学 校								中 学 校			
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		1年	2年	3年	計
			173	173	192	208	208	202	1,156		244	193	226	663
女 子	むつ市	人	受検者数	9	20	24	26	18	22	119	21	16	15	52
			軽肥満（肥満度20%以上30%未満）	8	10	13	24	26	21	102	26	13	14	53
			中等度肥満（肥満度30%以上50%未満）	2	3	8	10	11	10	44	12	8	9	29
			高度肥満（肥満度50%以上）	19	33	45	60	55	53	265	59	37	38	134
			肥満計	10.98	19.08	23.44	28.85	26.44	26.24	22.92	24.18	19.17	16.81	20.21
		%	肥満傾向児出現率											
			青森県肥満傾向児出現率											
			全国肥満傾向児出現率											

※むつ市内小中学校データより抜粋

青森県及び全国肥満傾向児出現率は、令和5年度に限り令和6年11月頃公表予定

（注） 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、
肥満度が20%以上の者である。

肥満度＝（実測体重－身長別標準体重）／身長別標準体重×100（％）

事業名	学校災害入院補償事業		
大綱施策	1-(2)-①健康な体を育む学校づくり		
概要	児童生徒が学校管理下において発生した事故で負傷し入院した場合に、当該児童生徒へ入院補償保険金（見舞金）を支払う。		
計画	○入院日数別の補償金額及び想定件数 ・15日以下：10,000円×8件 ・16日以上30日以下：20,000円×2件	実績・成果	○入院日数別の補償金額及び想定件数 ・15日以下：10,000円×3件 ・16日以上30日以下：20,000円×0件
予算	予算総額 120,000 円 （内訳） 補償補填 120,000 円	決算	決算総額 30,000 円 （内訳） 補償補填 30,000 円
評価	滞りなく3件分の給付ができた。学校管理下における入院が伴う負傷件数は昨年より1件減少した。		
課題	給付の請求漏れがないよう保護者の制度への認知、理解度を深めることが必要となる。	今後の方針	給付制度について、保護者の理解、認知度を高めるため、学校を通じ制度の周知を図る。

（９）学校給食の充実

事業名	学校給食管理事業		
大綱施策	1-(2)-①健康な体を育む学校づくり		
概要	共同調理場3施設、単独調理場9施設において「安全・安心」な給食を提供するため、学校給食運営及び給食施設の維持管理を行う。		
計画	市直営の共同調理場2施設、単独調理場9施設の維持管理を行う。また、1共同調理場施設の調理・運搬業務を委託をする。市内小中学校21校に「安全・安心」な給食を提供する。	実績・成果	児童生徒への安全・安心な給食を提供するために、安全管理及び衛生管理に努めた。また、調理員等の衛生管理の徹底を行い、食中毒等の発生予防を行った。
予算	予算総額 185,537,000 円 （内訳） 給料 67,201,000 円 職員手当 10,506,000 円 需用費 26,493,000 円 役務費 2,951,000 円 委託料 78,331,000 円 工事請負費 0 円 原材料費 0 円 負担金 40,000 円 公課費 15,000 円	決算	決算総額 182,126,075 円 （内訳） 給料 68,786,211 円 職員手当 10,085,827 円 需用費 22,261,328 円 役務費 2,469,099 円 委託料 77,996,000 円 工事請負費 454,960 円 原材料費 18,150 円 負担金 39,500 円 公課費 15,000 円
評価	「安全・安心」な給食を提供することができた。また、学校給食運営及び給食施設の維持管理を安全に行うことができた。		
課題	食中毒等事故防止のため、調理場及び学校内での衛生管理に努めているが、老朽化した調理施設が多く、衛生環境の維持が困難になってきている状況である。近年、食物アレルギーを有する児童生徒が増加傾向にあり、独立した調理スペースを確保できず、十分な対応とはいえない状況である。	今後の方針	現在の調理施設の機能維持に必要な修繕等を実施しつつ、衛生管理基準に適合したアレルギー対応が可能な（仮称）むつ市防災食育センター運営の準備を進めていく。

事業名	学校給食設備整備事業		
大綱施策	1-(2)-①健康な体を育む学校づくり		
概要	「安全・安心」な学校給食を提供するため、耐用年数の超過した調理機器・用具の修繕又は購入をとおして調理環境の整備を図る。		
計画	○現有機器の修繕及び点検・調整等 ○老朽機器の更新	実績・成果	○現有機器の修繕及び点検・調整等・修繕（ガス回転釜部品交換等） 24件 2,410,000円 ○老朽機器の更新（牛乳保冷库購入等） 7件 1,528,670円
予算	予算総額 3,576,000 円 （内訳） 需用費 1,270,000 円 役務費 88,000 円 備品購入費 2,218,000 円	決算	決算総額 4,122,585 円 （内訳） 需用費 2,405,150 円 役務費 188,765 円 備品購入費 1,528,670 円
評価	「安全・安心」な学校給食を提供するため、調理機器・用具の修繕等を行い、調理環境の整備が図られた。		
課題	耐用年数が過ぎた機器が多いため故障が多く、修繕費が嵩む傾向にある。	今後の方針	老朽化した調理機器等の修繕を行いつつ、衛生管理基準に適合できる（仮称）むつ市防災食育センターの運営準備を進めていく。

事業名	（仮称）防災食育センター建設事業		
大綱施策	1-(2)-①健康な体を育む学校づくり		
概要	平時は食育の推進及び高度な衛生管理による安全な学校給食を提供し、有事の際には防災機能を果たすことができる総合的施設を建設し、学校給食と防災両面の環境改善・向上を図る。		
計画	令和7年度供用開始に向け、本体建設工事と付随する工事監理等、支障となる旧関根中学校プール棟の解体工事、給食配送車両の購入を行うほか、補助金申請にあたり東北防衛局との調整を行う。	実績・成果	○R5.4.24 補助金交付決定 ○R5.6.30 本体工事契約（継続費） ○R5.7.26 工事監理業務委託契約（Ⅱ） ○R5.7.28 設計意図伝達業務委託契約（Ⅱ） ○R5.7.12 プール棟解体工事契約 ○R5.9.15 給食配送車購入契約（R6債務負担） ○R5.12.7 プール棟解体工事完了 ○R5.12.11 プール給水管分岐部撤去工事契約 ○R6.1.12 搬入口改修単価入替業務委託契約 ○R6.2.29 プール給水管分岐部撤去工事完了 ○R6.3.2 補助金交付（概算） ○R6.3.19 搬入口改修単価入替業務委託完了
予算	予算総額 440,608,000 円 （内訳） 旅費 1,060,000 円 需用費 61,000 円 委託料 2,295,000 円 工事請負費 437,187,000 円	決算	決算総額 427,875,749 円 （内訳） 旅費 123,780 円 需用費 60,569 円 委託料 1,133,000 円 工事請負費 426,639,800 円
評価	令和7年度供用開始に向け、スケジュールどおりに進捗している。		

課題	令和7年4月の操業に向け、建設工事をはじめとしたハード面、運用方法の決定をはじめとしたソフト面ともに、限られた期間内に漏れなく進めていく必要がある。	今後の方針	工事については資材納期の長期化を念頭に、随時進捗状況を把握しながら進めていく。運営面では運営方法（直営・委託）を早期に決定し、操業に必要な検討を行う。
----	--	-------	---



(仮称)むつ市防災食育センターイメージ図



令和6年3月末現在

(10) 教職員の働き方改革

事業名	勤怠管理ソフト付きタイムレコーダー導入事業		
大綱施策	なし		
概要	教職員の働き方改革への取り組みの一つとして教職員の勤務時間を客観的な方法により把握するため市内全小中学校に勤怠管理ソフト付きタイムレコーダーの導入を行う。		
計画	市内全小中学校に勤怠管理ソフト付きタイムレコーダーを設置、専用のソフトウェアにて勤務時間の集計を行う。	実績・成果	○R5.5.31 入札終了 ○R5.6.7 納入業者との打ち合わせ ○R5.7.24～ 各学校へタイムレコーダー設置 ○R5.9.1 テスト運用開始 ○R5.12～R6.1 有線LAN接続作業 ○R6.2～R6.3 マニュアル作成・配付
予算	予算総額 6,860,000 円 (内訳) 需用費 1,334,000 円 役務費 208,000 円 備品購入費 5,318,000 円	決算	決算総額 4,378,572 円 (内訳) 需用費 718,212 円 役務費 0 円 備品購入費 3,660,360 円
評価	令和6年度からの運用開始に向けて、機器の設置及びマニュアルの作成・配付を終えた。		
課題	把握した教職員の勤務時間をもとに、どのように削減を進めていくのか、具体的な方策を検討する必要がある。	今後の方針	令和6年度中に得られるデータも踏まえて、教職員の働き方改革の施策を検討していく。

■ 総務課の重点項目の総括評価 ■

計画に沿った事業の実施を行う事ができた。
 引き続き、各事業の継続、点検及び評価を行い、事業実施に努めていく。
 今後については、教職員の働き方改革が求められる中、各学校の意見を聴取し、教育現場における健全な労働環境の実現が図られるよう努めていく必要がある。

2 生涯学習課

■ 具体的な取組の評価 ■

(1) 生涯学習の推進

事業名		社会教育委員の設置	
大綱施策		2-(1)-②生涯を通じた学びの推進	
概要	社会教育法第15条1項の規定に基づき、社会教育に関する諮問に対して意見を述べ、諸計画の立案を行うため必要な研究調査を行い、教育委員会に助言することができる社会教育委員を配置し、生涯学習活動の充実を図る。		
計画	○委員定数 13人以内 ○任命期間 2年間 ○会議 ・むつ市社会教育委員会議 ・下北地区社会教育委員連絡協議会 ・青森県社会教育委員連絡協議会 ○団体構成 ・青森県社会教育委員連絡協議会及び下北地区社会教育委員連絡協議会の構成団体として活動する。 ○研修 ・資質向上のため各種研修会へ参加する。	実績・成果	○委員定数 12人 ○任命期間 令和5年10月1日～令和7年9月30日（2年間） ○会議開催 ・むつ市社会教育委員会議 2回 ・下北地区社会教育委員連絡協議会 3回 ・青森県社会教育委員連絡協議会 4回 ○研修参加 ・青森県社会教育研究大会 1回 ・下北地区社会教育研究会 佐井大会 1回
予算	予算総額 750,000 円 (内訳) 報酬 468,000 円 費用弁償 251,000 円 消耗品 20,000 円 負担金 11,000 円	決算	決算総額 555,034 円 (内訳) 報酬 305,500 円 費用弁償 227,553 円 消耗品 10,981 円 負担金 11,000 円
評価	社会教育委員から教育委員会で実施している事業における実績及び計画に関する意見、要望をいただき、今後の事業への参考となった。また、事業実施についてもご協力いただき、生涯学習活動の充実を図ることができた。		
課題	社会教育委員の育成が必要である。	今後の方針	会議や研究大会などへの参加を促すことで研鑽する機会を提供する。令和6年度は社会教育研究大会東北大会が青森市で開催されることから機運の醸成を図る。

事業名	社会教育指導員による学習支援		
大綱施策	2-(1)-②生涯を通じた学びの推進		
概要	社会教育指導員を配置し、社会教育活動の充実を図る。		
計画	○社会教育指導員を1人配置する。	実績・成果	○社会教育指導員の配置：1人 ・任期：令和5年4月1日～令和6年3月31日 ・社会教育団体に関する情報収集 ・自然観察会の企画、実施 ・地域学校協働活動の企画、実施 ・学習相談への対応 ・「むつ市の社会教育行政」の作成
予算	予算総額 2,117,000 円 (内訳) 報酬 1,748,000 円 職員手当等 191,000 円 費用弁償 178,000 円	決算	決算総額 2,151,086 円 (内訳) 報酬 1,794,478 円 職員手当等 203,008 円 費用弁償 153,600 円
評価	市民ニーズを把握するため、主催事業参加者からの聞き取りやアンケート調査を行っている。この結果を参考に事業内容を精査し、企画立案、実行しているため、社会教育活動の充実を図ることができた。		
課題	教員免許取得者や社会教育業務経験者等、業務内容に専門性が求められる。	今後の方針	多様化している市民ニーズの把握に努め、企画立案等につなげる。また、社会教育に係る課題や活動を周知していく。

事業名	二十歳の集い		
大綱施策	2-(1)-②生涯を通じた学びの推進		
概要	二十歳を迎える若者を祝福し、将来を担う市民としての自覚を促す。		
計画	○対象者（見込） 469人 ※平成15年4月2日から平成16年4月1日生まれの市内在住及び市外在住の参加希望者	実績・成果	○式典開催日 令和6年1月7日（日） ○式典開催場所 下北文化会館 ○参加者 376人
予算	予算総額 777,000 円 (内訳) 報 償 費 100,000 円 費用弁償 20,000 円 消 耗 品 382,000 円 印刷製本費 136,000 円 食 糧 費 25,000 円 役 務 費 61,000 円 委 託 料 53,000 円	決算	決算総額 928,734 円 (内訳) 報 償 費 166,500 円 費用弁償 112,980 円 消 耗 品 350,186 円 印刷製本費 126,720 円 食 糧 費 40,238 円 役 務 費 78,650 円 委 託 料 53,460 円
評価	当市出身者で全国で活躍する方々やオープニングを飾る鼓隊演奏をした市内保育園児からのメッセージ等は、二十歳を迎える若者にむつ市民としての自覚を促す一助となった。		
課題	企画内容が二十歳を迎える若者へ押しつけにならないよう慎重な検討が必要である。	今後の方針	対象者自らが企画・運営に参画する実行委員会を立ち上げ、心に残る集いになるよう努める。

事業名	自然観察会の開催		
大綱施策	2-(1)-③学校・家庭・地域の連携による教育活動の推進と人材育成		
概要	生き物同士のつながり、人との関わりあいなどの「自然の見方」を体験しながら、自然の魅力を学んでいただく自然観察会を開催する。		
計画	○季節ごとの観察会を開催する。 募集人数 春（自然観察）：20人 夏（天体観察）：20人 秋（自然観察）：20人 冬（鳥類観察）：20人	実績・成果	○春（自然観察）：芦崎 令和5年5月21日 参加者16人 ○夏（天体観察）：ウェルネスパーク・はらっぱる 令和5年8月25日 参加者18人 ○秋（自然観察）：川内川溪谷 令和5年10月14日 参加者17人 ○冬（野鳥観察）：川内川周辺 令和6年1月21日 参加者10人
予算	予算総額 50,940 円 （内訳）報 償 費 45,000 円 費用弁償 5,940 円	決算	決算総額 32,896 円 （内訳）報 償 費 30,000 円 費用弁償 2,896 円
評価	参加者からは好評をいただいていることから、市民からの要望に応えられた。		
課題	事業内容の周知に工夫が必要。	今後の方針	市民の学習ニーズを把握し、内容、周知方法を検討する。

（２）学校・家庭・地域の連携による教育活動の推進

事業名	地域学校協働活動推進事業		
大綱施策	2-(1)-③学校・家庭・地域の連携による教育活動の推進と人材育成		
概要	地域と学校が連携・協働し、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指すため各種事業を実施し、地域との連携を図っていく。		
計画	○年に3回、事業計画の策定や情報交換の場として、「むつ市地域学校協働本部運営委員会」を開催する。 ○地域学校協働本部の推進員等を事業毎に配置調整し、事業を実施する。 ○費用負担：（国1/3、県1/3、市1/3）	実績・成果	○運営委員会：委員13人 会議開催3回 ○地域学校協働本部推進員等登録12人 任期：令和5年4月1日～令和6年3月31日 ○内容 ・学校支援ボランティア2回 ・子どもの学び応援隊育成研修会1回 ・地域講座7回 ・子ども教室数：3教室 大湊小学校24回 脇野沢小学校50回 体験型移動子ども教室6回

予 算	予算総額	3,444,000 円	決 算	決算総額	2,234,212 円
	(内訳) 報 償 費	2,418,000 円		(内訳) 報 償 費	1,398,083 円
	費用弁償	285,000 円		費用弁償	166,254 円
	需用費	392,000 円		需用費	338,960 円
	役 務 費	212,000 円		役 務 費	180,545 円
	備品購入費	137,000 円		備品購入費	150,370 円
評価	子ども教室への参加児童は例年通りの参加率となっている。子ども教室以外でも地域の人々も参加できる事業を行い、参加者の満足度は総じて高いことから目的は達成された。				
課題	地域全体で子供たちの学びや成長を支えることについて実践に移せるよう働きかける必要がある。		今後の方針	地域連携を重視し、地域人材の掘り起こしなど、継続的な活動に繋がる要素を確実に実施していく。	

(3) 社会教育施設の機能充実

事業名	むつ市海と森ふれあい体験館の管理・運営				
大綱施策	2-(1)-②生涯を通じた学びの推進				
概要	本施設は、川内地区の情報発信と豊かな自然にふれあいながら学ぶことを目的とした社会教育施設である。指定管理者制度を導入し、地域教育をはじめ地域と連携した事業展開を推進することで集客を図り、安定した施設運営を目指す。				
計画	【指定（主催）事業】 ○常設展示 ・貝殻の常設、企画展示及び貝殻を使ったワークショップ ・海の生物展示及びワークショップ 【自主事業】 ○むつ・小川原地域産業振興プロジェクト支援助成事業 (川内町アクティビティ振興事業でのプロモーションビデオ作成及び発信)	実績・成果	【指定管理者】 NPO法人シェルフオレスト川内 【指定管理期間】 令和6年4月1日～令和9年3月31日 【年度中の施設利用者（人数）】 10,115人 【事業実施状況】 ○常設展示 ・「山口和雄コレクション世界の貝」 (世界の貝殻約100種) ・海の生きものの生態展示 「下北の自然 むつ湾の生きもの」 「陸奥湾のイルカとジオパーク」 【自主事業】 ○むつ・小川原地域産業振興プロジェクト支援助成事業 (川内町アクティビティ振興事業でのプロモーションビデオ撮影：8月11日)		
予 算	予算総額	6,267,000 円	決 算	決算総額	6,245,000 円
	(内訳) 委 託 料	6,025,000 円		(内訳) 委 託 料	6,025,000 円
	備品購入費	242,000 円		備品購入費	220,000 円
評価	事業の開催がコロナ禍以前より多く実施され、それに伴い利用者の増加が見られたことから目的は達成された。				
課題	エアコン、自動ドアの故障が頻発するため、交換が急務。	今後の方針	利用者の増加を図り、西通地区の拠点の施設を目指す。 施設の修繕について、川内庁舎と連携して対応していく。		

事業名	むつ市下北自然の家の管理・運営		
大綱施策	2-(1)-②生涯を通じた学びの推進		
概要	本施設は、生涯学習の拠点として食事提供及び宿泊機能を備えた社会教育施設である。指定管理者制度を導入し、豊かな自然環境を活用し利用者のニーズに対応した質の高いサービスの提供等で安定した施設運営を目指す。		
計画	【指定（主催）事業】 ○四季を通して、様々な体験活動を楽しみながら、参加者同士や親子のふれあいを深めることを目的とする事業等 【自主事業】 ○健康づくり事業 ○伝統体験事業 【受入事業】 ○小中学校や団体の受入れ（施設周辺の自然観察学習・体験学習）	実績・成果	【指定管理者】 一般財団法人むつ市教育福祉振興会 【指定管理期間】 令和5年4月1日～令和8年3月31日 【施設の利用状況】（総数） ○利用団体数 258団体 ○利用者実人数 4,732人 ○利用者延人数 6,379人 ○宿泊者人数 3,137人 【指定（主催）事業】 ○春のイベント 里山ふれあいウォッチング（施設周辺の自然観察学習） ○夏のイベント 雨の一粒ハイキング（雨の一粒が海に流れつくまでをイメージした自然体験学習） ○秋のイベント 下風呂漁港での釣り体験学習 ○冬のイベント そりやタイヤチューブを使用した冬遊び体験学習 等29事業 【自主事業】 ○健康づくり事業 身体作りを食事と運動面から学ぶ ○伝統体験事業 そば打ちやべこ餅づくり 等12事業 【受入事業】 ○小中学校や団体の受入れ 施設周辺の自然観察学習・体験学習 120件
予算	予算総額 91,198,000 円 （内訳） 需用費 434,000 円 委託料 90,688,000 円 使用料 76,000 円	決算	決算総額 91,635,364 円 （内訳） 需用費 872,124 円 委託料 90,688,000 円 使用料 75,240 円 ※決算総額のうち75,200,000円は国庫補助金
評価	主催事業、自主事業ともにニーズに合わせ見直しをしながら実施していた。なお、利用者からの評価は高く、リピーターもいることから目的は達成された。		
課題	建物の老朽化による修繕等を必要とする箇所が多い。また、備品についても利用者の安全面から更新が必要。	今後の方針	建物の修繕と備品の更新を計画的に進める。

(4) 芸術・文化活動の奨励と振興

事業名	むつ市文化賞・文化奨励賞受賞者作品展示		
大綱施策	2-(1)-④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実		
概要	むつ市表彰条例に基づき、むつ市において主に文化芸術分野で著しい功績をあげた方を文化及び文化奨励賞の対象者として選定、推薦し、審査会に諮る。 また、受賞者の功績を広く市民に紹介するため受賞者紹介展を開催する。		
計画	むつ市の文化賞・文化奨励賞対象者を抽出選定し、推薦する。 また、受賞者が出た場合は受賞者紹介展を開催する。	実績・成果	○文化賞対象者1名推薦・受賞：星 和夫 氏 ○文化賞受賞者記念紹介演奏会 ・期間：令和5年11月25日 ・会場：中央公民館講堂
予算	予算総額 78,000 円 (内訳) 報 償 費 45,000 円 消耗品費 26,000 円 役 務 費 7,000 円	決算	決算総額 16,290 円 (内訳) 報 償 費 5,000 円 消耗品費 11,290 円 役 務 費 0 円
評価	文化賞の対象となる顕著な活動をした個人を選出・推薦し、受賞に繋げることができた。		
課題	文化芸術の分野において、地域に根ざした活動をしている候補者選定が年々難しくなっている。	今後の方針	社会教育団体等から情報収集するなど、幅広く候補者の洗い出しを図る。

事業名	東京藝術大学出身演奏家による芸術鑑賞教室		
大綱施策	2-(1)-④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実		
概要	東京藝術大学（アドバイザー：佐野教授）の協力のもと、新進気鋭の若手演奏家を派遣いただき、小中学生の豊かな情操を育む。		
計画	○東京藝術大学出身の若手演奏家を市内小中学校に招聘し、鑑賞教室を開催。 音楽をとおして児童生徒と交流する。	実績・成果	○講師 ・佐野 靖 教授 ・石本高雅 氏（バリトン） ・加藤 凜 氏（ソプラノ） ・伊達広輝 氏（ピアノ） ・市川友佳子 氏（ヴィオラ） ○令和5年7月11日 ・大平小学校、脇野沢小・中学校 ○令和5年7月12日 ・第一田名部小学校
予算	予算総額 674,000 円 (内訳) 報 償 費 315,000 円 旅 費 355,000 円 需用費 4,000 円	決算	決算総額 555,160 円 (内訳) 報 償 費 210,000 円 旅 費 342,100 円 需用費 3,060 円
評価	開催した学校からは、事業をきっかけに楽器に興味を持ち、校内にある楽器を使用し演奏を始める児童生徒がいるという意見をいただいている。市内各学校には、毎年意向調査を行っており、次回以降も参加したいという調査結果がでていることから、児童生徒の情操教育に寄与できた。		
課題	実施当日の演奏者のスケジュールを余裕を持って組むことが必要。	今後の方針	ハイレベルの演奏を間近で見聞することができ、児童生徒にとって貴重な経験であることから今後も継続していく。

(5) 郷土の文化遺産の保護・保存と活用

事業名	むつ市の芸術、文化団体、民俗芸能の保存と伝承等支援事業		
大綱施策	2-(1)-④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実		
概要	市内の芸術文化団体（28団体）で組織されたむつ市文化団体協議会の市民文化祭開催事業に補助金を交付し、芸術文化活動の振興を図る。民俗芸能の伝承団体等に対し、保存、伝承活動に関する助成金等の情報を提供し、活動を支援する。		
計画	○「市民文化祭」などの事業に対して活動費等の補助を行う。 ○民俗芸能の伝承団体に対し、保存、伝承活動に関わる補助及び助成金に関する情報を提供し、活動を支援する。	実績・成果	○第52回むつ市民文化祭参加人数3,300人 ○むつ市文化団体協議会補助金74,000円 ○文化芸術活動に対する共催・後援 ・共催承認 3件 ・後援承認 11件 ○財団等助成金情報の提供 7件
予算	予算総額 74,000 円 （内訳） 補助金 74,000 円	決算	決算総額 74,000 円 （内訳） 補助金 74,000 円
評価	第52回むつ市民文化祭については、活発な活動等に約3,300人の鑑賞者が訪れ、市民の心豊かな生活の実現に寄与している。また、民俗芸能伝承団体へは財団等助成金情報を提供し、申請件数3件すべてに活用することができた。		
課題	芸術文化団体の数が減ったことから、文化団体協議会が開催しているむつ市民文化祭の実施に対して、補助の増額の要望がある。	今後の方針	文化芸能及び民俗芸能の実態について調査し、課題を把握する。

事業名	文化財・自然、その他調査事業		
大綱施策	2-(1)-④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実		
概要	文化財の保護・保存・活用を目的に、各分野における調査・研究等を実施し、その成果を文化財調査報告として年度末に刊行する。		
計画	○各種調査の実施 ・芦崎調査：5回 ・釜臥山周辺調査 ○文化財調査報告第53集の刊行	実績・成果	○各種調査の実施 ・芦崎調査：5回 ○文化財調査報告第53集 200部 ○散策事業の実施：1回（芦崎）
予算	予算総額 1,112,000 円 （内訳） 報 償 費 325,000 円 費用弁償 20,000 円 消耗品費 30,000 円 印刷製本費 693,000 円 食 糧 費 12,000 円 保 険 料 32,000 円	決算	決算総額 580,124 円 （内訳） 報 償 費 138,000 円 費用弁償 5,829 円 消耗品費 32,897 円 印刷製本費 396,000 円 食 糧 費 7,398 円 保 険 料 0 円
評価	概ね計画に沿った調査を実施し、むつ市文化財調査報告第53集を刊行できた。		
課題	天候に左右されやすいため、調査日の調整等が難しい。	今後の方針	調査を通じて市民の身近な自然への関心を高め、その保全の必要性等についての理解を深められるよう継続していく。

事業名	文化財保護審議会の設置		
大綱施策	2-(1)-④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実		
概要	文化財保護法第190条第1項及びむつ市文化財保護条例第4条の規定に基づき、むつ市文化財保護審議会を設置し、当市における文化財の保存及び活用に資する。 また、下北地方文化財審議委員連絡協議会（下文審）会員として、下北管内全域の文化財保護に資する。		
計画	○委員について ・定数:15人以内(現在13人) ・任期:2年(令和3年12月1日～令和5年11月30日) ○会議の開催:年2回程度 ○下文審の活動 ・審議委員は会員となっている ・生涯学習課が下文審事務局 ・年1回の総会、年2回の研修会を開催	実績・成果	○文化財保護審議会会議:1回開催 (4月24日) ○委員委嘱 ・人数 12人 ・期間 令和5年12月1日～令和7年11月30日 ○下文審総会、前期研修会(5月30日) 後期研修会(11月10日) 理事会 2回
予算	予算総額 701,000 円 (内訳) 報酬 384,000 円 費用弁償 287,000 円 需用費 13,000 円 負担金 17,000 円	決算	決算総額 330,522 円 (内訳) 報酬 169,000 円 費用弁償 137,522 円 需用費 7,000 円 負担金 17,000 円
評価	審議会開催に至る案件がなかったため、会議の開催回数は1回のみとなった。しかし、下文審を始め各審議委員がそれぞれの調査につき、相互に情報交換等をし活動している。		
課題	下文審の事務局の負担が大きいため、会の在り方については継続し協議していかねばならない。	今後の針	審議委員の活動を推進していきたい。

事業名	文化財収蔵庫の管理・運営		
大綱施策	2-(1)-④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実		
概要	市内2ヶ所の文化財収蔵庫について、施設の管理と、収蔵品の適正な管理（収蔵品のデータ化作業、所在確認と清掃等）を行う。 むつ地区においては重要文化財指定品を収蔵しているため、施設管理人を配置する。		
計画	○施設管理人を1人配置する。 ・データ化作業（計測、写真撮影）、収集、管理 ○整理人夫による所在確認、清掃作業の実施 ○収蔵品の公開と活用	実績・成果	○施設管理人：1人（会計年度任用職員） ○整理作業実施：3人、5日間 ○見学受入：1件（脇野沢小学校） ○収蔵品の公開と活用 ・出前授業 4件 ・式番館にて 月ごとの展示を11回 写真資料の展示を1回 収蔵品展「娯楽とあそび」
予算	予算総額 5,491,000 円 (内訳) 給料 97,000 円 消耗品費 150,000 円 燃料費 3,000 円 電気料 2,278,000 円 上下水道料 167,000 円 役務費 334,000 円 委託料 654,000 円 工事請負費 1,670,000 円 備品購入費 138,000 円	決算	決算総額 5,394,950 円 (内訳) 給料 96,726 円 消耗品費 229,715 円 燃料費 0 円 電気料 2,232,934 円 上下水道料 166,743 円 役務費 289,972 円 委託料 653,400 円 工事請負費 1,287,000 円 備品購入費 438,460 円
評価	収蔵品公開のための資料整理を進めることができています。また、整理したものの中から、展示や出前授業等に活用することができた。		
課題	収蔵品の受け入れ場所の確保、そのための環境整備が十分ではない。 また、資料整理のための人員が足りないため検討しなければならない。	今後の方針	人員及び保管場所等について、関係各所と協議し検討していく。



式番館での展示

事業名	北の防人大湊に関すること（ガイド活動支援等）		
大綱施策	2-(1)-④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実		
概要	自主事業を開催し、北の防人大湊式番館の活用を図る。 また、水源池公園を中心とした北の防人大湊エリアの歴史や自然に親しんでもらうためガイドを養成するとともに、当該施設をガイド活動の拠点とし支援に努める。		
計画	○自主事業の企画、実施 ○ガイド養成講座の開講 ○ガイド活動団体の支援	実績・成果	○自主事業の実施：2回 ・GW企画 写真等展示 ・企画事業 大湊ネブタの紹介等 ○ガイド養成講座開講…実施 (新規登録2人) ○ガイド活動団体の支援 ・活動保険17人分 ・活動必要品購入等 ○学習活動への協力 ・施設等の案内 ・工事現場説明 ・総合的な学習の時間におけるジュニアガイドの養成講座及びツアーの実施
予算	予算総額 500,000 円 (内訳) 報 償 費 30,000 円 旅 費 15,000 円 消耗品費 100,000 円 印刷製本費 329,000 円 役 務 費 26,000 円	決算	決算総額 313,911 円 (内訳) 報 償 費 10,000 円 旅 費 0 円 消耗品費 180,231 円 印刷製本費 99,000 円 役 務 費 24,680 円
評価	ガイド養成講座を受講した2人を新規で登録し、練習を重ねたことで、団体や市内小学校の児童に向けたガイドができるようになった。また、自主事業としてイベントを開催するなど、ガイド員自らが当該エリアの周知活動に努めている。		
課題	ガイドの利用者が減少していることから、ガイド活動への意欲に低下傾向が見られる。	今後の方針	スキルアップのため、県内のガイド同士での研修を検討していく。



ジュニアガイド

事業名	埋蔵文化財発掘調査事業		
大綱施策	2-(1)-④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実		
概要	遺跡(市内185ヶ所)における土木工事に対し、現場の事前確認や試掘などの予備調査を実施する。また、遺跡外であっても、大規模開発の場合には同様に予備調査を実施する。		
計画	○業者等の遺跡照会に対する窓口対応 ○遺跡内で土木工事等が行われる場合及び遺跡外でも大規模開発等が行われる場合の事前協議を実施 ○状況に応じて予備調査(現場確認、踏査、試掘確認調査等)を実施	実績・成果	○業者等による照会件数：104件 ○試掘確認調査：4件完了 ○工事立会：3件
予算	予算総額 6,544,000 円 (内訳) 給料 1,662,000 円 職員手当等 158,000 円 報償費 14,000 円 旅費 183,000 円 需用費 137,000 円 役務費 73,000 円 委託料 4,026,000 円 賃借料 291,000 円	決算	決算総額 4,634,015 円 給料 1,475,712 円 職員手当等 150,822 円 報償費 0 円 旅費 42,501 円 需用費 100,765 円 役務費 61,228 円 委託料 2,675,200 円 賃借料 127,787 円
評価	野外調査は対応できたが、遺物の出土量に比して整理作業が追いついていない。なお普及活動として、式番館のミニ企画展において考古資料を展示したり、担当者が「むつ☆かつ」の考古学を担当することで、中学生に各作業を体験してもらっている。		
課題	整理作業から報告書刊行までの体制が脆弱である。担当者が整理作業に携われる時間の確保が必要。	今後の方針	人員確保を含め、十分な調査体制を整えられるよう関係各所と協議し検討していく。

事業名	田名部館遺跡本発掘調査事業		
大綱施策	2-(1)-④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実		
概要	都市整備部で管轄する代官山公園の整備事業に伴う園路整備工事に先立ち、遺跡の本発掘調査を実施する。当地点は田名部館遺跡の範囲内であり、令和3年に本格的な調査を行い、その後、整理作業を経て、報告書を刊行する。		
計画	○調査で出土した遺物の整理 ○報告書刊行	実績・成果	遺物の整理作業を実施
予算	予算総額 712,000 円 (内訳) 給料 266,000 円 旅費 34,000 円 需用費 412,000 円	決算	決算総額 366,764 円 (内訳) 給料 260,748 円 旅費 12,658 円 需用費 93,358 円
評価	整理作業を進めることはできたが、報告書刊行には至らず、目的は達成できていない。		
課題	昨年度、整理作業が全く進まなかったことで、本年度もその分遅れている状況である。	今後の方針	整理作業の段階として、今後は担当者が図面作成等を進めていく状況であり、来年度中の報告書刊行を目指す。

事業名	文化財保護、保存管理事業		
大綱施策	2-(1)-④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実		
概要	指定文化財及び天然記念物の保護や保存に努めるとともに、管理する施設（旧大湊水源地水道施設、むつ・川内地区文化財収蔵庫、壺番館等）の修繕や環境整備等を行う。		
計画	○文化財等施設管理 修繕、除草作業等の実施 ○啓発活動 ・文化財防火デー 1月26日 文化庁、消防庁が主唱する行事の実施 ○天然記念物関連 ・カモシカについては死体処理と、 生体の場合は状況に応じて対応 ・ハクチョウについては大湊湾内について対応 ※文化財パトロール(県事業)	実績・成果	○施設管理 ・壺番館他の除草作業の実施、侵入防止杭の設置、砂利等整備 ○啓発活動 ・文化財防火運動 防火デーの実施 むつ地区 1月26日 常念寺 ○天然記念物 ・カモシカ 死体処理: 3件 ※文化財パトロール事業(県事業)
予算	予算総額 393,000 円 (内訳) 消耗品費 30,000 円 燃料費 3,000 円 修繕料 90,000 円 委託料 220,000 円 原材料費 50,000 円	決算	決算総額 178,041 円 消耗品費 72,041 円 燃料費 3,014 円 修繕料 0 円 委託料 49,500 円 原材料費 53,486 円
評価	施設等管理については、定期的に見回りを行い景観保護にも努めることができている。		
課題	施設の修繕については、計画を立てながら検討しなければならない。	今後の方針	計画に基づいた維持管理に努めていく。

事業名	重要文化財保存修理事業(二枚橋2遺跡出土品)		
大綱施策	2-(1)-④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実		
概要	平成24年9月に国の重要文化財に指定された「二枚橋2遺跡出土品」1,308点のうち、320点については、今後の保存活用のため令和12年度までかけて修復する。		
計画	○専門業者に委託して修復業務を実施する。業務を進める際は、文化庁の指導監督を受け、当局担当者が立ち会う。修復予定320点のうち今年度は30点を修復する。 ・土製玉30点の修復 ・上記修復資料の一括保存台1点作製 ○情報発信	実績・成果	○修復業務 ・鉢1点、土製玉30点の修復 ・土製玉の一括保存台1点作製 ・指導監督3回(開始前、中間、最終) ○情報発信 リーフレット作成、刊行 3,000部
予算	予算総額 3,178,000 円 (内訳) 旅費 318,000 円 需用費 110,000 円 委託料 2,750,000 円	決算	決算総額 3,176,795 円 (内訳) 旅費 204,100 円 需用費 202,895 円 委託料 2,769,800 円 ※決算総額のうち1,588,000円は国庫補助額

評価	修復業務は、追加された対象資料をも含め順調に進んでいる。また本事業を紹介するリーフレットを刊行している。これまで「二枚橋2遺跡出土品」を簡潔に紹介する同様の資料が刊行されたことが無いため、効果的な発信ができた。		
課題	修復資料の見直しが必要である。	今後の方針	修復すべき資料の抽出を行う。

事業名	重要文化財保存修理事業（旧大湊水源地水道施設）		
大綱施策	2-(1)-④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実		
概要	重要文化財である旧大湊水源地水道施設の修理事業を国庫補助金を活用し実施する。修理の期間は、平成28年度から令和7年度までと予定している。		
計画	○保存修理事業の実施（国庫補助事業） ・甲水槽等保存修理工事実施設計業務委託 ・第一引入口等保存修理工事監理業務委託 ・第一引入口等保存修理工事 ・文化庁調査官による現地指導 ○修理専門委員会の開催	実績・成果	○保存修理事業の実施（国庫補助事業） ・甲水槽等保存修理工事実施設計業務委託 ・第一引入口等保存修理工事監理業務委託 ・第一引入口等保存修理工事 ○修理専門委員会 ・現地確認（10月） 1回 ・委員会開催（2月） 1回 ※文化庁調査官はオンライン参加
予算	予算総額 57,243,000 円 (内訳) 報酬 78,000 円 旅費 561,000 円 消耗品費 10,000 円 委託料 19,723,000 円 工事請負費 36,871,000 円	決算	決算総額 52,317,764 円 (内訳) 報酬 58,500 円 旅費 393,253 円 消耗品費 8,311 円 委託料 19,202,700 円 工事請負費 32,655,000 円 ※決算総額のうち25,992,000円は国庫補助額 ※決算総額のうち22,500,000円は社会教育債
評価	今年度予定していた工事は完了し、順調に進んでいる。		
課題	冬期間の休工中に、年度末の契約変更事務及び中間検査等をスムーズに行う必要があるが、スケジュール調整が難航する。	今後の方針	保存修理工事後の利活用も含め、関係者とは緊密な連絡調整を図っていく。

■生涯学習課の重点項目の総括評価■

生涯学習の推進において、各種事業は概ね計画どおりに実施することができた。二十歳の集いの開催は、祝福のメッセージ等を届けるとともに家族や地域との繋がりをより深める機会となった。社会教育施設の充実、自主事業についての評価も高く、利用者はコロナ禍以前に戻りつつある。文化遺産の保護及び保存と活用の取り組みは、重要文化財の修理事業は滞りなく進んでいるものの、公開できる環境が整っていないことから、今後の利活用については他施設の視察等で得た情報を検証しながら、調査・研究に努めていく必要がある。



重要文化財保存修理事業（旧大湊水源地水道施設）

3 学校教育課

■ 重点項目の中間点検（令和5年度の具体的な取組状況）■

（1）質の高い教育課程の創造

事業名		むつ市学校教育プラン検証委員会開催			
大綱施策		1-(1)-①明確な目標設定			
概要	推進目標である「郷土を愛し、高い志を持って 主体的に未来を切り拓く人づくり」の達成に向けた取組状況等について検証する場を新たに設定する。				
計画	○「むつ市学校教育プラン」に対する取組状況等について、小・中学校校長、高等学校校長、幼保園関係者、PTA代表者等を招集して、「むつ市学校教育プラン検証委員会」を開催する。 ○児童生徒や教職員、保護者等を対象としたアンケートを実施する。		実績・成果	○むつ市学校教育プラン検証委員会 ・第1回：令和5年9月26日 ・第2回：令和6年2月8日 ○アンケート調査 ・実施期間：12月 (児童生徒、教職員、保護者対象)	
予算	予算総額 159,000 円 (内訳) 報 酬 91,000 円 旅 費 68,000 円		決算	決算総額 98,010 円 (内訳) 報 酬 52,000 円 旅 費 46,010 円 円	
評価	9月に「第1回むつ市学校教育プラン検証委員会」を開催し、「むつ市学校教育プラン」の確認とアンケート項目の精査を行い、2月の検証委員会では、12月に実施したアンケート調査の結果を共有した。 アンケート調査のポジティブ評価は、児童生徒が84.0%、保護者が74.0%、教員が93.5%であり、総集計としては82.7%であったため、目的は達成されたとと言える。				
課題	・第3次「むつ市学校教育プラン」における推進目標の達成状況等について、広い視点からの検証が必要である。 ・今年度の委員構成は、小学校校長1名、中学校校長1名であったため、来年度は委員に校長を2名増やし、学校現場の意見をより集約する必要がある。		今後の方針	・「学校教育プラン検証委員会」の開催をととして検証を進める。 ・児童生徒や教職員、保護者に対する意識調査（アンケート）を実施し、経年比較による検証も行う。	

事業名		指導の方針と重点に関する指導・支援事業	
大綱施策		1-(1)-①明確な目標設定	
概要	「指導の方針と重点」に係る説明会の開催、説明冊子の発行・配付及び学校計画訪問等により、むつ市学校教育の課題である学力の向上と生徒指導の充実に向けた教育活動がより一層推進されるよう指導・支援を行う。		
計画	○説明会の開催、説明冊子の発行・配付、指導主事による学校訪問により、むつ市学校教育の課題解決と各学校の教育目標の実現を支援する。	実績・成果	○説明冊子を全教職員へ配付した。 ○学校訪問時の全体会において方針と重点の説明を行い、全教職員に直接要点を伝えることができた。 ○次年度に向けた説明会を、令和6年1月9日（火）に実施した。
予算	予算総額 193,000 円 (内訳) 消耗品費 81,000 円 印刷製本費 110,000 円 材料費 2,000 円	決算	決算総額 190,581 円 (内訳) 消耗品費 54,731 円 印刷製本費 135,850 円 材料費 0 円

評価	○冊子「指導の方針と重点」については、4月10日に市内小・中学校へ配付（持参）し、活用を依頼した。各校においては、各種事業をはじめ、講座内容や訪問要項等を随時確認するなど、年間を通じた活用が図られていた。 ○「指導の方針と重点」の内容については、以下の内容を計画訪問の全体会で教職員へ伝達し共通理解が図られた。各校においては、自校の校内研修や各小中一貫ブロックの取組にも活用した実践がなされていた。 ・アクションプランの内容について ・学力向上プログラムの取組について ・重点項目1から7の概要について ○学力向上プログラムの実施状況調査結果については、「（2）学力向上対策の充実：学力向上プログラム推進」に記載のとおりである。		
課題	学力向上プログラムの実施状況調査結果に基づいて、次年度の学力向上プログラムの内容を精査し、各校に周知する必要がある。	今後の方針	今年度は学校教育プランの初年度であったことから、学校訪問においてプランの骨子とそれを受けた方針と重点の内容について詳しく説明した。次年度は各校の取組状況について、把握したり、一層の推進を図ったりしていく。

事業名		児童生徒の高い志をはぐくむ支援事業	
大綱施策		1-(1)-④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進	
概要	児童生徒が高い志を持ち、夢の実現に向かうことができるよう、学校が学力向上等に資する新たな取組を行うことを支援する。また、教育委員会として必要な事業を実施する。		
計画	○各校の取組支援 ○高校入試問題集（DVD）配付 ○英検受験料補助	実績・成果	○学校の取組支援 市内8小中学校で実施中である。 ○高校入試問題集（DVD）配付 昨年度配付済のDVDで対応できることから、今年度の配付は行わなかった。入試問題分析については、市内各中学校に配付し、活用を促した。 ○英検受験料補助については、市内全中学校からの申込があった。
予算	予算総額 5,429,000 円 (内訳) 報 償 費 215,000 円 旅 費 466,000 円 需 用 費 749,000 円 役 務 費 330,000 円 使用料及び賃借料 1,843,000 円 備品購入費 445,000 円 負担金補助及び交付金 1,381,000 円	決算	決算総額 3,583,234 円 (内訳) 報 償 費 113,000 円 旅 費 303,764 円 需 用 費 658,470 円 役 務 費 231,740 円 使用料及び賃借料 1,825,280 円 備品購入費 85,580 円 負担金補助及び交付金 365,400 円

評価	○各校が取り組んだ事業名と事業の効果(報告書より)は以下のとおりである。		
	①川内小・中学校 (Society5.0を力強く生き抜くためのスキルアップチャレンジ事業) ・事業を活用することによって、多くの気づきと学びを実現することができ、生徒、教職員、保護者、地域の方々を含めて、非常に効果が大きかった。 ②むつ中学校 (むつ中生みんなで応援・おもてなしボランティア) ・生徒も教員も活動の見通しが持てたことから、計画・実行する場を広げ、自己有用感の向上に努めた。また、ガイドブック作成のため、むつ下北各中学校生徒会との関係、当日の応援を通じてできた参加校とのつながりを通して、地域のことをより深く考え活動することができた。 ③奥内小学校 (夢に向かって、すすんで学ぼう!ふるさとへ出かけよう!応援事業) ・児童アンケートからは、課題にあきらめずに取り組む意識が育っていることが分かる。 ・本校の環境 (少人数、市の中心部から離れている等) にとって、校外学習等に活用できることは有効である。 ・コーディネーショントレーニングでは、楽しみながら身体の使い方を学ぶことができた。 ④大畑小学校 (デジタルとアナログを融合させた、表現力を高める実践事業) ・特に高学年を中心として児童自ら表現しようとする意欲は高まってきていると感じられる。また、表現活動に触れる際の気付きも多く見られるようになってきた。次年度も継続することで更に目に見える効果が表れるのではないかと期待できる。 ⑤近川中学校 (英語コミュニケーション力育成事業) ・少人数の限られたメンバーで学校生活を過ごしている生徒にとって、海外在住者や日本語を母国語としない人々との交流学習は、大きな意味を持つと捉えている。 ⑥田名部中学校 (高い志をはぐくむキャリア教育推進事業) ・ICTが発達し、すぐに正解を得られ、実体験や経験が乏しい時代において、自らが気付き考える体験や経験を積むことは何物にも代えがたい。本事業を通じて、「気付き・考えて、納得・判断し、行動する」機会となり、事業をもとに日常化を図ることで、自分で責任を取り、失敗も誰のせいにもせずやり直す生徒を育てるために、今年度の課題と成果をもとに、事業の充実と関係機関との連携をさらに図りたい。 ⑦大畑中学校 (大畑中学校学力向上プラン) ・メディアの時間は増加し、家庭学習の時間は やや減少している。部活動や「むつ☆かつ」に加入していない生徒が、放課後の時間を効果的に活用できていない可能性が高い。 ・市学調では、各学年において5教科平均が市を上回った。県学調では、5教科平均、国、数、理の通過率が県を上回った。この結果から、内容の確実な定着が図られていることがわかる。		
課題	・年度初めから、随時各校と連絡を取り合い必要に応じて来庁いただき、予算の執行に関する打合せも行ってきたが、それぞれの事業が異なることから、問い合わせも多かった。	今後の方針	・次年度事業実施希望校に対する決定通知を发出する。 ・本事業の活用は、各校の任意であるとは言え、活用している学校としていない学校とでは、教育活動の充実に向けた予算面等において大きな開きがある。また、本事業活用校の中でも、予算額等に差があることから、今後は市内全校にある程度平等に本事業を還元できるよう見直しが必要である。

事業名	スクールサポートスタッフ配置事業		
大綱施策	1-(1)-④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進		
概要	入学児童が多く、学年に複数学級を有する学校に対して、スクールサポートスタッフを配置し、学級担任等に代わって、教材等の印刷や必要物品の準備などの業務をサポートすることにより、学級担任等が事務的な職務に費やす時間を削減し、児童への指導や支援に専念できるようにする。		
計画	○入学児童が多く、学年に複数学級を有する小学校に、人員を配置する。	実績・成果	○令和5年度は、次の小学校5校に人員を配置した。 第一田名部小学校、第二田名部小学校、第三田名部小学校、太平小学校、苦生小学校
予算	予算総額 7,965,000 円 (内訳) 報酬 7,160,000 円 職員手当等 529,000 円 旅費 276,000 円	決算	決算総額 7,827,101 円 (内訳) 報酬 7,072,096 円 職員手当等 571,005 円 旅費 184,000 円
評価	今年度からの新規事業であるが、配置校からは、事務的な補助等におけるスクールサポーターの業績について高評価をいただいている。		
課題	各校の業務負担軽減を考えると、学校支援員の配置を中学校にも広げていきたいところではある。	今後の方針	県の人員配置計画も考慮しながら、配置校を検討していく。

(2) 学力向上対策の充実

事業名	学力向上プログラム推進		
大綱施策	1-(1)-①明確な目標設定		
概要	むつ市学校教育の課題である学力向上に資するため、各種学力調査結果から明らかとなった「知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」に向け、学力向上プログラムを示し、市内小中学校での授業改善の取組を支援する。		
計画	○各校への資料として、「学力向上プログラム」と「ねらいに応じた授業展開の工夫」を配付・周知する。	実績・成果	○5月から7月の各校への計画訪問にて、資料を配付・説明した。 ○「学力向上プログラム」の実施状況について、9月に各校へのアンケートを実施した。
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円

評 価	○第1回学力向上プログラムの実施状況調査結果から～項目別結果～（9月：各校対象） ①各教科における、自校の「強み」「弱み」の明確化(100%) ②学力の課題及び要因の考察に基づく、自校の目標設定(86%) ③SYEN（シエン）やタブレットドリルを活用して学習したことを定着させる取組(95%) ④「ねらい」、「学習課題」、「まとめ」、「評価」につながりがある授業づくり(100%) ⑤指導に生かす評価の充実(90%) ⑥学習課題を工夫した授業づくり(100%) ⑦タブレット端末やデジタル教材（タブレットドリル他）などを活用した授業づくり(95%) ⑧できなかった問題に何度も取り組ませるなど、粘り強い指導(86%) ⑨家庭学習の習慣化を図るための家庭学習の手引きの活用や家庭学習強化週間などの実施(100%) ※実施率が90%に達していないものについて ②については、各校の数値目標を設定していただくよう周知済みである。 ⑤については、繰り返し取り組ませて定着を図るための手立ての一つとして、タブレットドリルの活用を各校に周知している。 ○第2回学力向上プログラム実施状況調査から～結果概要～（12月：教職員・児童生徒対象） ・SYEN（シエン）の学習への活用が少なかったのは、それに代わって、タブレット教材等の活用が増えているためと考える。 ・タブレット端末の活用については、授業での活用が進められており、学習用具の一つとして定着してきていると考える。 ・学力調査等の事後の取組に関しては、「わかった・わからなかった」「結果が良かった・良くなかった」だけで完結させることなく、「どこが良かったのか」「何が分からなかったのか」等、自分の学習の様子を知ることが大切であることを、引き続き児童生徒に伝えていくことが大切である。		
課 題	計画訪問時に、今年度の学力向上プログラムに関する周知を行い、その後の取組状況についてアンケートによる回答を実施したが、実際に日常の授業改善に生かされているかどうかについては、不透明である。	今後の方針	今年度に引き続き、学力向上プログラムを示すことは継続したうえで、各校の日常の授業へのアプローチが必要である。学校教育課として、どんな働きかけができるのかを検討していく。

事業名	学力向上に向けた協議会開催		
大綱施策	1-(1)-③主体的な学習の推進		
概要	むつ市学校教育の課題である学力向上に資するため、小学校から大学までの切れ目のない学習指導の在り方を検討する協議会を開催し、児童生徒に身に付けさせるべき資質・能力や、各調査の分析結果から明らかになった課題への方策等について協議し、市内小中学校での授業改善の取組を支援する。		
計画	○委員を委嘱し、学力向上に向けた協議会を、年に2回開催する。	実績・成果	○第1回協議会：6月27日（火） ○第2回協議会：11月27日（月） ○第2回協議会の議事録を市内小・中学校に送付した。
予算	予算総額 95,000 円 （内訳）報 償 費 20,000 円 旅 費 75,000 円	決算	決算総額 71,277 円 （内訳）報 償 費 27,500 円 旅 費 43,777 円
評価	第1回協議会では、委員にむつ市児童生徒の学力の現状を伝え、それぞれの立場から幅広く意見を伺うことができた。第2回協議会では、協議内容を3つに絞ったことにより充実した話し合いとなった。		
課題	市外の方にも委員を委嘱したため、委員謝金不足となり他事業から流用することとなった。	今後の方針	・前年度に委員を確定させるなど、効率的な事務手続きをする。 ・話し合いが充実するように、協議内容の精選に努める。

事業名	総合学力調査・知能検査実施		
大綱施策	1-(1)-①明確な目標設定		
概要	児童生徒対象の学力検査及び知能検査に関する実態把握を通し、学力向上に向けた基礎資料の作成を行う。		
計画	○むつ市総合学力調査を小学校4年生から中学校3年生まで実施する。 ○知能検査を小学校2年生、5年生、中学校1年生で実施する。	実績・成果	○4月に小学校4年生から中学校3年生までを対象に学力調査を実施した。また、結果を指導に生かすための資料を作成して各校に送付した。 ○4月に小学校2年生、5年生、中学校1年生を対象に知能検査を実施し、市全体の傾向をまとめた課内資料を作成した。
予算	予算総額 4,528,000 円 (内訳) 消耗品費 386,000 円 委託料 4,142,000 円	決算	決算総額 4,262,621 円 (内訳) 消耗品費 379,021 円 委託料 3,883,600 円
評価	市全体の児童生徒の学力の実態を把握し、結果を指導改善に生かすことの重要性を各校に周知することができた。		
課題	・総合学力調査の1教科あたりの価格が値上がりする。 ・意識調査は全国学テでも実施されており重複している。	今後の方針	・学校の意見も聞きながら、今後もより活用しやすい資料を提供するようにする。 ・小5、中2の意識調査をとりやめる。

事業名	算数・数学チャレンジ		
大綱施策	1-(1)-①明確な目標設定		
概要	各種学力調査の結果から、算数・数学の学力向上は大きな課題の一つである。課題の解決に向け、タブレット教材を活用して「やればできる」という児童生徒の意欲を高める取組を推進する。		
計画	○タブレット教材を活用した復習 ○2回のテストの実施 ○子ども自身による振り返り	実績・成果	○問題や実施期間を選択して、タブレット教材の中から各校が実態に合わせて2回のテストを実施することができた。 ○子ども自身の振り返りを記録したカードをもとに各校が実態に応じてこれからの指導に生かすことができた。
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円
評価	【児童生徒アンケート結果に対する考察】 「算数・数学は好きか」の設問では、肯定的回答と否定的回答との割合が二分化した。引き続き児童生徒一人一人の実態を明確にしていき、まずは「わかってきた≒好きになってきた」に近付けることが、学習意欲へとつながっていくであろう。 【教員アンケート結果に対する考察】 「算数・数学チャレンジは効果があったか」の設問では、「あまり効果はなかった」が3割であったことから、課題が多かったことが窺える。		
課題	年度に1回の取組期間だけでは、効果は期待できない。また、独自に類似した取組を行っている学校もあり、各校の実態に応じた取組を優先してほしいという要望もある。	今後の方針	各校の実態に応じた自主的な取組も生かしながら本事業を継続していく。次年度は、各校での自主的な取組へとつなげていきたい。

事業名		新聞を活用した学習への支援	
大綱施策		1-(1)-②教員の資質向上	
概要	むつ市の小・中学生が新聞に親しみ、新聞を読む習慣を身に付けるとともに、授業等で新聞を活用した教育活動を推進するため、市内全ての小学校5，6年生と中学校全学年（特別支援学級を含む）を対象に、希望する新聞を各学級1部配備する。		
計画	○市内小学校5，6年生と中学校全学年を対象に、希望する新聞を配備する。	実績・成果	○新聞配備部数 小学校：41部 中学校：71部 ○出前授業 小学校4校 中学校2校 ○授業の他に、短学活でのニュース発表や個人新聞の作成などで活用を図った。 ○東奥日報電子版を活用できるよう、IDとパスワードを全小・中学校に配付した。
予算	予算総額 2,944,000 円 (内訳) 新聞購読料 2,844,000 円 教材等 100,000 円	決算	決算総額 2,499,521 円 (内訳) 新聞購読料 2,471,218 円 教材等 28,303 円
評価	アンケート結果から、「新聞を毎日読む」と回答した児童生徒の割合は8％（前年度5％）、「本事業を通してニュースや時事に関心をもつようになった」と回答した児童生徒の割合は36％（前年度40％）となった。また、教員が東奥日報電子版を活用したり、児童生徒に活用させたりした割合は21％となるなど、新聞を読む習慣づくりに一定の役割を果たしている。		
課題	複数紙を購読することで、読解力や情報リテラシーの向上を図ることができるが購読紙の価格上昇もあり、各校の希望する部数の配備ができない。	今後の方針	紙媒体と電子版それぞれの利点を生かした活用を今後も依頼していく。

事業名		研究大会への派遣助成	
大綱施策		1-(1)-③主体的な学習の推進	
概要	授業研究に関する全国規模の県外研修等に参加し、最新情報を得ることで教員の資質・能力を伸ばすとともに、校内研修を活性化することで、学習指導要領への対応も含め、当市学校教育の課題である学力向上の改善を図る。		
計画	○各教科や学力向上に関する県外研修等の費用を、予算の範囲内において各校1名分助成する。（対象とする研修会は神奈川県以北とする。）	実績・成果	○小学校教員6名、中学校教員2名が、県外で行われた研究大会に参加した。 ○各参加者の研修報告書と学校教育課で作成した補助資料を教職員専用ホームページに掲載した。
予算	予算総額 1,069,000 円 (内訳) 旅 費 1,051,000 円 負 担 金 18,000 円	決算	決算総額 517,480 円 (内訳) 旅 費 517,480 円 負 担 金 0 円
評価	昨年度まではオンライン開催もあったが、今年度は希望者全員が現地開催の大会に参加することができた。授業等を実際に参観できたことから、充実した研修になったことが報告書からも窺えた。よって、目的は達成されたといえる。		

課題	本事業を開始した令和元年度は、各校1名分の予算を計上していたが、実績数から考えると予算を削減せざるを得ない。 しかし、コロナ禍が明け、来年度以降は希望者が増える可能性もある。希望者が全員参加できるよう、毎年予算を見直していく必要がある。	今後の方針	令和6年度は、10名分の予算を計上しているため、希望者がそれより多い場合は教育委員会内で協議して参加者を決定する必要がある。
----	--	-------	---

事業名	英検 I B A の実施・E S G の推奨		
大綱施策	1-(1)-③主体的な学習の推進		
概要	これまで英語学習で積み重ねてきた「英語を使ってできること」を児童生徒が実感することで学習意欲につなげ、学習改善や教員の指導改善に生かす。		
計画	○参加申込に関する周知・取りまとめ ○各校で申し込みをした時期に実施 ○結果の分析・効果の検証・活用法の検討	実績・成果	○5月：県からの募集案内に基づき、各校へ周知した。 ○全ての中学校が I B A を実施した。
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円
評価	取組状況や、結果の分析・効果の検証・活用方法等については、検討が必要である。		
課題	I B A の結果を検証し、英語検定に挑戦しようとする中学生の増加へと結びつける必要がある。	今後の方針	令和6年度までは県教育委員会の英語能力向上事業を活用し無料で受験できるが、令和7年度以降は実費負担となるため、予算化も考慮していく。

(3) ICTを活用した教育活動の充実

事業名	I C T 推進委員委嘱		
大綱施策	1-(1)-③主体的な学習の推進		
概要	むつ市学校教育プラン推進の柱の一つである、「ICTを活用した教育活動の充実」に資するため、市内小中学校教員に I C T 推進委員を委嘱し、実践事例の蓄積・共有化を図る。		
計画	○ I C T 推進委員を委嘱する。 ○年に3回、推進委員会を開催する。 ○最終的には、活用資料を作成し、各校に周知する。	実績・成果	○小学校・中学校からそれぞれ3名（計6名）に委員を委嘱した。 ○推進委員会の開催日 ・第1回：6月2日 ・第2回：9月1日 ・第3回：2月5日
予算	予算総額 64,000 円 (内訳) 旅 費 64,000 円	決算	決算総額 47,029 円 (内訳) 旅 費 47,029 円
評価	第3回まで期間が空くため、進捗状況を確認しながら進めていくことが必要である。		
課題	・新規事業として初年度ということもあり実践事例数がやや少ない。 ・推進委員の方々には、日常の業務と並行して取り組んでいただいたことから、負担になったと思われる。	今後の方針	次年度も、必要に応じて実践事例を蓄積（事例数・分野の幅を拡大）していくが、推進委員会は開催せずに（推進委員を委嘱せずに）、学校教育課で引き継いでいく。

事業名	ＩＣＴ活用検証事業		
大綱施策	1-(1)-③主体的な学習の推進		
概要	むつ市学校教育プラン推進の柱の一つである「ＩＣＴを活用した教育活動の充実」に資するため、教育活動に活用できるＩＣＴ機器または教材を、市内小・中学校の一部に配備し、全小・中学校への配備に向けた効果や課題を検証する。		
計画	○「電子黒板」の配備 ○「自動採点機能ソフト」の配備 ○教育委員会に「情報モラル教材」を配備	実績・成果	○電子黒板の検証依頼校（第三田名部小、関根中） ○「自動採点機能ソフト」の検証依頼校（田名部中、むつ中、苫生小） ○「情報モラル教材」については、各校での情報モラル教室にて検証
予算	予算総額 2,720,000 円 （内訳） 消耗品費 403,000 円 役務費 0 円 備品費 2,317,000 円	決算	決算総額 2,486,623 円 （内訳） 消耗品費 297,623 円 役務費 319,000 円 備品費 1,870,000 円
評価	電子黒板について、「大いに効果を感じる」及び「効果を感じる」と回答した割合は１００％であった。また、自動採点機能ソフトについては、８２％の教員が効果を感じていることから、目的は達成できたと言える。		
課題	・「電子黒板」は、１校に１台の配備であったため、使用したいときに使用できないなどの制限がある。 ・「自動採点機能ソフト」の効果については、教員の評価も高いが、学校規模によっては初期設定に時間がかかるという意見も聞かれた。	今後の方針	・電子黒板については、行事等でも活用できるなど学校のニーズは高いため、多くの学校に導入し、授業や行事等で活用していただく。 ・自動採点機能ソフトは、業者テストを多く使用している小学校や、生徒数が多い中学校では、初期設定に時間がかかることが分かった。したがって、田名部中学校１校に対する導入が適切である。

事業名	学習用ＨＰ開設		
大綱施策	1-(1)-③主体的な学習の推進		
概要	教員の指導力向上や児童生徒の学力向上に資するため、教育委員会が管轄するホームページを開設する。		
計画	○教職員のみがログインできるホームページの開設 ○保護者や児童生徒がログインできるホームページの開設	実績・成果	○教員用、保護者・児童生徒用ともに、ホームページを開設した。
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円
評価	ホームページ掲載内容の更新にあたって、どのように情報を収集するかを明確にしていく必要がある。		
課題	ＨＰの閲覧頻度が下がってきており、運営方法を見直す必要がある。児童生徒、保護者、教職員のニーズにあったＨＰの内容を検討していく必要がある。	今後の方針	学校教育課の回覧系統にデジタル教育指導監を含めるなど、ＨＰにアップする担当への情報共有を強化する。

事業名	デジタル教材配備		
大綱施策	1-(1)-③主体的な学習の推進		
概要	児童生徒の基礎的・基本的な知識及び技能の確かな習得に向けて、学習者用デジタル教材を購入する。		
計画	○知識・技能の定着に向け、小学校には4教科（国語、社会、算数、理科）の、中学校には5教科（国語、社会、数学、理科、英語）のデジタル教材を配備する。 ○デジタル教科書は文科省実証事業による配備とする。	実績・成果	○デジタル教材購入 ・小学校：学校ライセンス6校 児童数ライセンス6校(253名) ・中学校：学校ライセンス2校 生徒数ライセンス7校(458名)
予算	予算総額 4,583,000 円 （内訳） 消耗品費 4,583,000 円	決算	決算総額 3,718,000 円 （内訳） 消耗品費 3,718,000 円
評価	授業中での使用に加え、朝自習や家庭学習などでも使用するなど、活用が図られている。デジタル教材の使用回数について、2月末時点では、小学校は前年度末比1.06、中学校は前年度末比0.85であることから、概ね、前年度と同程度の使用頻度となっている。		
課題	・本教材には、AI機能が搭載されていないため、一人一人の実状に応じた問題に取り組ませることができない。 ・学校や教科によって使用回数に差が生じている。	今後の方針	・「個別最適な学び」の実現に向け、AI機能が搭載されたデジタル教材を導入する。 ・具体的な活用場面や活用方法について、周知する。

事業名	デジタル教科書・デジタル教材購入		
大綱施策	1-(1)-③主体的な学習の推進		
概要	文部科学省の事業により、一人一台タブレット端末を活用できる「学習者用デジタル教科書」を配備する。		
計画	○文部科学省の「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」に参加し、全ての小学校と中学校に対して英語を、希望する学校には算数・数学を配備する。	実績・成果	○文部科学省の「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」に参加し、英語と算数・数学(小学校7校、中学校5校)の学習者用デジタル教科書を配備した。
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円
評価	学習者用デジタル教科書の具体的な使用について、より効果的に活用できるようにしていく必要がある。		
課題	学校によって、活用に差が見られる。	今後の方針	各学校において、指導者用デジタル教科書の活用は進んでいるため、学習者用デジタル教科書の活用について、文部科学省で作成する実践事例集やガイドブック等を用いるなど、具体的かつ効果的な活用方法について、学校へ周知する。

事業名	タイピングスキル向上		
大綱施策	1-(1)-③主体的な学習の推進		
概要	児童生徒のタイピングスキルの向上のために、無料アプリの活用など、効果的な情報を収集し、市内全小・中学校で共有する。		
計画	○無料で使用することができるタイピングアプリの情報を収集し、市内全小・中学校で共有する。	実績・成果	○タイピングスキル向上に向けて「ムチュランタイピングスキルチェックシート」を、全児童生徒に配付した。 ○ICTスキルの向上のための学習支援アプリ（Canva、Adobe Express、ロイロノート）の提供と、その活用を支援するための随時訪問を実施している。
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円
評価	教職員の要望や本市の課題に正対し、タイピングアプリや授業支援アプリを導入したが、すぐに教員の研修や児童生徒による発表活動に取り入れている学校がある。		
課題	指導の立場にある指導主事には、端末が割り当てられていないため、アプリの検証がしにくい状況にある。	今後の方針	ICTに係る取組について学校を訪問する等、日常の授業へアプローチする。 また、ICTが苦手な教職員に対しても、指導主事の授業提案によって、ICTを活用した授業に具体的なイメージを抱かせていく。

事業名	授業目的公衆送信補償金等管理協会負担金		
大綱施策	1-(1)-③主体的な学習の推進		
概要	一定の補償金を支払うことで、タブレット端末を活用したオンライン授業や予習・復習のための著作物等の送信に対し、著作物利用を無許諾で行うことができる。		
計画	○タブレット端末を活用したオンライン授業や予習・復習のための著作物等の送信に対し、児童一人当たり120円、生徒一人当たり180円の補償金を支払う。 ○適切な運用を確認するため、「一般社団法人授業目的公衆送信保証金等管理協会（SARTRAS）」に活用状況を報告する。	実績・成果	○教科書の図など、必要かつ適切な著作物等を用いて作成したワークシートを児童生徒のタブレット端末に送信するなど、著作権を気にすることなく効果的な学習を行うことができる。 ○令和5年度は、大平小学校に対し、令和6年3月分の活用状況の報告依頼があった。
予算	予算総額 559,000 円 (内訳) 負担金 559,000 円	決算	決算総額 503,646 円 (内訳) 負担金 503,646 円
評価	本事業により、予習・復習用に教員が他人の著作物を用いて作成した教材を児童生徒の端末に送信したり、児童生徒が、学習の成果物等を作成したりするなど、効果的な学習に取り組むことができる。		
課題	遠隔授業や著作物を用いて作成した教材を送信する必然性が更に高まるため、教員や児童生徒に対して、著作権利用についての知識を高める必要がある。	今後の方針	今後、タブレット端末を活用する機会が更に増えるため、著作権の侵害といった不測の事態に備えるためにも、本事業を継続していく。

(4) 教育研修センター講座等の充実

事業名		教職員研修講座開設	
大綱施策		1-(1)-②教員の資質向上	
概要	教職員の専門性や資質の向上を図り、実践的な指導力を高めるために授業改善等に係る研修講座を開催する。また、講座内容の改善を図るため、各講座担当指導主事が全国的な研修会に参加する。		
計画	○弘前大学教育学部との連携による授業づくり講座など14講座を開催する。 ○各講座担当指導主事が全国的な研修会に参加する。	実績・成果	○開設講座：14講座 全講座を予定通り実施することができた。受講者数は延べ345人。 ○全国的な研修会への参加 8つの大会等に参加し、講座や助言等に生かすことができた。
予算	予算総額 1,122,000 円 (内訳) 報 償 費 254,000 円 旅 費 846,000 円 消 耗 品 費 22,000 円	決算	決算総額 1,016,846 円 (内訳) 報 償 費 161,000 円 旅 費 834,348 円 消 耗 品 費 21,498 円
評価	・今年度も弘前大学教育学部との連携により、6講座に弘前大学の先生方をお招きして研修講座を開催することができた。また、青森県総合学校教育センターや弘前大学教職大学院など、その道の専門家に講師を依頼し、充実した講座となるよう努めた。 ・以下の全国的な研修会に参加し、講座内容の計画立案や学校訪問等における指導・助言に生かすことができた。 「東北地区小学校道徳研究大会」「東北地区技術・家庭科研究大会」 「東北社会科研大会」「横浜国立大附属中学校研究発表大会」 「東京芸大竹早公開研究大会」「学びの多様化 学校視察」 「お茶の水女子大附属小教育指導研究会」「NEXTギガフォーラム」		
課題	心理検査を生かした指導改善研修講座については、研修は充実しているが、受講しても専門検査員になることはできない現状にある。	今後の方針	心理検査を生かした指導改善研修講座については、専門調査員の研修としては十分であることがわかったため、廃止とする。

(5) 幼・保・小連携及び小中一貫教育の充実

事業名		幼稚園・保育園と小学校の情報交換	
大綱施策		1-(1)-④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進	
概要		幼稚園・保育園・小学校の連携を推進し、切れ目のない学力向上及び特別支援教育の充実を目指す。	
計画	○幼稚園・保育園と小学校の情報交換 ○幼・保・小の連携の重要性を「むつ市指導の方針と重点説明会」、「幼・保・小連携講座」で周知 ○園へのスタートカリキュラム配付	実績・成果	○就学時検診の様子や結果等を受けて、今後、小学校と各園との情報交換会が開催されていくこととなる。 ○幼・保・小連携講座を、7月31日に開催した。 ○市内幼稚園・保育園に、市内小学校のスタートカリキュラムを配付した。
予算	予算額0円	決算	決算額0円

評価	入学前の適切な情報共有により、保護者の安心感が高まったという声をいただいている。また、幼保小の情報交換会を合同で一度に開催した方が良いかを聞き取る予定であるが、日程や予算の関係で難しい面がある。		
課題	昨年度末にスタートカリキュラムの改定版の例を各小学校に配付したが、計画訪問の資料閲覧で確認したところ、参考にして改善している学校はほぼなかった。	今後の方針	- 今年度のアンケート結果にもよるが、情報交換会については、各小学校と幼・保で日程調整して実施する形式でよいと考える。 - スタートカリキュラムの実施がようやく軌道に乗ったところではあるが、「幼保小架け橋プログラム」の作成・実施の準備をしていく必要がある。

事業名	小中一貫教育の充実		
大綱施策	1-(1)-④ 0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進		
概要	学力向上、生徒指導及び特別支援教育などの学校現場における課題解決のため、小・中学校間で連携した指導により、9年間を一貫としてとらえた指導体制や教育環境の構築を図る。 複式教育の解消や乗り入れ授業など、学力向上と生徒指導の充実に向けて学校や各中学校ブロックの実態に即した指導を可能とするために、小中一貫教育非常勤講師として教員免許保持者を採用し、各中学校ブロックに配置する。		
計画	○市内の9つの中学校ブロックへ、施設や児童生徒数といったブロックの実状に応じた小中一貫教育の充実に資する研究を依頼する。 ○小中一貫教育全国連絡協議会主催の小中一貫教育全国サミットへ参加する。	実績・成果	○全9ブロックの研究実施計画書集を集約し、各学校へ配付した。 ○落ち着いた学校生活環境の中で、充実した教育活動が実践されている。 ○小中一貫教育全国サミットは、代替での開催で研修会がなく、会議のみとなったため、参加しなかった。
予算	予算総額 164,000 円 (内訳) 旅 費 134,000 円 負 担 金 30,000 円	決算	決算総額 30,000 円 (内訳) 旅 費 0 円 負 担 金 30,000 円
評価	- 各中学校ブロックでは、規模や校舎の設置状況など実状に合わせて工夫しながら小中一貫教育の取組を推進している。 - 各ブロックに配置された小中一貫教育非常勤講師は、少人数指導やチームティーチングなど、ブロックの実状に応じて児童生徒の指導に当たっている。 - 児童生徒を対象としたアンケートでは、肯定的な回答割合が79.3%であり、概ね目的は達成されていると言える。		
課題	- ブロック実施計画書や実施報告書の作成に伴う負担 - 会議等の増加に伴う教員の多忙化	今後の方針	- ブロック実施計画書及び実施報告書については、様式を見直すなど、学校の負担軽減に向けて取り組む必要がある。 - 開催時期や回数、開催形式については、各ブロックの状況等に応じて、柔軟な対応をお願いする。

(6) 大学との連携強化

事業名	教育研修センター講座等連携		
大綱施策	1-(1)-②教員の資質向上		
概要	教職員の専門性や資質の向上を図り、実践的な指導力を高めるため弘前大学と連携した研修講座を開設する。		
計画	長期休業中を中心に、6つの研修講座を開設する。	実績・	予定していた講座を、すべて開催することができた。
予算	予算総額 378,000 円 (内訳) 報 償 費 254,000 円 旅 費 124,000 円	決算	決算総額 143,400 円 (内訳) 報 償 費 90,000 円 旅 費 53,400 円
評価	6つの講座すべてにおいて、受講者の肯定的評価（4段階におけるA+B評価）が8割を超えた。		
課題	小規模校においては、同じ教員が複数の講座に参加しなければならない現状にある。	今後の方針	受講者のアンケート等も参考にしながら、講座の精選及び講座内容の改善等を進めていく。

事業名	学生との交流		
大綱施策	1-(1)-③主体的な学習の推進		
概要	ラボ・バス実験教室では、科学実験を行うことを通して科学への関心を高めるとともに、大学生との交流によるキャリア教育の充実を図る。		
計画	○小学校を対象とし、弘前大学教育学部の教授、学生等が指導する「ラボ・バス実験教室」を開催する。	実績・	○ラボ・バス実験教室 ・令和5年9月20日 大平小学校6年生（87名）
予算	予算総額 48,000 円 (内訳) 消 耗 品 費 48,000 円	決算	決算総額 47,500 円 (内訳) 消 耗 品 費 47,500 円
評価	弘前大学教育学部の教授や学生の指導のもと、参加した児童全員が4つの実験ブースを巡回しながら科学実験を楽しむことができた。参加児童生徒のアンケート調査は、次のとおりである。 ・ラボバス実験教室は楽しかったか。 平均値3.89/4.00 ・科学に対する興味・関心は高まったか？ 平均値3.47/4.00		
課題	科学への関心を高めるとともに、大学生との交流によるキャリア教育の充実を図られるようにする必要がある。	今後の方針	ラボ・バス実験教室主催者との連絡調整を図り、参加する児童生徒が、大学生と交流しながら科学実験に親しめるようにする。令和6年度は、奥内小学校で実施予定。

事業名	むつ市内大学との連携		
大綱施策	1-(3)-④高等教育機関との連携		
概要	児童生徒のキャリア発達を促し、進路選択や将来のビジョンの幅を広げるために、市内高等教育機関との連携を推進することを目的とする。		
計画	○研修講座「学びの連携推進講座」開催 ○適応指導教室行事等への学生ボランティア参加	実績・成果	○「学びの連携推進講座」は、7月25日に青森大学むつキャンパスの今井キャンパス長を講師に迎え、開催した。 ○適応指導教室行事等への学生ボランティアについては、学生との日程調整がつかず、実施できなかった。
予算	予算総額 379,000 円 (内訳) 報 償 費 254,000 円 旅 費 124,000 円 役 務 費 1,000 円	決算	決算総額 21,000 円 (内訳) 報 償 費 21,000 円 旅 費 0 円 役 務 費 0 円
評価	「学びの連携推進講座」参加者のポジティブ評価が100%であったことから、講座の目的は達成されたと考える。		
課題	・講座については、次年度に向けて会場・講師・内容等を継続するのか、あるいは別のプログラムを設定するのか検討が必要である。 ・学生ボランティアについては、なかなか日程が合わないのが現状である。	今後の方針	次年度の講座は、むつ下北各高等学校から「総合的な探究の時間」について情報提供していただく計画を進める。(義務教育の先を見据えた教育活動の充実に向けて)

(7) 健康教育・安全教育の充実

事業名	「健康の未来」を変えるプロジェクト授業		
大綱施策	1-(2)-①健康な体を育む学校づくり		
概要	社会医学の第一人者である弘前大学大学院医学研究科の中路重之特任教授の協力を得て、健康に関心を持ち、生涯を通じて健康な生活を送る基礎を培うことができるよう、授業実践を推進する。		
計画	○実施校の選定を行う。(年度末) ・7月4日午前 正津川小学校 ・11月10日午前 田名部中学校 午後 大平中学校 ○開催に向けて日程調整を行う。(随時) ・各学校担当者 ・中路教授 ・弘前大学大学院医学研究科 ○保護者の参加を呼びかける。(各学校)	実績・成果	市内1小学校、2中学校において授業を実施した。 ○期 日 令和5年7月4日 ○対 象 正津川小学校 全児童7名 保護者10名 ○期 日 令和5年11月10日 ○対 象 田名部中学校 1学年209名 大平中学校 2学年 67名
予算	予算総額 77,000 円 (内訳) 報 償 費 0 円 旅 費 17,000 円 消耗品費 60,000 円	決算	決算総額 70,480 円 報 償 費 42,000 円 旅 費 8,480 円 消耗品費 20,000 円
評価	実施後のアンケート調査では、生徒・教員いずれのポジティブ評価も100%であり、ねらいは達成できたと言える。		

課題	児童生徒の健康教育のために、本事業はとてもいいものだと考えるが、利用するにはコストが高い。（５年度は無料で実施していただいたが、６年度は有料となる）	今後の方針	次年度は今年度実施していない小中学校に取り組んでもらうべく周知を行う。また規模が小さい学校には合同実施を提案したりするなど、できるだけ多くの学校の児童生徒が関われるように、中路教授と連絡調整を図りながら事業を進めていく。
----	--	-------	--

事業名	学校危機管理マニュアル改訂		
大綱施策	1-(2)-②安全・防災教育の推進		
概要	危機管理マニュアル策定委員会において、危機管理マニュアル「子どもの安全確保のために」改訂版を作成した。今年度は問題点や改善点を洗い出すとともに、適切な使用について活用を促す。		
計画	○計画訪問において、学校危機管理マニュアルの活用方法について各学校に情報提供を行う。 ○各学校から情報提供を受ける。 ○継続的な支援を行う。	実績・成果	○計画訪問において、学校危機管理マニュアルの活用について呼びかけを行った。
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円
評価	各学校の各教室に本危機管理マニュアルが掲示してあることを計画訪問時に確認した。また、学校経営計画などにも本危機管理マニュアルの内容が反映されてあることを確認した。		
課題	本危機管理マニュアルをベースに各学校の実態に応じたマニュアルの作成に向けて支援する必要がある。そのために新たな情報提供ができるように現状把握や情報収集に努めていくことが求められる。	今後の方針	校長会と教育委員会との合同会議や、生徒指導担当者が出席する学校警察連絡協議会の定例協議会等を利用し、各校への情報提供や周知を図る。

（８）キャリア教育の充実

事業名	むつ市こども議会		
大綱施策	1-(3)-①キャリア教育の充実		
概要	むつ市の小学生が、議会傍聴をとおして市政と市議会のしくみを理解するとともに、次代を担う市民としての自覚を深める機会とする。		
計画	○市内中学校２年生を対象として、学校規模に合わせて各校２～３名を募集する。 ○９月議会の一般質問（議員１名）を傍聴する。	実績・成果	○９月議会傍聴（９月４・５日） ⇒会期短縮のため一般質問なし ○１２月議会傍聴（１２月６・７日） ⇒生徒２１名、引率者９名
予算	予算総額 24,000 円 (内訳) 旅 費 24,000 円	決算	決算総額 23,400 円 (内訳) 旅 費 23,400 円
評価	参加生徒２１人のＡ評価は５０％、肯定的評価は１００％であった。「一人ひとりが意見をもち、むつ市民を中心に考えていることが分かった」「市議会でも学校と同じく、積極的に意見を出して反映させることが大切だと分かった」等の感想から目的は達成できたといえる。		

課 題	日程上やむを得ず1日目の最初の一般質問を傍聴させているが、可能であれば児童生徒にも分かりやすい内容の一般質問を傍聴させたい。	今後の 方針	来年度は、小学生は9月議会の傍聴、中学生は11月にこども議会を実施する予定のため、綿密な計画と関係課及び学校との連絡調整を確実にやっていく。
--------	--	-----------	--

事業名	むつ市中学生夢はぐくむ体験入学事業		
大綱施策	1-(3)-①キャリア教育の充実		
概要	大学での体験活動をととして、将来の職業に対する意識と学習意欲を向上させるとともに、各中学校でのキャリア教育推進の一助とする。 地域の医療や住民の健康状態等の現状と課題を知らせ、健康に対する意識を高め、健康的な生活を送る態度を育てるとともに、地域の課題解決に向けて積極的に関わろうとする意欲を持たせる。		
計画	○県内の大学で体験活動を行う。 ○対象となる市内中学生を募集する。 (定員20人)	実績・成果	○申込⇒15名（1名欠席のため14名参加） ○午後は高校生向けミニオープンキャンパスと同時開催。
予算	予算総額 30,000 円 (内訳) 食糧費 30,000 円	決算	決算総額 14,880 円 (内訳) 食糧費 14,880 円
評価	今年度初めて県立保健大学での実施となったが、参加生徒14名の肯定的評価は100%、興味のある学科の内容を知ることができ良かった等の感想から、目的は達成できた。		
課題	参加生徒が少ないため、中学生のニーズに合う内容を検討することと、大学側の都合を確認しながら、できるだけ生徒が参加しやすい時期に実施できるように検討していく必要がある。	今後の 方針	来年度も県立保健大学での実施を第一候補とし、中学生にとって魅力的な内容となるよう、大学の担当者と綿密に打ち合わせをしながら計画を立てていく。

事業名	関係機関との連携		
大綱施策	1-(3)-①キャリア教育の充実		
概要	海洋研究開発機構むつ研究所による海洋教室や、東北放射線科学センターによる理科教室を行うことにより、科学への関心を高めるとともに、研究者との交流を通して、夢と希望を育てる。		
計画	○小・中学校において、海洋教室及び理科教室を開催する。 ○海洋教室 ・令和5年11月／田名部中学校1年生 ○理科教室 ・令和5年11月／大平中学校2年生	実績・成果	○海洋教室 令和5年11月20日～22日 田名部中学校1学年6学級 ○理科教室 令和5年11月14日 大平中学校2学年67名
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円
評価	学校の授業では、容易に取扱うことができない放射線や海洋に関する内容について、体験的に学びながら研究者と交流することができた。		
課題	科学への関心を高めるとともに、研究者との交流を通して夢と希望を育めるよう運営の工夫を図る必要がある。	今後の 方針	海洋教室主催者、並びに理科教室主催者との連絡調整を図り、参加する児童生徒が、科学への関心を高めるとともに、研究者との交流を通して、夢と希望を育めるようにする。 令和6年度は、海洋教室はむつ中学校、理科教室は川内小・中学校で実施予定。

事業名	むつ市子ども夢育成基金		
大綱施策	2-(1)-①スポーツ活動の推進		
概要	むつ市を担う子供たちを育成するため「むつ市子ども夢育成基金」を活用し、市内の小・中学生の文化、芸術、スポーツ、体験事業・研修派遣等を積極的に支援する。		
計画	○むつ市の小・中学生が参加する文化・芸術活動の大会派遣に係る経費について補助する。 ○むつ市の小・中学生が参加するスポーツ活動の大会派遣に係る経費について補助する。	実績・成果	○むつ市の小・中学生の文化・芸術活動 大会派遣補助 1,111,100円 ・ピティナ・ピアノコンペティション ・小学生バンドフェスティバル東北大会 ○むつ市の小・中学生のスポーツ活動 大会派遣補助 2,516,500円 ・東北中学校体育大会 (陸上、水泳、ソフトテニス、柔道、剣道、駅伝、スキー) ・全国中学校駅伝大会 等 ※スポーツ活動：53件、文化・芸術活動：10件
予算	予算総額 10,031,000 円 (内訳) 補助金 5,000,000 円 積立金 5,031,000 円	決算	決算総額 6,827,786 円 (内訳) 補助金 3,627,600 円 積立金 3,200,186 円
評価	新型コロナウイルスの影響も少なくなり、申請件数が例年並みとなった。基金の活用により、大会参加における経済的負担の抑制が図られている。		
課題	事業を継続していくための財源の確保が必要である。	今後の方針	むつ市夢育成基金についてホームページや広報むつで周知し、申請書類等もHPからダウンロードできるよう整備していく。

事業名	キャリア教育推進事業		
大綱施策	1-(3)-①キャリア教育の充実		
概要	キャリア教育の一環として、むつ下北または青森県出身者を中心に全国的な活躍をしている方の講話を聴く体験をとおして、将来の職業に対する意識や学習意欲を向上させ本市の未来を担う人材を育成することにつなげる。		
計画	○実施校の選定を行う。 ○開催に向けて日程調整を行う。	実績・成果	○市内小・中学校10校で実施。 田名部中学校、脇野沢小・中学校、川内小学校、第三田名部小学校、奥内小学校、大湊小学校、むつ中学校、関根中学校、正津川小学校 ※脇野沢小・中学校は同時開催のため、9回実施
予算	予算総額 652,000 円 (内訳) 報償費 315,000 円 旅費 337,000 円	決算	決算総額 144,152 円 (内訳) 報償費 111,000 円 旅費 33,152 円
評価	肯定的評価は全児童生徒が88.3%、全教職員が94.7%であり、将来について考える一つの契機とすることができた。		
課題	講師と学校との都合が合わず、学校の第一希望の講師での実施ができないケースがあった。	今後の方針	来年度は、講師選択の幅を広げ、各校で柔軟な対応がとれるよう、「児童生徒の高い志をはぐくむ支援事業」の中で講師派遣を支援していく。

(9) 特別支援教育体制の充実

事業名		スクールサポーター配置	
大綱施策		1-(3)-②特別支援教育の充実	
概要	小・中学校の通常学級並びに特別支援学級に在籍する多動傾向や要介助など、特別な配慮を必要とする児童生徒の学校生活や学習活動を支援するため、各学校にスクールサポーターを配置し、特別支援教育体制の充実に努める。		
計画	○33人を配置する。 ○1日6時間以内、年間1,218時間以内で活用する。	実績・成果	○配置人数：33人 ・小学校：8校 26人 ・中学校：3校 7人 ○任期：令和5年4月1日～令和6年3月31日 ○1日6時間以内、年間1,218時間以内で任用
予算	予算総額 49,553,000 円 (内訳) 報酬 41,941,000 円 期末手当 5,775,000 円 旅費 1,837,000 円	決算	決算総額 48,793,743 円 (内訳) 報酬 41,854,588 円 期末手当 5,740,306 円 旅費 1,198,849 円
評価	各学校からのスクールサポーターへの需要が高く、事業の継続を望んでいる。		
課題	各学校からの要望人数を合計すると、例年70名を超える状況のため、希望に沿えない学校がある。児童生徒数や特別支援学級の設置状況を勘案して、優先順位を決めて配置している。	今後の方針	次年度は3人増員し、特別支援教育体制の充実に努める。また、今後もハローワークへの求人票提出や市HPへの掲載等、人材確保に取り組んでいく。引き続き学校の要望や実状を勘案して、効果的な配置に努める。

事業名		むつ市就学事務説明会・就学相談研修会開催	
大綱施策		1-(3)-②特別支援教育の充実	
概要	未就学児及び児童生徒の適切な就学に向けて、保育所（園）・幼稚園と小・中学校が連携しながら、見通しをもって、より充実した就学相談及び就学指導を行うことができるようにする。		
計画	○市内小・中学校の特別支援教育コーディネーター及び保育園・幼稚園・こども園の就学相談担当者を対象に就学指導説明会・就学相談研修会を開催する。	実績・成果	○令和5年5月8日に、むつ市役所で開催した。参加人数45人。 ○担当指導主事からの就学事務についての説明のほか、県立むつ養護学校教育相談担当の教諭による講演を行った。参加者からのアンケートは高評価だった。
予算	予算総額 4,000 円 (内訳) 旅 費 4,000 円	決算	決算総額 3,636 円 (内訳) 旅 費 3,636 円
評価	研修後のアンケートでは、4段階評定でA評価80%、B評価16%で、未提出者以外は全てポジティブ評価だったことから、目的を達成できた。		
課題	未就学児の保護者との面談、特別支援教育推進委員会の審議の様子から、幼・保、小、中の教員が就学相談をするにあたり、特別支援学級や特別支援学校についての豊富な知識を持つべきであると感じる。	今後の方針	これまでは、就学相談をする際の心構え、ポイントを中心とする講演が多かったが、次年度は「通級指導教室」「特別支援学級（小・中、知的・情緒の違いなど）」、「特別支援学校～就労」についての理解を深める内容とする。

事業名	むつ市特別支援教育推進委員会開催		
大綱施策	1-(3)-②特別支援教育の充実		
概要	特別支援教育推進委員会を開催し、適切な教育環境のもとで能力及び特性に応じたきめ細かな指導や、適切な就学ができるよう指導・助言を行う。また、総合判断に向けた専門検査を実施する。		
計画	○定例会は年4回の開催だが、必要に応じ、臨時の特別支援教育推進委員会を開催する。委員会の総合判断の結果を教育長に具申する。	実績・成果	○定期開催：4回 ・第1回：令和5年5月11日 ・第2回：令和5年9月14日 ・第3回：令和5年11月16日 ・第4回：令和5年2月15日 ○臨時開催：5回 ○対象児童生徒数：85人
予算	予算総額 1,102,000 円 (内訳) 報酬 134,000 円 旅費 705,000 円 消耗品費 91,000 円 食糧費 2,000 円 手数料 60,000 円 備品購入費 41,000 円 負担金 69,000 円	決算	決算総額 808,554 円 (内訳) 報酬 91,000 円 旅費 499,256 円 消耗品費 90,945 円 食糧費 1,788 円 手数料 9,140 円 備品購入費 40,425 円 負担金 76,000 円
評価	推進委員会での判断に資するため、事務局が学校や幼・保園と情報共有し、支援が必要な子供とその保護者との面談や検査を適切に遂行することができた。よって、目的は達成できたといえる。第2回、第3回の推進委員会の審議対象者が多く、専門検査の日程調整や当日の進行等、難しい面があったが無事終えることができた。		
課題	・年度末に近づいてから特別支援学級入級の要望が多数あったため、各校には、保護者との面談や校内委員会の開催等を計画的に行うことを改めて呼びかける必要がある。 ・専門調査員を、増員することが必要である。	今後の方針	・各校において、計画的に就学相談が行われるよう、機会を捉えて各校に周知する。(4月校長会、5月就学事務説明会、第3回特別支援推進委員会後等) ・専門調査員の人数確保に対する支援を計画的に進める。

(1 0) 国際化に対応する教育と郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進

事業名	外国語指導助手配置		
大綱施策	1-(3)-①キャリア教育の充実		
概要	小学校での外国語活動、中学校での英語科、小・中学校における諸活動にALTを派遣することによって、日常的な国際理解教育の充実を目指す。		
計画	○ALT 5 人のうち、小学校に 4 人、中学校に 1 人を配置し、外国語活動、英語科の授業等において活用を図る。	実績・成果	○ALT 配置人数 ・小学校：4 人 ・中学校：1 人 ○1 学級あたりの年間活用時間 ・小学校：約35時間 ・中学校：約12時間
予算	予算総額 19,228,000 円 (内訳) 報酬 18,000,000 円 旅費 652,000 円 負担金 576,000 円	決算	決算総額 17,024,248 円 (内訳) 報酬 16,086,600 円 旅費 363,588 円 負担金 574,060 円
評価	児童生徒へのアンケート結果において、「ALTの先生との学習で、もっと英語によるコミュニケーションをしてみたいと思った」と答えた割合は89.0%であり、国際理解及び英語学習に対する意欲を高めることができた。		
課題	・ALTの訪問回数について、小学校の希望に十分応えることができていない。 ・ALTの指導力向上のため、担当として授業を定期的に参観し、ALTの資質向上を図る必要がある。	今後の方針	児童生徒の充実した学びを確保するために、学校からの要望をうかがいつつ、学校規模に応じた派遣計画を浸透させるため、派遣回数等について検討していく。

事業名	Enjoy English、All English Day実施		
大綱施策	1-(3)-①キャリア教育の充実		
概要	ALTとの活動を通して、児童生徒が英語でコミュニケーションすることの楽しさを体感し、英語学習への興味・関心を高め、学力向上を目指す。		
計画	○All English Dayの実施（中3を対象） ○Enjoy Englishの実施（小6を対象）	実績・成果	○All English Day：10月29日実施 ○Enjoy English：3月2日実施
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円
評価	中学生対象のAll English Day及び小学5～6年生対象のEnjoy Englishともに、参加児童生徒の肯定的評価は100%であったことから、目的は達成された。		
課題	・参加者増加のために、周知内容及び方法の工夫が必要。 ・自然と英語に触れさせる活動内容の検討が必要。	今後の方針	計画から変更し、対象学年を広げて実施したが、今後も同様に対象者を拡大し、楽しみながら自然に英語に触れる活動を実施していく。

事業名	むつ市ジュニア大使派遣		
大綱施策	1-(3)-①キャリア教育の充実		
概要	むつ市内の中学生をアメリカ合衆国ポートエンジェルス市に派遣し、姉妹都市交流の充実を目指すとともに、次代を担う人材の育成を図る。		
計画	○中学生10人を7日間の行程で派遣する。 ○事前・事後研修会、結団式、報告会の開催及び報告書を作成する。	実績 成果・	・ジュニア大使を決定(10名) ・派遣期間：令和6年1月4日～11日 ・報告会開催日：令和6年1月31日
予算	予算総額 8,870,000 円 (内訳) 報 償 費 90,000 円 旅 費 1,211,000 円 消 耗 品 50,000 円 印刷製本費 55,000 円 食 糧 費 646,000 円 役 務 費 10,000 円 委 託 料 6,808,000 円	決 算	決算総額 9,903,866 円 (内訳) 報 償 費 85,755 円 旅 費 3,220,895 円 消 耗 品 77,616 円 印刷製本費 87,120 円 食 糧 費 645,935 円 役 務 費 71,360 円 委 託 料 5,715,185 円
評価	ジュニア大使10名は、市内中学生の代表という自覚をもって活動に取り組む様子が見られた。また、現地での発表や交流について好評を得た。帰国後も周囲に「伝える」という使命を果たそうとする姿や英語学習を一層頑張ろうとする姿が見られ、目標は達成されたと考える。		
課題	・ジュニア大使派遣事業のホームステイ先の確保 ・派遣する時期、日程の検討	今後の 方針	・令和6年度のジュニア大使派遣事業実施のため、ポートエンジェルス市の担当との連絡・調整を継続する。 ・今後は隔年での実施とし、ジュニア大使を派遣しない年は台湾等の他地域への派遣を検討する。



ジュニア大使派遣事業

事業名	中華民国陽明國民中学との友好交流		
大綱施策	1-(3)-①キャリア教育の充実		
概要	旧川内町立川内中学校と中華民国陽明國民中学の姉妹校交流を引き継ぎ、中華民国から中学生と教職員を受け入れ、学校訪問をととして交流を図る。		
計画	○陽明國民中学からの訪問団を受け入れ、学校訪問等をととして交流する。	実績・成果	○5月29日 ・陽明國民中学訪問団来市 ・引率団と懇親会開催 陽明引率団12名、むつ市側15名参加 ○5月30日 ・川内中学校にて交流会実施 ・陽明國民中学生27名、川内中生63名参加 ○10月23日 ・陽明國民中学生と川内中生でオンライン交流会実施 ○11月4日～7日 ・川内中生代表10名台湾派遣、交流
予算	予算総額 395,000 円 (内訳) 報 償 費 70,000 円 旅 費 21,000 円 消 耗 品 30,000 円 食 糧 費 235,000 円 印刷製本費 18,000 円 役 務 費 10,000 円 委 託 料 0 円 使 用 料 11,000 円	決算	決算総額 3,698,347 円 (内訳) 報 償 費 118,250 円 旅 費 560,219 円 消 耗 品 65,676 円 食 糧 費 102,903 円 印刷製本費 89,200 円 役 務 費 16,130 円 委 託 料 2,743,739 円 使 用 料 2,230 円
評価	5月に5年ぶりとなる陽明國民中学訪問団の来市を受け入れ、懇親会や交流会をととして親睦を深めることができた。また、その時の縁で、川内中学校の代表生徒10名を台湾へ派遣することとなった。現地でのホームステイや学校訪問を通して、文化的・教育的交流をすることができ、今後の交流継続への契機となった。		
課題	陽明國民中学との友好交流を充実させるために、陽明國民中学の意向も聞きながら、むつ市や交流校の事情も理解してもらえるように連絡・調整を図る必要がある。	今後の方針	陽明國民中学との友好交流を通して、中学校の生徒が異文化交流をする楽しさを味わえるように、中学校と綿密に連絡し合い、計画的に準備を進めていく。 また、今後も定期的な交流を目指していく。



陽明國民中学との交流

事業名	ジオパーク体験活動推進		
大綱施策	1-(4)-①ふるさとむつ市への愛着と誇りを育む教育		
概要	ジオサイトの見学やジオサイトに関する学習を実施する小・中学校に対して、移動に要するバス借上料や教材等の活動費等を助成する。		
計画	○ジオサイトを活用した校外学習にあたって、必要な経費の一部を助成する。	実績・成果	○小学校5校、中学校7校へ助成している。見学先では、薬研、尻屋崎、北部海岸、釜臥山、恐山等が多かった。また、ジオパーク推進課や生涯学習課から講師を招いての事前学習や、体験活動を取り入れている学校が多い。 ○本事業を活用していない学校でも地域学習は継続的に行われている。
予算	予算総額 1,887,000 円 (内訳) 報 償 費 36,000 円 旅 費 43,000 円 消 耗 品 費 181,000 円 使用料及び賃借料 1,627,000 円	決算	決算総額 1,721,328 円 (内訳) 報 償 費 0 円 旅 費 3,034 円 消 耗 品 費 99,614 円 使用料及び賃借料 1,618,680 円
評価	児童生徒のアンケートでは、「今までよりも地域のことに興味をもつようになった」と回答した割合が74%（前年度同値）、「地域学習で学んだ場所に行ってみたいと思った」と回答した割合は71%（前年度64%）だったことから、児童生徒が地域に興味をもつ上で一定の役割を果たしている。また、学習後の感想として、「伝統文化を受け継ぎ、世の中に広げるためのアイデアを考えようと思った」「自分が住んでいる地域が好きになった」などの声があった。		
課題	予算上、対象学年等の制限をして助成しているが、各校のジオパーク学習のさらなる充実のためにも、助成額を増やしたい。	今後の方針	各校が活用した関係機関や講師等の情報を集約し、情報提供することで充実したジオパーク学習につなげる。また、全国大会に向けて、関係課と連携して学校の活動を支援していく。

事業名	むつ市民歌に親しむ機会づくり		
大綱施策	1-(4)-①ふるさとむつ市への愛着と誇りを育む教育		
概要	児童生徒が、むつ市民の一人として、地域に学び地域に貢献しようとする意識の醸成を図るため、むつ市民歌に親しむ機会を設ける。		
計画	○むつ市民歌に親しむ機会を増やす手立てとして市民歌のCDを各校必要数分配付する。	実績・成果	○活用事例を記載した資料とともに、各校へ2枚ずつCDを配付した。
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円
評価	市民歌のCDを市内全校に配付し終えたことから、事業の目的は達成したと考える。		
課題	今年度からスタートした事業であったが、継続については検討が必要である。	今後の方針	配付した市民歌のCDを、今後も各校が無理なく有効に活用していくものと考え、本事業は継続しないこととした。

(1 1) 生徒指導の充実と関係機関との連携強化

事業名		生徒指導検査実施	
大綱施策		1-(3)-③豊かな心の育成	
概要	学校環境適応感尺度「アセス」を実施し、児童生徒の対人関係能力を育成するとともに、学校の人的環境への適応を促進する。 「いじめ・不登校対策研修講座」を開催し、不安や悩みを抱え込まずに信頼できる人に相談をしていこうと促すＳＯＳの出し方に関する講義と演習を行い、教員の指導力の向上を目指す。		
計画	○検査対象 小学校３年生から中学校３年生 ○「いじめ・不登校対策研修講座」でＳＯＳの出し方や出させ方に関する方法を学び、各校で実践する。	実績・成果	○市内全小・中学校で「アセス」を継続的に実施するとともに、学校ごとに独自の生活アンケート等も定期的に行うことで個々の支援につなげている。 ○「いじめ・不登校対策研修講座」には、29名の教員が参加し、ＳＯＳの出し方や受け止め方に関する研修を受けた。
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円
評価	「いじめ・不登校対策研修講座」は、前年度未受講の教員を対象に実施し、今年度で３年目となる。従って、児童生徒にＳＯＳの出し方に関する指導ができる教員が増えてきている。 「アセス」について、各学校では「アセス」の他にも独自のアンケート等も取り入れて、児童生徒一人ひとりの悩みや不安を的確に把握し、教育相談体制の充実に努めている。		
課題	・児童生徒のＳＯＳを素早くキャッチし、組織的な対応につなげていくよう、教育相談体制の充実を図る。 ・児童生徒にＳＯＳの出し方について、指導できる教員を一人でも多く増やしていく。	今後の方針	・「いじめ・不登校対策研修講座」は、次年度も未受講者を対象に実施し、児童生徒にＳＯＳの出し方を指導できる教員を増やす。 ・各学校では児童生徒の様子を把握するために「アセス」を含め複数の検査等を活用していることから、実施報告書の提出は求めない。

事業名		むつ市いじめ問題対策委員会開催	
大綱施策		1-(3)-③豊かな心の育成	
概要	むつ市のいじめ防止基本方針に基づく対策について、実施状況を定期的に点検及び評価し、不断の見直しを行う。		
計画	○いじめ問題対策委員会を開催する。 (年1回、委嘱期間2年)	実績・成果	○委員の方々に前年度のいじめ防止に関する取組を報告するとともに、今年度の取組について確認いただいた。
予算	予算総額 96,000 円 (内訳) 報酬 46,000 円 旅費 20,000 円 負担金 30,000 円	決算	決算総額 82,414 円 (内訳) 報酬 39,000 円 旅費 16,414 円 負担金 27,000 円
評価	委員の方々に実施状況を点検、評価していただき、「いじめ防止に向けた他自治体の先進的な取組があればむつ市でも取り入れてほしい」などの意見をいただいた。また、2月末現在で今年度のいじめの認知件数は78件中52件が解消している(残り26件は発生から3か月未満)。		
課題	本委員会の意見を各校に周知し、いじめ防止基本方針の点検と見直し等について必要な情報を提供していく必要がある。	今後の方針	校長会と教育委員会との合同会議や、生徒指導担当者が出席する学校警察連絡協議会を利用し、各校への周知を図る。

事業名	むつ市いじめ防止宣言フォーラム		
大綱施策	1-(3)-③豊かな心の育成		
概要	「いじめ根絶」に向けた児童・生徒会活動に対する理解を深めるとともに、児童生徒をいじめから守り、市民総がかりでいじめ防止に取り組むという意識の啓発を図る。		
計画	○令和5年11月30日 ・田名部中学校ブロック	実績・成果	○田名部中学校全校生徒と田名部中学校ブロックの小学校代表児童による、笑顔あふれる学校づくりに向けた取組の紹介とパネルディスカッションを行った。
予算	予算総額 30,000 円 (内訳) 消耗品費 30,000 円	決算	決算額 0 円
評価	来賓・一般参加者のアンケートでは、回答した34名全員がフォーラムによって市民総がかりでいじめ防止に取り組むという意識が深まったと答えた。また、生徒アンケートでも、97.4%の生徒がフォーラムを通してこれまで以上にいじめ防止について考えることができたという回答したことから、目的を達成できたといえる。		
課題	市内9中学校ブロックでの開催が終了したため、今後のフォーラムの持ち方について検討が必要である。	今後の方針	フォーラムを休止し、こども議会の中に中学生がいじめ防止も含めた様々なテーマについて発表し、他校の取組を自校の取組に生かすことができる場を設定していく。

事業名	望ましい集団づくり実施		
大綱施策	1-(3)-③豊かな心の育成		
概要	各学校が、SGE（構成的グループエンカウンター）等の活動を通して、児童生徒の自己理解や他者理解を促し自尊感情を高めるとともに、学級の支持的風土や受容的な雰囲気醸成など、望ましい集団づくりに効果的に取り組めるよう支援する。		
計画	○実践例の提供 ・望ましい集団づくりに向けてSGE（構成的グループエンカウンター）等の実践例 ○各学校の取組状況の確認・共有	実績・成果	○5月：リーフレットや実践例を各校へ配付した。 ○各学校では、学級活動の時間等において実践例を活用するなど、学校の状況に応じて取り組んでいる。
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円
評価	5月にリーフレットや実践例を配付し、各学校の実態に合わせて活用していただいた。		
課題	学校、学級の実態が多様であり、各学校がそれに応じて柔軟に取り組んでいる。教育委員会からの実践例の提供は、あくまでも実践例の提供に留め、各学校の創意工夫を促すことで、多様な児童生徒に対応できるようにすることが大切と思われる。	今後の方針	各学校の実態に応じた取組を促進するため、教育委員会からの実践例の提供はしない。今後は、各学校の求めに応じ、随時訪問を活用するなどの取組を進めていく。

(1 2) 教育相談体制の充実

事業名		むつ市教育相談室開設	
大綱施策		1-(3)-③豊かな心の育成	
概要	いじめや不登校などの悩みを抱える児童生徒及び保護者、教職員に対する一般教育相談・就学相談並びに適応指導などを行うことによって、児童生徒が健全に成長するよう援助する。		
計画	○むつ市教育研修センターに教育相談員 2 人を配置する。 ○むつ市教育研修センターにむつ市教育相談室を開設し、教育相談員を中心に児童生徒とその保護者、学校関係者に対する相談業務を行う。	実績・成果	○教育相談員配置人数：2 人 ○任期：令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日
予算	予算総額 5,308,000 円 (内訳) 報酬 4,611,000 円 期末手当 532,000 円 報償費 56,000 円 旅費 109,000 円	決算	決算総額 5,055,193 円 (内訳) 報酬 4,428,937 円 期末手当 533,044 円 報償費 80,000 円 旅費 13,212 円
評価	教育相談来室等（適応指導・来室相談・電話相談・メール相談）の延べ件数が、昨年度に比べ増加（令和 4 年度：816 件 令和 5 年度：850 件）したことから、より多くの児童生徒と関わることができた。また、複数回相談に至ったケースや相談室通室につながった例も多くみられたことから、相談機能の充実が図られたと考えられる。		
課題	悩みを抱える児童生徒やその保護者が、問題解決に向かえるように、教育相談体制のより一層の充実に努める必要がある。 生徒指導提要の改訂により、学校と関係機関との連携構築が、今後ますます求められる。学校の様々な求めに応じて柔軟に対応し、チーム学校の一員としての役割を十分に果たしていく必要がある。	今後の方針	悩みを抱える児童生徒のアセスメントを重視し、一人一人の状況に合わせて適切な支援を行う。 学校の様々な求めに応じて柔軟に対応し、チーム学校の一員としての役割を可能な限り果たす。

事業名		自立支援相談員配置			
大綱施策		1-(3)-③豊かな心の育成			
概要	適応指導教室に通室する不登校等の悩みを抱える児童生徒に対して、教育相談や適応指導、学習支援を実施し、児童生徒の学校復帰及び社会的自立に向けた支援を行う。				
計画	○むつ市教育研修センターに自立支援相談員を6人配置する。 ○不登校または不登校傾向にある児童生徒への支援の充実を図る。		実績・成果	○自立支援相談員配置人数：6人 ○任期：令和5年4月1日～令和6年3月31日	
予算	予算総額 8,999,000 円 (内訳) 報酬 7,571,000 円 期末手当 1,050,000 円 旅費 378,000 円		決算	決算総額 8,881,433 円 (内訳) 報酬 7,748,648 円 期末手当 953,844 円 旅費 178,941 円	

評価	適応指導教室の1日通室人数が最大9人となった。これは、過去最高の人数である。また、特別支援学級に在籍している児童生徒も受け入れ、一人一人に寄り添った支援ができた。		
課題	通室生に継続して支援していくために、自立支援相談員の継続雇用が必要である。 適応指導教室に通室する児童生徒の状況は様々であるため、適切に対応できるよう研修を充実させる必要がある。	今後の方針	自立支援相談員の通室生への支援力を高めるため、教育相談に関する研修を充実させ、適切な支援が行えるようにする。 様々なケースに適切に対応するため、チーム支援体制を強化する。

事業名	適応指導教室開設		
大綱施策	1-(3)-③豊かな心の育成		
概要	むつ市教育相談室に適応指導教室を開設し、不登校をはじめとする学校不適応などの課題を抱える児童生徒の学校復帰及び社会的自立に向けた指導と支援を行う。		
計画	○不登校等の悩みを抱える児童生徒への支援の充実を図る。	実績・成果	○適応指導を受けた児童生徒：15人 ○実施した行事等 開・閉級式、始業式、終業式、科学技術館体験活動、バス遠足、音楽教室、スポーツ教室、自然の家体験活動、フラワーアレンジメント教室、文化祭、調理体験教室、お楽しみ会
予算	予算総額 133,000 円 (内訳) 消耗品費 120,000 円 食糧費 5,000 円 使用料 3,000 円 負担金 5,000 円	決算	決算総額 143,848 円 (内訳) 消耗品費 132,734 円 食糧費 4,974 円 使用料 1,140 円 負担金 5,000 円
評価	適応指導教室の1日通室人数が最大9人となった。これは、過去最高の人数である。また、特別支援学級に在籍している児童生徒も受け入れ、一人一人に寄り添った支援ができた。		
課題	不登校で悩む児童生徒の状況が複雑化・多様化している。通室生の学校復帰及び社会的自立に向けて、個に応じたきめ細かな支援体制を構築する必要がある。 また、通室生に寄り添った柔軟な適応指導教室の運営が求められる。	今後の方針	悩みを抱える児童生徒のアセスメントを重視し、一人一人の状況に合わせて適切な支援を行う。 適応指導プログラムの更なる充実を図り、個別の支援計画をもとに、組織的・計画的な支援を継続して行う。

学校教育課の重点項目の総括評価

令和5年度からの新規事業である「学力向上に向けた協議会」「算数・数学チャレンジ」をはじめ、継続事業の「総合学力調査」等を通して、児童生徒の学習意欲向上に向けた各校の取組を充実させることにより、一定の成果を得ることができた。また、学校教育課ポータルサイトの開設やタブレット端末の活用推進、電子黒板・自動採点機能ソフト検証等の事業により、ICTを活用した教育環境の整備を進めることができた。 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もほとんどなくなり、児童生徒の意欲向上や教員の意識改革等に向けて、以前とほぼ同様の取組を行うことができたのが大きな成果である。しかし、内容の重複や、検討が必要な事業もある。これらのことを踏まえ、次年度以降の計画立案に向けて、各事業内容を見直した上で、精選を図っていく。
--

4 公民館

■ 具体的な取組の評価 ■

(1) 公民館の適正管理と運営の充実

事業名	公民館運営審議会の開催		
大綱施策	2-(1)-②生涯を通じた学びの推進		
概要	公民館運営審議会は、館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議するものである。 むつ市公民館条例第5条に基づき公民館運営審議会の委員を委嘱する。委員の定数は、15人以内とし、任期は2年とする。審議会は、むつ市中央公民館長が必要に応じて招集し開催する。		
計画	○委員の委嘱(令和5年9月1日～令和7年8月31日) ○審議会開催 ○青森県公民館研究フォーラムに参加 令和5年10月20日弘前市	実績・成果	○令和5年4月12日 第185回公民館運営審議会開催(R4現況報告、R5事業概要説明) 11名出席 ○令和5年9月15日 委嘱状交付式及び第186回公民館運営審議会開催(R5の中間報告) 13名出席 ○令和5年10月20日 青森県公民館研究フォーラム (弘前市岩木文化センター) 7名参加
予算	予算総額 469,000 円 (内訳) 報酬 293,000 円 旅費 161,000 円 需用費 15,000 円	決算	決算総額 272,525 円 (内訳) 報酬 169,000 円 旅費 98,525 円 需用費 5,000 円
評価	公民館運営審議会を開催し、運営状況及び今後の運営方針について審議していただき、9月に委員委嘱を行った。		
課題	事業中止期間を経て、計画通りに事業実施可能となったが、委員からの意見は少ない傾向のままである。	今後の方針	事業報告を工夫しつつ、審議会の機能を生かしながら、市民のニーズに沿った事業を推進していく。

事業名	公民館の適正管理		
大綱施策	2-(1)-②生涯を通じた学びの推進		
概要	川内公民館、大畑公民館は開館してから50年以上経過しており、設備等が老朽化していることから適宜点検を実施し、不具合については、計画的な修繕改修を行う。中央公民館では、自動昇降機、電動スクリーン改修工事を実施。赤川地区公民館の屋根及び衛生設備の改修工事を実施する。		
計画	○むつ市中央公民館施設設備改修 自動昇降機修繕工事、電動スクリーン改修工事 ○赤川地区公民館屋根改修工事 ○赤川地区公民館衛生設備等改修工事	実績・成果	○自動昇降機修繕工事 ○電動スクリーン改修工事 ○赤川地区公民館改修工事(屋根等) ○赤川地区公民館改修工事(衛生設備等)
予算	予算総額 39,140,000 円 (内訳) 委託費 5,602,000 円 工事費 33,538,000 円	決算	決算総額 33,722,700 円 (内訳) 委託費 3,738,900 円 工事費 29,983,800 円

評価	不具合のあった屋根や館内設備や改修されたことで市民により快適な環境で公民館を利用し ていただくことができるようになった。		
課題	公民館の老朽化により、修理、改修箇所 が毎年増加している。	今後の 方針	予算確保に努め、優先順位を協議して、 計画的に修繕改修を実施していく。

事業名	地区公民館・分館の管理運営		
大綱施策	2-(1)-②生涯を通じた学びの推進		
概要	むつ市公民館組織等規則第4条に基づき地区館長・分館長を任命し、運営についての 協議を行うとともに、年間の事業計画及び報告等を行うことによって、適正な管理運営 を行う。		
計画	地区館長・分館長の任期は2年となっ ており、令和5年3月31日をもって任期満了 となることから、新たに地区館長・分館長 を任命し、運営についての会議を開催す る。	実績・ 成果	○令和5年4月14日 中央公民館分館長委嘱状交付式・ 会議 15名出席 ○書面会議 川内公民館地区館長会議 ○令和5年4月24日 大畑公民館地区館長委嘱状交付式・ 会議 7名出席
予算	予算総額 1,466,000 円 (内訳) 報酬 944,000 円 旅費 522,000 円	決算	決算総額 1,010,610 円 (内訳) 報酬 937,500 円 旅費 73,110 円
評価	中央公民館分館長会議終了後に、分館運営で抱える問題について分館長から意見を聞く時間 を持つことができた。		
課題	施設の老朽化が進み、安全・安心に利用 できない分館・地区館も見受けられる。	今後の 方針	地区公民館は、老朽化の程度を調査検討 していく。分館への対応については関係部 局と連携しながら行っていく。

○各公民館の利用状況

(回、人)

		令和5年度	令和4年度	令5-令4増減	令和3年度	令和2年度
中 央	回数	1,544	1,418	126	1,164	1,027
	人数	27,850	23,631	4,219	18,154	13,572
川 内	回数	183	192	▲ 9	146	66
	人数	2,427	2,386	41	2,293	1,102
大 畑	回数	672	700	▲ 28	592	521
	人数	9,265	7,711	1,554	6,653	5,777
脇野沢	回数	313	321	▲ 8	304	219
	人数	3,265	2,849	416	2,461	1,599
計	回数	2,712	2,631	81	2,206	1,833
	人数	42,807	36,577	6,230	29,561	22,050

(2) 公民館事業の推進

事業名		青少年教育事業	
大綱施策		2-(1)-②生涯を通じた学びの推進	
概要	公民館を身近に親しんでもらい、様々な活動を通じて仲間づくりを行い、児童の健全育成を推進する。		
計画	①こどもゼミナール（中央公民館） ・小学生を対象に、体験型の講座を提供する。 ②こども仕事体験館「GOOD JOB（グッジョブ）!!」（中央公民館） ・小学4～6年生を対象に、職業への理解促進と地元での就業活動について考えるきっかけをつくる。 ③子どもお楽しみ会（中央公民館） ・幼児から小学生までを対象に大型紙芝居やアニメ映画の上映会を実施 ④ものづくり体験 ⑤その他・教室・講習会等（大畑公民館） ○ねぶた囃子講習会 ○大畑町子どもねぶた合同運行 ○大畑町子ども会冬期レクリエーション大会	実績・成果	①こどもゼミナール（中央公民館） 別表のとおり ②こども仕事体験館「GOOD JOB（グッジョブ）!!」（中央公民館） 開催日：令和5年11月12日 講師：5団体 参加者：33人 ③子どもお楽しみ会（中央公民館） 開催日：令和5年12月10日 参加者：81人 ④ものづくり体験 通年 参加者：10人 ⑤その他・教室・講習会等（大畑公民館） ○ねぶた囃子講習会 開催日：令和5年7月24・25日 参加者：延べ61人 ○大畑町子どもねぶた合同運行 開催日：令和5年8月6日 7団体 ○大畑町子ども会冬期レクリエーション 開催日：令和6年1月28日 16人
予算	予算総額 631,900 円 (内訳 報 償 費 406,000 円 旅 費 81,000 円 需用 費 144,900 円 役 務 費 0 円)	決算	決算総額 491,849 円 (内訳) 報 償 費 302,635 円 旅 費 52,811 円 需用 費 134,327 円 役 務 費 2,076 円
評価	ほぼ全ての事業で募集定員を超過または募集定員9割を満たす応募があった。応募者多数の講座については再度日程を設定するなど、子供たちの体験・学びの機会を広く確保するよう努めた。引き続き電子メール・LoGoフォーム等電子受付の機会を設け、共働き世代や平日日中の申込が困難な世帯も気軽に申込・参加できる体制を整えていきつつ、定員や内容を適宜見直しながらニーズを捉えた事業を展開していく。		
課題	子供向け講座は定員を超える申込があるなど人気がある一方、定員割れの講座もあることから、定員・実施内容・会場設定等に工夫を要する。	今後の方針	定員・実施内容・会場設定に関しては現在の情勢とニーズを柔軟に反映させながら、楽しさと学びのある事業を展開していく。

別表 ①こどもゼミナール（中央公民館）

ゼミナール名称	開催日	参加者	ゼミナール名称	開催日	参加者
科学実験講座	R5. 5. 28	28人	パソコン講座	R5. 11. 25	8人
	R5. 12. 3	27人		R5. 11. 26	7人
あそんでうんどう講座	R5. 6. 11	18人	お菓子づくり講座	R5. 12. 16	32人
料理講座	R5. 7. 2	10人	わくわくおえかき講座	R6. 1. 14	11人
わくわくたんけん講座	R5. 9. 2	11人	和菓子講座	R6. 1. 28	24人
ファッションデザイン講座	R5. 9. 3	10人	おりがみ講座	R6. 2. 18	13人

事業名	かきぞめ大会の開催		
大綱施策	2-(1)-④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実		
概要	子供たちが筆に親しみ、日本の伝統美に対する心を養うことを目的に、小・中学生を対象としたかきぞめ大会を開催し、作品の展覧会を行う。		
計画	①かきぞめ大会（4地区で実施） ○むつ会場（中央公民館） ○川内会場（川内公民館） ○大畑会場（大畑公民館） ○脇野沢会場（脇野沢地域交流センター） ②展覧会 ○中央公民館	実績・成果	①かきぞめ大会 下記表のとおり開催 ②展覧会 ○中央公民館 ・開催日：令和6年1月13日～21日 ・入場者：649人 ・入賞数：45点 （特選9点、準特選12点、入選24点）
予算	予算総額 168,802 円 （内訳）報償費 81,000 円 旅費 21,002 円 需用費 66,800 円	決算	決算総額 156,560 円 （内訳）報償費 71,000 円 旅費 17,292 円 需用費 68,268 円
評価	コロナ禍や書道人口の減少もあり、かきぞめ大会の参加も前年度よりやや減少したが、昨年度に引き続き、脇野沢地区でもかきぞめ大会が行われ、日本の伝統行事を体験希望する参加者へのニーズは応えることができた。		
課題	全体的に年々参加者が減少している。	今後の方針	かきぞめは特別な道具が必要であるため、普段使いの道具でも可とする等、誰もが参加可能とすることも検討していく必要がある。

かきぞめ大会参加状況

会場	開催日	参加者		
		小学生	中学生	合計
むつ	R6. 1. 6	23名	30名	53名
川内	R6. 1. 5	2名	0名	2名
大畑	R6. 1. 6	9名	2名	11名
脇野沢	R6. 1. 5	3名	0名	3名



かきぞめ大会川内会場（川内公民館）



子どもお楽しみ会（中央公民館）



こどもゼミナール（ファッションデザイン講座）

事業名	婦人教育事業		
大綱施策	2-(1)-②生涯を通じた学びの推進		
概要	女性としての生き方を考え、より豊かな人間性を育み、地域課題、生活課題に向き合うため「自ら学ぶ」ことを基本とした学習活動を展開する。		
計画	○むつ地区3学級 ・各学級毎に年間事業計画を立て、それに沿って活動するほか、他の学級等との合同学習会に参加し交流を深める。	実績・成果	○学級長会議(書面会議) ・合同学習会 手芸教室 開催日:令和5年7月5日 参加者:10人 ・合同学習会 消防署見学・救急法講習 開催日:令和5年10月25日 参加者:12人 ○郷土料理教室 ・開催日:令和5年10月18日 参加者:11人
予算	予算総額 94,000 円 (内訳) 報 償 費 48,000 円 旅 費 27,000 円 需 用 費 12,000 円 使用料及び賃借料 7,000 円	決算	決算総額 43,341 円 (内訳) 報 償 費 27,000 円 旅 費 14,332 円 需 用 費 2,009 円 使用料及び賃借料 0 円
評価	3学級のうち、活動しているのは2学級となっており、その活動も徐々に減少方向にあるが、学びを楽しみ、仲間たちとのつながりを深める効果もあるため、引き続き支援していく。		
課題	婦人学級に新規入会する若い世代がほぼいないため、婦人学級会員数の減少、学級生の高齢化が進んでいる。	今後の方針	現在、活動している2学級は学級生は減少傾向だが、年間を通じて活動しているので継続して支援していく。



市民大学公開講座 (青森大学むつキャンパス)



大畑公民館ゼミナール「歴史探訪教室」



婦人学級合同学習会 大湊消防署見学



脇野沢公民館ゼミナール「文化教室講座」

事業名		市民大学及び成人教育事業																																													
大綱施策		2-(1)-②生涯を通じた学びの推進																																													
概要		自然、芸術、社会、歴史、生活、健康など学習ニーズに対応した講座を開設し、地域の方々の教養の向上、健康の増進、情操の涵養に資することで、心豊かな地域社会を目指す。																																													
計画	画	実績・成果	○公開講座開催状況																																												
			<table><tr><td></td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>公開講座</td><td>10回</td><td>9回</td></tr><tr><td>聴講者数</td><td>延 375人</td><td>延 306人</td></tr><tr><td>登録者数</td><td>61人</td><td>53人</td></tr></table> 【主な講座】 ・むつ市地域おこし協力隊、ジオパーク、大湊ねぶたなど ○ゼミナールの公民館別開催状況 (上段：講座数 下段：登録者数) <table><tr><td>公民館</td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td rowspan="2">中 央</td><td>10 講座</td><td>10 講座</td></tr><tr><td>90 人</td><td>84 人</td></tr><tr><td rowspan="2">川 内</td><td>2 講座</td><td>1 講座</td></tr><tr><td>24 人</td><td>11 人</td></tr><tr><td rowspan="2">大 畑</td><td>4 講座</td><td>4 講座</td></tr><tr><td>61 人</td><td>64 人</td></tr><tr><td rowspan="2">脇野沢</td><td>4 講座</td><td>4 講座</td></tr><tr><td>54 人</td><td>57 人</td></tr><tr><td>計</td><td>19 講座</td><td>19 講座</td></tr><tr><td></td><td>219 人</td><td>216 人</td></tr></table> 【主な講座】 ・料理、運動、陶芸、歴史探訪など ○修了証の交付者数 <table><tr><td></td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>修了者数</td><td>36人</td><td>34人</td></tr></table>		令和5年度	令和4年度	公開講座	10回	9回	聴講者数	延 375人	延 306人	登録者数	61人	53人	公民館	令和5年度	令和4年度	中 央	10 講座	10 講座	90 人	84 人	川 内	2 講座	1 講座	24 人	11 人	大 畑	4 講座	4 講座	61 人	64 人	脇野沢	4 講座	4 講座	54 人	57 人	計	19 講座	19 講座		219 人	216 人		令和5年度	令和4年度
	令和5年度	令和4年度																																													
公開講座	10回	9回																																													
聴講者数	延 375人	延 306人																																													
登録者数	61人	53人																																													
公民館	令和5年度	令和4年度																																													
中 央	10 講座	10 講座																																													
	90 人	84 人																																													
川 内	2 講座	1 講座																																													
	24 人	11 人																																													
大 畑	4 講座	4 講座																																													
	61 人	64 人																																													
脇野沢	4 講座	4 講座																																													
	54 人	57 人																																													
計	19 講座	19 講座																																													
	219 人	216 人																																													
	令和5年度	令和4年度																																													
修了者数	36人	34人																																													
予算	予 算	決 算	決算総額 821,240 円																																												
	予算総額 1,018,000 円		(内訳) 報 償 費 485,388 円																																												
	(内訳) 報 償 費 601,000 円		旅 費 315,731 円																																												
	旅 費 374,000 円		需 用 費 20,121 円																																												
	需 用 費 34,000 円		使用料及び賃借料 0 円																																												
	使用料及び賃借料 9,000 円																																														
評価		多彩な公開講座、ゼミナールを実施し、市民が望む学びの場を提供することができた。参加者は昨年度より増加した。																																													
課題	公開講座は誰でも参加できる集客スタイルとしているが、新規の受講者が少なく、全体の受講者数も減少傾向にある。	今後の方針	公開講座、ゼミナールを開催し、引き続き、新規受講者の増を目指し、魅力ある「むつ市民大学」を実施していく。																																												

事業名	分館地域づくり講座開催		
大綱施策	2-(1)-②生涯を通じた学びの推進		
概要	地域住民が共に集い、学び合う場を提供し、活気あふれる地域社会づくりの推進を目的とする。		
計画	分館長会議を開催し、地域づくり講座の説明をしながら実施について促していく。 (対象：16分館)	実績・成果	・地域づくり講座 開催日：令和5年10月29日 参加者：14人 場 所：最花分館 講 師：教育委員会生涯学習課学芸員
予算	予算総額 48,000 円 (内訳) 報 償 費 24,000 円 旅 費 17,000 円 需 用 費 3,000 円 使用料及び賃借料 4,000 円	決算	決算額 0 円 (内訳) 報 償 費 0 円 旅 費 0 円 需 用 費 0 円 使用料及び賃借料 0 円
評価	徐々に地域活動が戻りつつある中、令和元年度以来4年振りに1分館にて講座を開催することができた。		
課題	講座開催および開催に向けた相談が少ない。	今後の方針	地域講座について、過去に開催された事例を説明する等、工夫しながら募集する。

(3) 社会教育関係団体等の育成支援

事業名	各団体への指導・助言及び支援		
大綱施策	2-(1)-③学校・家庭・地域の連携による教育活動の推進と人材育成		
概要	婦人教育分野、団体育成について社会教育指導員を配置し、直接指導及び学習相談に応じるなどして育成を行う。少年教育分野、団体育成については職員の人的援助等により助成、育成を行う。		
計画	○中央公民館に社会教育指導員(1名)を配置し、婦人教育の直接指導及び学習相談、並びに社会教育関係団体の育成を行う。 ○各団体の活動を支援するため、人的支援を行う。 ・むつ地区連合婦人会 ・むつ市子どもネブタ運行委員会 ○各団体の活動を支援するため人的支援及び補助金等を交付する。 ・下北地区子ども会育成連合会 ・むつ市連合婦人会 ・むつ市子ども会育成会連絡協議会 ・青森県子ども会安全会負担金	実績・成果	○むつ地区連合婦人会 ・むつ市婦人体育まつり 開催日：令和5年7月9日 場 所：第二田名部小学校体育館 参加者：10団体40名 ○むつ市子どもネブタ合同運行補助 むつ市子どもネブタ運行委員会解散のため合同運行なし ○下北地区子ども会育成連合会事務局 ・第57回青森県子ども会指導者・育成者研究大会 開催日：令和5年10月14～15日 場 所：むつグリーンホテル 参加者：87人 ・第39回下北地区子ども会郷土芸能発表会 開催日：令和6年2月11日 場 所：下北文化会館 来場者：469人

計 画		実績・成果	○むつ市連合婦人会 ・むつ市婦人芸能発表会 開催日：令和6年2月25日 場 所：下北文化会館 来場者：476人 ○むつ市子ども会育成会連絡協議会 事業費補助金支出 ○青森県子ども会安全会負担金 青森県子ども会育成連合会へ負担金支出
予 算	予算総額 613,000 円 (内訳) 負担金補助及び 交 付 金 613,000 円	決 算	決算総額 526,100 円 (内訳) 負担金補助及び 交 付 金 526,100 円
評 価	4年間未実施だった、むつ市婦人体育まつり、下北地区こども会郷土芸能発表会、むつ市婦人芸能発表会を開催することができた。子どもネブタ合同運行は参加子ども会の減少により実施できず、むつ市子どもネブタ運行委員会解散となった。		
課 題	婦人団体は、会員数の減少及び高齢化が進んでいる。子ども会は、地域の児童・生徒数の減少や活動の多様化により会員数の減少が続いている。また、それぞれの地区の子ども会活動を支援する育成者も減少している。	今後の方針	婦人団体は会員数の減少及び高齢化により、令和5年度で終了となった事業もあるが、他の事業の充実に向けた支援を継続していく。子ども会活動も縮小傾向にあるため、支援のあり方を検討していく。

事業名		公民館まつりの開催											
大綱施策		2-(1)-②生涯を通じた学びの推進											
概要		各中央館（中央、川内、大畑、脇野沢）の利用団体等が制作した作品の展示や、日頃の活動の成果を発表する場を設け、各団体との交流と活動の更なる活性化を図るとともに、訪れた市民を通じて市全体の生涯学習の意識の高揚を図る。											
計画	実績・成果	○公民館を利用しているサークル等が一堂に会し、日頃の活動を紹介・展示及び実演・体験指導を行い、市民の生涯学習（文化活動）の活性化を図る。 各中央館で開催する。	来場者は延人数										
			○中央公民館										
			・開催日：令和5年8月26日～8月27日										
			<table><tr><td></td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>参加団体</td><td>22団体</td><td>15団体</td></tr><tr><td>来場者数</td><td>246人</td><td>216人</td></tr></table>		令和5年度	令和4年度	参加団体	22団体	15団体	来場者数	246人	216人	
				令和5年度	令和4年度								
参加団体	22団体	15団体											
来場者数	246人	216人											
○川内公民館													
・開催日：令和5年10月15日													
		<table><tr><td></td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>参加団体</td><td>1団体</td><td>1団体</td></tr><tr><td>来場者数</td><td>420人</td><td>353人</td></tr></table>		令和5年度	令和4年度	参加団体	1団体	1団体	来場者数	420人	353人		
	令和5年度	令和4年度											
参加団体	1団体	1団体											
来場者数	420人	353人											
		○大畑公民館											
		・開催日：令和5年10月21日～22日 令和5年11月3日											
		<table><tr><td></td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>参加団体</td><td>10団体</td><td>11団体</td></tr><tr><td>来場者数</td><td>445人</td><td>246人</td></tr></table>		令和5年度	令和4年度	参加団体	10団体	11団体	来場者数	445人	246人		
	令和5年度	令和4年度											
参加団体	10団体	11団体											
来場者数	445人	246人											
		○脇野沢公民館											
		・開催日：令和5年11月1日～6日											
		<table><tr><td></td><td>令和5年度</td><td>令和4年度</td></tr><tr><td>参加団体</td><td>3団体</td><td>4団体</td></tr><tr><td>来場者数</td><td>42人</td><td>59人</td></tr></table>		令和5年度	令和4年度	参加団体	3団体	4団体	来場者数	42人	59人		
	令和5年度	令和4年度											
参加団体	3団体	4団体											
来場者数	42人	59人											

予 算	予算総額 339,000 円 (内訳) 報 償 費 188,000 円 消 耗 品 費 95,000 円 役 務 費 56,000 円	決 算	決算総額 220,018 円 (内訳) 報 償 費 128,000 円 消 耗 品 費 65,398 円 役 務 費 26,620 円
評 価	各地区の現状や各種団体の状況を踏まえ、実施・一部実施の判断を行っての開催である。中央公民館については4年振りに展示以外にも体験・フリーマーケット・試食提供および即売コーナーを設けての開催となり、令和4年度と比較し1日当たりの来館者数は倍増している。川内公民館については他イベントと同時開催して参加者増を図っている。		
課 題	来館者数や出展内容がコロナ禍以前の数値へ戻りつつあるものの、この期間に解散した団体等もある。	今後の方針	日頃の成果の発表や各種団体の活動の活性化に向け、改めて開催時期および実施形態について見直し協議していく。

事業名	社会教育指導員配置事業		
大綱施策	2-(1)-②生涯を通じた学びの推進		
概 要	むつ市社会教育指導員に関する規則に基づき、社会教育の振興を図るため、婦人教育分野についての直接指導及び学習相談、並びに社会教育関係団体の育成を行う目的で、社会教育指導員を配置する。		
計 画	○中央公民館に社会教育指導員を1人配置する。 (むつ市社会教育指導員に関する規則第4条により指導員の委嘱期間は1年とする。ただし、再任を妨げない。)	実績・成果	○社会教育指導員1名配置 ○任期：令和5年4月1日 ～令和6年3月31日 ○婦人学級や婦人会等女性団体の事業並びに青少年教育事業について指導・支援し各種教育の振興に効果的な役割を果たした。
予 算	予算総額 1,958,000 円 (内訳) 報 酬 1,743,000 円 職員手当等 191,000 円 旅 費 24,000 円	決 算	決算総額 2,179,577 円 (内訳) 報 酬 1,952,569 円 職員手当等 203,008 円 旅 費 24,000 円 ※決算総額のうち1,170,000円は電源立地地域対策交付金
評 価	婦人活動及び子ども会活動、各種社会教育活動がコロナ禍以前の活動内容に戻りつつあり、各団体の指導及び相談等を的確に行い、育成支援に寄与している。		
課 題	各団体とも、少子高齢化や人口減少により会員数が減少し、組織の維持や活動が以前ほど活発に実施できずにいる。	今後の方針	以前ほど活発な活動が難しい団体に対応した適切な支援や、組織維持に重点を置いた支援や指導を継続していく。

(4) 生涯学習関連機関等との連携促進

事業名	下北美術展の開催		
大綱施策	2-(1)-④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実		
概 要	下北地域の芸術文化の振興を図るため、児童生徒及び高校・一般から書道、絵画、版画、写真の作品を募集し、児童生徒の優秀作品と高校・一般の出品作品を展示及び表彰する。 実施主体は、下北地方公民館連絡協議会（1市1町3村で構成）である。		

計 画	○児童・生徒の部 開催 (絵画、版画、書道) ○高校・一般の部 開催 (絵画、写真、書道)	実績・成果	○児童・生徒の部 ・出品数：2,973点 ・入賞数：600点 ・展覧会 期間：令和5年8月5日～20日 ○高校・一般の部 ・出品数：60点 ・入賞数：23点 ・展覧会 期間：令和5年10月3日～9日
予 算	予算総額 370,000 円 (内訳) 報 償 費 25,000 円 負 担 金 345,000 円	決 算	決算総額 370,000 円 (内訳) 報 償 費 25,000 円 負 担 金 345,000 円
評 価	児童・生徒の部は昨年度より応募数も増加し入賞者数も増となったが、展示スペースを工夫して鑑賞しやすい展示をすることができた。		
課 題	ここ数年、他町村での展覧会（移動展）が行われていない。	今後の方針	下北美術展は地域の芸術文化の振興に寄与することを目的とした事業であるため、他町村においても展覧会（移動展）の開催を呼びかけ、多くの地域の方々に芸術に触れていただく機会を増やしていく。

事業名	高等教育機関との連携		
大綱施策	2-(2)-②社会人の学び直しの推進		
概 要	社会が大きく変わる中で、それに対応する新たな知識を得ることができるよう、市民大学一日体験入学や市内にある高等教育機関と連携しながら学びの場を提供する。		
計 画	青森大学むつキャンパスを会場として市民大学公開講座を開催。	実績・成果	令和5年10月19日 会場：青森大学むつキャンパス 講師：青森大学総合経営学部教授 佐々木 豊志 氏 参加者：25人（市民大学聴講者数に含む）
予 算	予算額 0 円	決 算	決算額 0 円
評 価	令和5年度も前年度に引き続き青森大学むつキャンパスにおいてSDGsに関する講座を対面方式で実施し、内容も大変分かりやすく好評であった。		
課 題	むつ市にも高等教育機関が開校し、市民の方にも大学の雰囲気を感じながら講座を受けていただく機会ができたが、受け入れ人数に限りがある。	今後の方針	青森大学むつキャンパスでの公開講座開設を継続しながら、むつ市にある他高等教育機関での開催も検討していく。

■ 公民館の重点項目の総括評価 ■

公民館の主催事業については、市民大学、こどもゼミナール、公民館まつり、かきぞめ大会等、ほとんどの事業を予定どおり実施することができ、市民が望む学びの場を提供することができた。 公民館の利用者数は、前年度より増加したが、長期的にはゆるやかな減少傾向である。要因として、少子高齢化や人口減少、生涯学習の多様化により団体での活動が少なくなったことが考えられる。又、コロナ禍期間に、施設の閉鎖や活動自粛により活発な活動ができなかったことも、利用者の学ぶ意欲の減退につながっていると考えられるため、利用者の多様な学びに対応した事業内容を検討し、可能な範囲で学習の場の確保に努めていく。又、公民館利用者が、安心安全で使いやすい施設を目指して、修理や改修等、施設内の適正管理に努めていく。

5 図書館

■ 具体的な取組の評価 ■

(1) 図書館の適正管理

事業名	空調設備等改修事業		
大綱施策	2-(1)- ②生涯を通じた学びの推進		
概要	施設も平成11年の竣工後24年が経過した。設備等についても機器の耐用年数を超過し故障頻度が高まっている空調設備の一部を更新。また、利用者の利便性の向上を図るため、新型コロナウイルス及びユニバーサルデザインに配慮した視聴覚コーナーの改修等を行う。		
計画	○図書館空調設備等改修工事監理業務委託 ○図書館空調設備等改修工事（建築工事） ○図書館空調設備等改修工事（電気設備工事） ○図書館空調設備等改修工事（機械設備工事）	実績・成果	○図書館空調設備等工事監理業務委託 委託期間 令和5年7月13日～令和6年3月22日 ○図書館空調設備等改修工事（建築工事） 工事期間 令和5年6月29日～令和6年3月15日 ○図書館空調設備等改修工事（電気設備工事） 工事期間 令和5年6月27日～令和6年3月15日 ○図書館空調設備等改修工事（機械設備工事） 工事期間 令和5年6月24日～令和6年3月15日
予算	予算総額 112,760,000 円 （内訳） 委託料 4,606,000 円 工事請負費 108,154,000 円	決算	決算総額 85,206,000 円 （内訳） 委託料 4,510,000 円 工事請負費 80,696,000 円
評価	当該工事により利用者の利便性の向上を図ることができた。		
課題	経年劣化への対応も含め、利用状況も踏まえ財源の確保を図りながら計画的に実施していく必要がある。	今後の方針	安心・安全に読書活動ができるよう、必要な設備改修を計画的に行っていく。

事業名	施設・設備の整備事業		
大綱施策	2-(1)- ②生涯を通じた学びの推進		
概要	老朽化のため、建物及び設備、機器類に不具合が多くなっている。快適な読書環境を提供するために施設、設備の整備を図る。		
計画	○蓄圧式ABC粉末消火器購入 ○視聴覚コーナー部品購入 視聴覚コーナーを作るために必要なパーティーション等を購入する。	実績・成果	○蓄圧式ABC粉末消火器購入 207,800円 ○視聴覚コーナー部品購入費 776,996円 ・パーティーション (502,480円) ・ソファ (274,516円) ○その他備品購入 145,343円
予算	予算総額 1,193,000 円 （内訳） 備品購入費 1,193,000 円	決算	決算総額 1,130,139 円 （内訳） 備品購入費 1,130,139 円
評価	快適な読書環境等を提供するために施設及び設備の整備を図ることができた。		
課題	壊れたり、古くなった備品の更新。	今後の方針	快適な読書環境等を整備するために、順次計画的に備品等の更新を行っていく。

事業名	図書館協議会の開催		
大綱施策	2-(1)- ②生涯を通じた学びの推進		
概要	図書館協議会は、図書館法第14条の規定により、図書館の運営に関し、館長の諮問に応じるとともに、図書館の行うサービスについて館長に意見を述べる。		
計画	○図書館協議会の開催 ・委員定数：10人以内 ・任期：2年 ○会議の開催と先進地視察の実施	実績・成果	○図書館協議会委員：9人 ・任期：令和5年5月1日～令和7年4月30日 ○協議会の開催 ・辞令交付及び第1回協議会 令和5年5月25日
予算	予算総額 265,000 円 (内訳) 報酬 176,000 円 費用弁償 89,000 円	決算	決算総額 112,440 円 (内訳) 報酬 45,500 円 費用弁償 66,940 円
評価	任期満了に伴い改選が行われ、委員9名（再任7名、新規2名）に辞令を交付した。その後の第1回協議会では、事業報告及び事業計画等の説明を行ったが、第2回目に関しては、改修工事等で集会室が使用できず、開催できなかった。		
課題	図書館の事業や運営だけではなく、県内先進地図書館の視察や読書推進関連大会への参加報告等、多様な情報の提供が必要である。	今後の方針	定期的に行われ、様々な知見からの助言をいただく機会を確保し、図書館運営に努めていく。

(2) 資料の収集・保存と活用

事業名	資料の購入																																						
大綱施策	2-(1)- ②生涯を通じた学びの推進																																						
概要	最新情報の把握と利用者のリクエストによる新刊図書の購入や基本的な図書の更新、話題性のある図書の購入、視聴覚資料の更新・購入を図り利用者のニーズに応えていく。																																						
計画	○小説、思想・哲学、歴史、社会科学（法律、経済、教育等）、自然科学（物理・化学、医学等）、技術（工学、機械、家政等）産業、芸術の全ての分野を網羅した選書を行い、年鑑、白書、統計等、年度更新が必要な資料について、利用者のニーズに応じた購入を定期的に行う。	実績・成果	○購入数 ・一般：1,677冊 ・児童：749冊 ・郷土：56冊 ・AV資料：22点 ・その他：37冊 ○蔵書状況（令和6年3月31日） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>令和5年度</th><th>前年度</th><th>増減</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般</td><td>115,155</td><td>113,556</td><td>1,599</td></tr> <tr> <td>児童</td><td>40,544</td><td>39,362</td><td>1,182</td></tr> <tr> <td>郷土</td><td>21,976</td><td>21,571</td><td>405</td></tr> <tr> <td>非図書</td><td>65</td><td>25</td><td>40</td></tr> <tr> <td>図書計</td><td>177,740</td><td>174,514</td><td>3,226</td></tr> <tr> <td>雑誌</td><td>3,132</td><td>3,148</td><td>▲ 16</td></tr> <tr> <td>AV</td><td>3,743</td><td>4,054</td><td>▲ 311</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>184,615</td><td>181,716</td><td>2,899</td></tr> </tbody> </table>		令和5年度	前年度	増減	一般	115,155	113,556	1,599	児童	40,544	39,362	1,182	郷土	21,976	21,571	405	非図書	65	25	40	図書計	177,740	174,514	3,226	雑誌	3,132	3,148	▲ 16	AV	3,743	4,054	▲ 311	合計	184,615	181,716	2,899
	令和5年度	前年度	増減																																				
一般	115,155	113,556	1,599																																				
児童	40,544	39,362	1,182																																				
郷土	21,976	21,571	405																																				
非図書	65	25	40																																				
図書計	177,740	174,514	3,226																																				
雑誌	3,132	3,148	▲ 16																																				
AV	3,743	4,054	▲ 311																																				
合計	184,615	181,716	2,899																																				
予算	予算総額 5,000,000 円 (内訳) 備品購入費 5,000,000 円	決算	決算総額 5,462,674 円 (内訳) 備品購入費 5,462,674 円																																				

評価	損傷や劣化が激しい児童書の更新、法改正や技術革新により現状にそぐわなくなっている社会科学・自然科学・技術分野の更新は計画的にできなかったが、利用者のニーズには応えることができた。		
課題	損傷や劣化が激しい資料の更新、現状にそぐわなくなっている分野の更新を継続していくため、選別作業の時間が必要である。	今後の方針	経過年数や各分野の蔵書構成を把握しながら、現状にそぐわなくなった分野の更新を計画的に行っていく。

事業名	寄贈資料受入		
大綱施策	2-(1)- ②生涯を通じた学びの推進		
概要	郷土資料の受け入れや、団体からの寄贈の申し出に対応するとともに、雑誌スポンサー制度を周知し、資料提供の機会を広げる。		
計画	○寄贈資料の受領に関する取扱基準に基づき、受入処理を適切に行う。 ○雑誌スポンサー 雑誌の購入費用を負担してもらい、提供いただいた最新号のカバーにスポンサーの名称や広告を掲載する。	実績・成果	○寄贈の状況 1,927冊 (令和5年度に登録作業を行った過年度寄贈資料を含む) ○団体寄贈 3団体 (寄贈品：図書、紙芝居) ○雑誌スポンサー 3者(4誌)
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円
評価	寄贈いただいた資料に関しては順次、資料登録を行い、地域の寄贈資料についても内容確認をしながら登録を行った。		
課題	市民からの寄贈の申し出の多くが、受領基準に達しない図書のためお断りしている。確認作業でも汚損等が多くあった。雑誌スポンサーの新規申込みがない。	今後の方針	受領基準の説明とともに、その根拠についても明確に説明を行いつつ受け入れしていく。雑誌スポンサー募集の広報を強化していく。

事業名	資料の貸出事業		
大綱施策	2-(1)- ②生涯を通じた学びの推進		
概要	図書館運営の基礎となる、資料の貸出をスムーズに行うとともに、利用者の利便性に配慮した特別貸出やリクエストの受付を行う。		
計画	○蔵書点検や年末年始の休館中にも図書を読めるよう、特別貸出を実施する。 ○蔵書数の少ない分館の利用者へ本館と同様に図書館サービスが受けられるようリクエストサービスを受け付ける。	実績・成果	○蔵書点検による休館中に貸出期間を通常より1週間延長した。 ○利用状況 別表のとおり ○リクエスト受付件数 川内分館 71件 大畑分館 72件 脇野沢分館 34件
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円

評価	セルフ貸出機の導入により、以前より資料の貸出がスムーズになった。また、インターネットから本の貸出延長が可能となったことにより電話での問い合わせが少なくなった。読書シールについても好評だった。		
課題	セルフ貸出機に慣れない方への丁寧な説明や、新機能を知らない利用者への周知が必要である。	今後の方針	貸出機や読書推進の新機能の周知について、どのような手段が有効か検討し広報を行っていく必要がある。

別表 各図書館等の利用状況

		5年度	4年度	増減
本館	利用人数	35,252	31,575	3,677
	貸出冊数	142,047	131,226	10,821
移動	利用人数	3,335	1,315	2,020
	貸出冊数	10,444	4,745	5,699
川内	利用人数	116	134	▲ 18
	貸出冊数	399	340	59
大畑	利用人数	278	287	▲ 9
	貸出冊数	744	815	▲ 71
協野沢	利用人数	187	239	▲ 52
	貸出冊数	369	405	▲ 36

(令和6年3月31日)

(3) 図書館サービス活動の充実

事業名	図書館奉仕員配置事業		
大綱施策	2-(1)-②生涯を通じた学びの推進		
概要	図書館奉仕員の有する技能・技術を市民対象の講習会等へ活用し、図書活動及び図書サービスの充実を図るため継続した任用を行う。また、図書館業務の中で最も重要であるレファレンス（調査相談業務）への対応を行う。		
計画	○図書館奉仕員を配置し、窓口サービスの充実を図る。 ○レファレンス（調査相談業務）への対応 ○図書館奉仕員を講師とした一般向け講習会を実施する。（ブックコート講習、修理講習）	実績・成果	○図書館奉仕員（会計年度任用職員）配置人数：12人 ○レファレンス件数：22件 ○ブックコート講習会 6月1日（木） 3名参加
予算	予算総額 24,420,000 円 （内訳） 報酬 21,790,000 円 職員手当 2,279,000 円 旅費 351,000 円	決算	決算総額 26,016,822 円 （内訳） 報酬 23,310,120 円 職員手当 2,356,302 円 旅費 350,400 円 ※決算総額のうち12,670,000円は、電源立地地域対策交付金
評価	ＩＣタグ導入後の新サービスを熟知し、利用者への説明等が的確に行われている。また、熟練した奉仕員が揃っているので利用者の要求に迅速に対応できている。講習会に関しても親切、丁寧な指導で参加者から好評を得た。		
課題	新サービスを熟知し利用者へのサービス強化を進めていく必要がある。	今後の方針	利用状況を確認しながら、新機能を知らない利用者への周知とより良いサービスを提供できるよう情報共有しながら課内研修を行う必要がある。

事業名	相互貸借事業		
大綱施策	2-(1)- ②生涯を通じた学びの推進		
概要	むつ市立図書館で所蔵のない資料を全国の図書館から借用して利用者へ貸出することで利用者のニーズに応える。		
計画	○利用者のリクエストに応じ、県内外の図書館の所蔵を調査し、借用依頼する。 ○他の図書館からの借用依頼にも対応する。	実績・成果	○相互貸借件数 借受数 564点 (40館) 貸出数 208点 (24館)
予算	予算総額 89,000 円 (内訳) 手数料 89,000 円	決算	決算総額 64,511 円 (内訳) 手数料 64,511 円
評価	リクエストサービス (予約含む) の一部を相互貸借で対応しており、他館と連携しながらリクエスト申込者のニーズに応えることができた。		
課題	電子版もある資料は、紙の本がすぐに入手困難となる傾向があるため、相互貸借でしかリクエストに応える手段がない場合が増加しつつある。	今後の方針	他図書館と連携を深めながらも、新刊のリクエストは相互貸借せず、購入対応するために、脆弱な分野の把握をしつつ図書購入費の予算確保に努める。

事業名	各種企画事業		
大綱施策	2-(1)- ②生涯を通じた学びの推進		
概要	各種事業を開催することで、図書館に親しんでもらう機会を提供し、読書意欲の向上と来館者の増加を目指す。		
計画	○図書館展示ホールやあすなろホールを使用し、コンサートの開催やA V資料を活用した児童及び一般向け映画の上映会を開催するほか、川島雄三監督映画上映会も実施する。 ○貸出回数によってポイントがたまるスタンプラリーや、図書の無料配布を主体としたブックフェスティバル等を開催する。	実績・成果	○日曜シネマ (毎月第2日曜日) 7回上映 参加者: 130人 ※9～1月 空調工事のため休止 ○川島雄三WEEK ・企画展 「起点・川島雄三」 令和5年6月3日～11日 来館者: 338人 ・上映会 令和5年6月9日 参加者: 10人 令和5年6月10日 参加者: 14人 ○子ども映画まつり 令和5年7月29日 参加者: 42人 ○スタンプラリー ・夏休み 参加者: 503人 令和5年7月22日～8月31日 ・読書週間 参加者: 462人 令和5年10月27日～11月30日 ○ブックフェスティバル 令和5年7月29日 参加者: 571人 無料配布冊数: 997冊
予算	予算総額 167,000 円 (内訳) 消耗品費 50,000 円 映像資料上映許諾使用料 117,000 円	決算	決算総額 89,677 円 (内訳) 消耗品費 23,677 円 映像資料上映許諾使用料 66,000 円
評価	各種企画事業については、マンネリ化にならないよう工夫しながら計画、実施した。川島雄三WEEKについては好評であった。		
課題	各種事業ともマンネリ化しないように工夫したり、新しい事業を一つでも多く計画、実施していく必要がある。	今後の方針	図書館に親しんでもらい、読書意欲の向上と来館者の増加を図るために、新規事業の実施が必要である。

事業名	詩歌コンクール事業		
大綱施策	2-(1)- ②生涯を通じた学びの推進		
概要	詩、短歌、俳句、川柳の4部門において、創作に対する関心を高め、読書と創作のつながりを設けることと、読書意欲向上のため詩歌コンクールを実施する。		
計画	○応募資格 むつ市内の小・中・高校生の方（むつ市に通学する方も含む） ○応募方法 ・作品は未発表のオリジナル作品 ・各部門とも、小学生・中学生・高校生ごとに審査する。	実績・成果	○むつ市詩歌コンクール ・募集期間 令和5年8月1日～9月9日 ・応募作品数：1,570点 ・入賞作品数：202点 ・優秀作品展：令和6年2月5日～2月19日
予算	予算総額 181,000 円 (内訳) 報 償 費 130,000 円 消耗品費 51,000 円	決算	決算総額 100,213 円 (内訳) 報 償 費 96,000 円 消耗品費 4,213 円
評価	今年度から一般部門を廃止して開催した。全体の応募数は減少したが、今まで応募のなかった学校から応募があった。良い作品が多かったことで入賞作品数は増加した。		
課題	作品中に、剽窃や盗作と見られるものがあり、応募者への周知や倫理観の醸成が必要。また、応募作品のデータ化に多くの業務時間が割かれている。小学校低学年と高学年を一緒に審査するのは難しいとの審査員の意見がある。	今後の方針	ネット環境の普及により、盗作や不適切な使い方をした応募作品が多くなってきている。こうした作品を探しながら審査するのは非常に難しいものがある。今後は、規定を設け応募者に周知していく必要がある。

事業名	集会施設の貸出事業		
大綱施策	2-(1)- ②生涯を通じた学びの推進		
概要	市民の身近な公共施設として、社会教育活動及び生涯学習の推進及び支援をする。		
計画	○市民の社会教育及び生涯学習の活動場所を提供するため集会施設の貸出を行う。 ○猛暑による熱中症対策のため集会施設エリアを開放し市民に涼みどりを提供する。また、図書館独自でクーリングシネマを実施。	実績・成果	○集会施設の利用状況 ・集会室 : 68回 618人 ・会議室 : 85回 574人 ・視聴覚ホール : 10回 312人 ・展示ホール : 11回 1,143人 ○クーリングシェルター ・令和5年8月7日～令和5年9月30日 ・利用者数：5,042人（延べ） ○クーリングシネマ ・令和5年8月7日～令和5年8月31日 ・使用者数：380人
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円
評価	熱中症対策のため、クーリングシェルターを設置。同時に単独事業でクーリンシネマ（映画上映）を開催したところ利用者から好評を得た。また、空調設備等改修工事も今年度で全て完了した。		
課題	年数がたって古くなった機器及び備品について、安心して利用できるよう順次、計画的に整備する必要がある。	今後の方針	老朽化に伴い不具合箇所が多くなってきている。計画的に改修を行い、身近な市民の公共施設として活用できるよう努める。

(4) 子供の読書活動の推進

事業名	子育て・子供向け事業		
大綱施策	2-(1)- ②生涯を通じた学びの推進		
概要	季節に関連した図書やテーマ展示を行い、子供たちの読書活動の意欲を高める。 図書館見学や映画上映会、工作教室を企画し、図書館に親しむ機会を増やし、読書推進へつなげる。		
計画	○児童の特別展示・季節の展示	実績・成果	○特別展示:54回・季節の展示:14回 ○イースターエッグハント 令和5年4月9日 参加者:24人 ○ぬいぐるみお泊まり会 令和5年5月24日~27日 参加者:27体(27人) ○夏休み工作教室 令和5年8月17日 参加者:5人 ○子ども映画まつり(再掲) 令和5年7月29日 参加者:42人
予算	予算総額 54,500 円 (内訳) 消耗品費 54,500 円	決算	決算総額 33,322 円 (内訳) 消耗品費 33,322 円
評価	特別展示や季節の展示は好評で、展示している本の貸し出しも多く、利用者のニーズにあった内容になっている。また、児童特別展示では子供たちの読書活動の意欲を高める内容となっているため人気があった。		
課題	時代の変化に気を付けながら利用者のニーズを探りながら展示するのは難しいがマンネリ化しないように努める。	今後の方針	読書意欲の向上と子供から大人まで親しみを持てるような事業展開を実施していく必要がある。

事業名	おはなし会等の開催		
大綱施策	2-(1)- ②生涯を通じた学びの推進		
概要	子供向けの読み聞かせや紙芝居の上演を行うおはなし会を毎週開催し、季節ごとに大規模なおはなし会を開催して子供たちの読書推進を図る。		
計画	○毎週土曜日開催 「土曜おはなし会」 ○季節の「おはなし会」 ・はるのひのおはなし会 ・あきのひのおはなし会 ・ふゆのひのおはなし会 ○「こわいおはなし会」 ○国際交流員による英語の読み聞かせ (ムチュリーディング)	実績・成果	○「土曜おはなし会」 午前11時~11時30分 40回:266人 ○季節の「おはなし会」 ・はるのひのおはなし会 令和5年5月13日:25人 ・あきのひのおはなし会 中止 ・ふゆのひのおはなし会 中止 ・こわいおはなし会 中止 ○ムチュリーディング 第2土曜日9回:100人
予算	予算総額 10,000 円 (内訳) 消耗品費 10,000 円	決算	決算総額 2,970 円 (内訳) 消耗品費 2,970 円

評価	定期的に開催していることもあり、毎回、工夫しながら実施している。参加者には楽しみにしている方も多く、読書意欲の高揚に繋がった。		
課題	事業の安定的な運営も必要だが、世代の交代を視野に入れての継続が必要である。	今後の方針	高校や大学との連携を図り、新たな読み手の育成と活動の場を提供する。

事業名	職場体験・見学の受け入れ		
大綱施策	2-(1)-②生涯を通じた学びの推進		
概要	学校からの依頼により館内見学や利用体験、調べ学習の場として活用いただくとともに、職場体験学習の受け入れを積極的に行う。		
計画	○市内及び郡内等の学校及び幼稚園から図書館見学・職場体験学習を受け入れる。	実績・成果	○施設見学 ・小学校（9校）：345人 ・中学校（1校）：8人 ・大学（1校）：10人 ○職場体験（インターンシップ） ・中学校（5校）：7人 ・高等学校（1校）：4人
予算	予算額 0 円	決算	決算額 0 円
評価	職場体験、見学とも依頼があれば、日程を調整しながら可能な限り受け入れた。		
課題	職場体験の時期が重なり、各学校との調整に苦労する場合がある。申込から受入まで十分な準備期間がなく担当者の負担が増加する傾向が見受けられる。	今後の方針	職場体験の申込み時期について、各学校へ準備期間の必要等、詳しい周知が必要である。



はるのひのおはなし会



移動図書館車でのおはなし会

(5) 人と本をつなげるまちづくり事業の推進

事業名		移動図書館車の運行事業	
大綱施策		2-(1)- ②生涯を通じた学びの推進	
概要	本館から離れた遠隔地に居住する市民へ移動図書館車を運行する。また、市内の公園、イベントへ出張し図書館資料の利用拡大を図る。		
計画	○小・中学校、幼稚園、保育所、公民館、集会所等20ステーションに2週間おきに運行する。 ○運行期間 5月～12月まで（120日間） ○出張図書館 夏休みの特別運行 イベント、行事への参加	実績・成果	○運行期間 令和5年5月～12月（120日間） ○利用人数：3,335人（延べ） ○貸出冊数：10,452冊 ○出張移動図書館車 薬研地区で開催：codama（コダマ） 令和5年10月22日（日） 読み聞かせ、工作教室、本の無料配布、本の貸出
予算	予算総額 1,265,000 円 (内訳) 需用費 110,000 円 役務費 0 円 委託料 1,155,000 円	決算	決算総額 1,082,149 円 (内訳) 需用費 218,201 円 役務費 10,560 円 委託料 853,388 円
評価	「ブックラン♪」（新移動図書館車）も好評である。昨年度に要望のあった市内の学校を新たに追加し巡回したことにより児童の利用状況が増加した。今後も、要望があれば検討しながら可能な限り利用拡大を図っていきたい。		
課題	子供たちの読書意欲を向上させるために、子供たちのニーズにあった本を選書する必要がある。また、一般図書についても同様である。	今後の方針	遠隔地にこだわらず、新規ステーションの開拓に努める。また、「人と本でつながるまちづくり事業」と合わせ新規事業の検討にも努める。



移動図書館車



移動図書館車での工作教室

事業名	図書館ボランティア事業														
大綱施策	2-(1)- ②生涯を通じた学びの推進														
概要	本の温もりを地域に届ける「人と本をつなげるまちづくり」を進めるにあたり、地域と図書館の架け橋となる図書館ボランティア活動の推進を図る。														
計画	○ボランティア活動 ①個人参加 ・返却本の配架 ・本の修理 ②団体参加 ・読み聞かせ	実績・成果	○ボランティア活動 ・土曜おはなし会を実施する読み聞かせ団体の他、新たに個人ボランティアの募集をし、活動を支援した。 <table><tr><td></td><td>個人参加</td><td>団体参加</td></tr><tr><td>活動内容</td><td>返却本の配架 本の修理</td><td>読み聞かせ (おはなし会)</td></tr><tr><td>参加者</td><td>6人</td><td>3団体 (計19人)</td></tr><tr><td>活動回数</td><td>延べ295回</td><td>41回</td></tr></table>		個人参加	団体参加	活動内容	返却本の配架 本の修理	読み聞かせ (おはなし会)	参加者	6人	3団体 (計19人)	活動回数	延べ295回	41回
	個人参加	団体参加													
活動内容	返却本の配架 本の修理	読み聞かせ (おはなし会)													
参加者	6人	3団体 (計19人)													
活動回数	延べ295回	41回													
予算	予算総額 27,000 円 (内訳) 需用費 20,000 円 保険料 7,000 円	決算	決算総額 2,400 円 (内訳) 需用費 0 円 保険料 2,400 円												
評価	本の好きな方々が応募してくださり図書館の仕事をお手伝いいただく事業で、個人参加では資料の配架、本の修理の活動。団体参加では、子供向けに絵本や紙芝居の読み聞かせの活動を実施している。														
課題	運行の調整及び人員の配置等に苦慮する。また、天候によっても左右されやすい。	今後の方針	図書館の利用者及び移動図書館車の利用者のニーズを把握し、人員の配置等、事業内容を再度検討していく。												



おはなし会と大湊高校

■ 図書館の重点項目の総括評価 ■

空調設備等改修工事に際しては、利用者に不便をかけたが今年度で全て完了した。快適な環境で読書を楽しめるよう施設整備に努めた。今後も計画的に進めていく。

蔵書については適切な資料等の整備を行い蔵書の充実に努めたが、部分的にしかできていない分野もあり、今後も継続していく必要がある。主催事業や子供のための事業においては、より多くの方々に参加していただけるように、企画内容の検討も踏まえ事業を実施してきた。図書館ICT化事業実施により、セルフ貸出をメインに読書推進機能を強化する等、利用者の利便性と読書環境の充実に努めた。移動図書館車の更新したことで、新しい事業に繋げることができた。

6 地域クラブ企画推進課

■ 具体的な取組の評価 ■

(1) クラブの運営

事業名		地域文化・スポーツクラブ推進事業	
大綱施策		2-(1)-①スポーツ活動の推進、2-(1)-④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実	
概要	令和4年12月にスポーツ庁及び文化庁から新たに公表されたガイドラインでは、令和5年度から令和7年度末までを改革推進期間として位置づけ、中学校の運動部活動及び文化部活動の地域への移行を可能な限り早期の実現を目指すこととしている。このため、令和5年度より中学校部活動の段階的な地域移行を進めながら、令和7年度末までの完全移行を目指すとともに、令和8年度からの「総合型クラブ」の設立に向けた取組をする。		
計画	○令和5年度に地域移行したした一部種目の運営を行いながら、各関係団体及び関係者と協議を行い、令和6年度以降の以降種目を検討する。 ＜令和5年度地域移行クラブ＞ ・IT・学習・歌唱・家庭・ダンス ・美術・ボードゲーム・野外活動体験 ・総合文化（川内・脇野沢、大畑） ・サッカー・柔道・水泳	実績	○むつ市地域文化・スポーツクラブ（むつ☆かつ）の設立及び運営 ○市内中学校教員等へのアンケート調査 ○市内中学校PTA会長等との意見交換 ○体育協会等との意見交換 ○教職員向けの説明会 ○生徒・保護者向けの説明会 ○令和6年度新たに地域移行する競技の検討及び公表（陸上・剣道・ソフトボール・バドミントン・吹奏楽）
予算	予算総額 159,892,000 円 (内訳) 報酬等 28,078,000 円 旅費・費用弁償 4,029,000 円 需用費 300,000 円 役務費 42,000 円 使用料及び賃借料 926,000 円 備品購入費 458,000 円 負担金 126,059,000 円	決算	決算総額 147,958,919 円 (内訳) 報酬等 18,812,143 円 旅費・費用弁償 2,277,168 円 需用費 298,900 円 役務費 41,063 円 使用料及び賃借料 24,750 円 備品購入費 445,895 円 負担金 126,059,000 円
評価	今年度より段階的に移行したクラブの活動及び運営を滞りなく実施できたほか、関係団体等との協議を深めながら、次年度に移行する競技を決定し公表することができた。3月中に、新たな競技も含めてクラブ毎に指導者及び保護者向けの説明会を開催することで、次年度を見据え、円滑な事業の推進をすることができており、概ね良好と判断する。		
課題	活動の核となる指導者や活動場所の確保に努めなければならない。 令和8年度からの総合型クラブへの移行に向けたクラブ運営の方針について検討を深める必要がある。	今後の方針	引き続きクラブの円滑な運営に努める。 令和7年度に全ての部活動を地域移行することとしており、関係団体と協議し、今後移行する競技の運営方針を具現化する。

■ 地域クラブ企画推進課の重点項目の総括評価 ■

令和5年度から中学校部活動の段階的な地域移行を開始した。 今年度は「むつ市地域文化・スポーツクラブ（愛称：むつ☆かつ）」を設立し、3スポーツクラブと10文化クラブを部活動から地域クラブへ移行したが、文化クラブでは「野外活動体験」や「ダンス」を開設するなど、これまでの学校部活動には無かった新たな体験の場を提供することができた。

◇点検・評価対象事務事業一覧（令和5年度むつ市教育大綱事業実施計画一覧）

担当課	各担当課における取組	
	具体的な事業	むつ市教育大綱における施策内容
総務課	(1) 安全・安心で夢を育む教育環境の整備	
	スクールバス運行管理事業	
	まさかり高校医学部進学・特進コース事業	1－(1)－④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進
	下北Project（学びのイノベーション）事業	1－(1)－④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進
	G I G Aスクール端末等購入事業	1－(1)－③主体的な学習の推進
	校務用パソコン等購入事業	1－(1)－③主体的な学習の推進
	学校情報通信環境管理運営事業	1－(1)－③主体的な学習の推進
	中学校整備事業(市立大平中学校玄関庇改修工事)	
	// (市立中学校消防設備更新工事)	
	中学校大規模改修事業(市立川内小中学校消火栓給水管・ポンプ改修工事)	
	(2) 教職員の適正・適切な配置	
	県費負担職員の任免、服務、その他の人事管理	
	(3) 通学区域制度の適切な運用及び再編	
	むつ市通学区域審議会の設置	
	(4) 学校規模の適正化に係る研究・検討	
	学校規模適正化のための地域説明会等の開催	1－(2)－②安全・防災教育の推進
	(5) 就学困難な児童生徒等に係る就学援助	
	要保護児童生徒援助事業	
	準要保護児童生徒援助事業	
	医療的ケア児童生徒就学支援事業	1－(3)－②特別支援教育の充実
	特別支援教育就学奨励事業	1－(3)－②特別支援教育の充実
	(6) コミュニティ・スクール制度の推進	
	学校運営協議会の設置	1－(4)－②コミュニティ・スクールの推進
	(7) 奨学金制度の充実	
	奨学金貸付事業	1－(1)－④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進
	むつ市大学医学部修学助成金交付事業	1－(1)－④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進
	(8) 学校保健の充実	
	健康診断委託事業	1－(2)－①健康な体を育む学校づくり
	学校医委託事業	1－(2)－①健康な体を育む学校づくり
	学校災害共済給付事業	1－(2)－①健康な体を育む学校づくり
	学校保健会補助事業	1－(2)－①健康な体を育む学校づくり
	学校災害入院補償事業	1－(2)－①健康な体を育む学校づくり
	(9) 学校給食の充実	
	学校給食管理事業	1－(2)－①健康な体を育む学校づくり
	学校給食設備整備事業	1－(2)－①健康な体を育む学校づくり
	(仮称) 防災食育センター建設事業	1－(2)－①健康な体を育む学校づくり
	(10) 教職員の働き方改革の推進	
	勤怠管理ソフト付きタイムレコーダー導入事業	
生涯学習課	(1) 生涯学習の推進	
	社会教育委員の設置	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	社会教育指導員による学習支援	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	二十歳の集い	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	自然観察会の開催	2－(1)－③学校・家庭・地域の連携による教育活動の推進と人材育成
	(2) 学校・家庭・地域の連携による教育活動の推進	
	地域学校協働活動推進事業	2－(1)－③学校・家庭・地域の連携による教育活動の推進と人材育成
	(3) 社会教育施設の機能充実	
	むつ市海と森ふれあい体験館の管理・運営	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	むつ市下北自然の家の管理・運営	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	(4) 文化芸術活動の奨励と振興	
	むつ市文化賞・文化奨励賞受賞者作品展示	2－(1)－④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実
	東京藝術大学出身演奏家による芸術鑑賞教室	2－(1)－④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実
	(5) 郷土の文化遺産の保護・保存と活用	
	むつ市の芸術、文化団体、民俗芸能の保存と伝承等支援事業	2－(1)－④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実
	文化財・自然、その他調査事業	2－(1)－④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実
	文化財保護審議会の設置	2－(1)－④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実

担当課	各担当課における取組	
	具体的な事業	むつ市教育大綱における施策内容
生涯学習課	文化財収蔵庫の管理・運営	2－(1)－④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実
	北の防人大湊に関すること（ガイド活動支援等）	2－(1)－④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実
	埋蔵文化財発掘調査事業	2－(1)－④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実
	田名部館遺跡本発掘調査事業	2－(1)－④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実
	文化財保護、保存管理事業	2－(1)－④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実
	重要文化財保存修理事業（二枚橋2遺跡出土品）	2－(1)－④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実
	//（旧大湊水源地水道施設）	2－(1)－④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実
学校教育課	(1) 質の高い教育課程の創造	
	むつ市学校教育プラン検証委員会開催	1－(1)－①明確な目標設定
	指導の方針と重点に関する指導・支援事業	1－(1)－①明確な目標設定
	児童生徒の高い志をはぐくむ支援事業	1－(1)－④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進
	スクールサポートスタッフ配置事業	1－(1)－④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進
	(2) 学力向上対策の充実	
	学力向上プログラム推進	1－(1)－①明確な目標設定
	学力向上に向けた協議会開催	1－(1)－③主体的な学習の推進
	総合学力調査・知能検査実施	1－(1)－①明確な目標設定
	算数・数学チャレンジ	1－(1)－①明確な目標設定
	新聞を活用した学習への支援	1－(1)－②教員の資質向上
	研究大会への派遣助成	1－(1)－③主体的な学習の推進
	英検IBAの実施・ESGの推奨	1－(1)－③主体的な学習の推進
	(3) ICTを活用した教育活動の充実	
	ICT推進委員委嘱	1－(1)－③主体的な学習の推進
	ICT活用検証事業	1－(1)－③主体的な学習の推進
	学習用HP開設	1－(1)－③主体的な学習の推進
	デジタル教材配備	1－(1)－③主体的な学習の推進
	デジタル教科書・デジタル教材購入	1－(1)－③主体的な学習の推進
	タイピングスキル向上	1－(1)－③主体的な学習の推進
	授業目的公衆送信補償金等管理協会負担金	1－(1)－③主体的な学習の推進
	(4) 教育研修センター講座等の充実	
	教職員研修講座開設	1－(1)－②教員の資質向上
	(5) 幼・保・小連携及び小中一貫教育の充実	
	幼稚園・保育園と小学校の情報交換	1－(1)－④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進
	小中一貫教育の充実	1－(1)－④0歳から18歳までの切れ目のない学力の向上施策の推進
	(6) 大学との連携強化	
	教育研修センター講座等連携	1－(1)－②教員の資質向上
	学生との交流	1－(1)－③主体的な学習の推進
	むつ市内大学との連携	1－(3)－④高等教育機関との連携
	(7) 健康教育・安全教育の充実	
	「健康の未来」を変えるプロジェクト授業	1－(2)－①健康な体を育む学校づくり
	学校危機管理マニュアル改訂	1－(2)－②安全・防災教育の推進
	(8) キャリア教育の充実	
	むつ市こども議会	1－(3)－①キャリア教育の充実
	むつ市中学生夢はぐくむ体験入学事業	1－(3)－①キャリア教育の充実
	関係機関との連携	1－(3)－①キャリア教育の充実
	むつ市子ども夢育成基金	2－(1)－①スポーツ活動の推進
	キャリア教育推進事業	1－(3)－①キャリア教育の充実
	(9) 特別支援教育体制の充実	
	スクールサポーター配置	1－(3)－②特別支援教育の充実
	むつ市就学事務説明会・就学相談研修会開催	1－(3)－②特別支援教育の充実
	むつ市特別支援教育推進委員会開催	1－(3)－②特別支援教育の充実
	(10) 国際化に対応する教育と郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進	
	外国語指導助手配置	1－(3)－①キャリア教育の充実
	Enjoy English、All English Day実施	1－(3)－①キャリア教育の充実
	むつ市ジュニア大使派遣	1－(3)－①キャリア教育の充実
	中華民国陽明国民中学との友好交流	1－(3)－①キャリア教育の充実
	シオパーク体験活動推進	1－(4)－①ふるさとむつ市への愛着と誇りを育む教育
	むつ市民歌に親しむ機会づくり	1－(4)－①ふるさとむつ市への愛着と誇りを育む教育

担当課	各担当課における取組	
	具体的な事業	むつ市教育大綱における施策内容
学校教育課	(11) 生徒指導の充実と関係機関との連携強化	
	生徒指導検査実施	1－(3)－③豊かな心の育成
	むつ市いじめ問題対策委員会開催	1－(3)－③豊かな心の育成
	むつ市いじめ防止宣言フォーラム	1－(3)－③豊かな心の育成
	望ましい集団づくり実施	1－(3)－③豊かな心の育成
	(12) 教育相談体制の充実	
	むつ市教育相談室開設	1－(3)－③豊かな心の育成
公民館 (中央、川内、大畑、脇野沢)	(1) 公民館の適正管理と運営の充実	
	公民館運営審議会の開催	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	公民館の適正管理	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	地区公民館・分館の管理運営	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	(2) 公民館事業の推進	
	青少年教育事業	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	かきぞめ大会の開催	2－(1)－④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実
	婦人教育事業	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	市民大学及び成人教育事業	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	分館地域づくり講座開催	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	(3) 社会教育関係団体等の育成支援	
	各団体への指導・助言及び支援	2－(1)－③学校・家庭・地域の連携による教育活動の推進と人材育成
	公民館まつりの開催	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	社会教育指導員配置事業	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	(4) 生涯学習関連機関等との連携促進	
	下北美術展の開催	2－(1)－④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実
	高等教育機関との連携	2－(2)－②社会人の学び直しの推進
図書館	(1) 図書館の適正管理	
	空調設備等改修事業	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	施設・設備の整備事業	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	図書館協議会の開催	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	(2) 資料の収集・保存と活用	
	資料の購入	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	寄贈資料受入	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	資料の貸出事業	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	(3) 図書館サービス活動の充実	
	図書館奉仕員配置事業	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	相互貸借事業	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	各種企画事業	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	詩歌コンクール事業	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	集会施設の貸出事業	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	(4) 子どもの読書活動の推進	
	子育て・子ども向け事業	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	おはなし会等の開催	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	職場体験・見学の受け入れ	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	(5) 人と本をつなげるまちづくり事業の推進	
	移動図書館車の運行事業	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
	図書館ボランティア事業	2－(1)－②生涯を通じた学びの推進
地域クラブ 企画推進課	(1) クラブの運営	
	地域文化・スポーツクラブ推進事業	2－(1)－①スポーツ活動の推進 2－(1)－④文化財の保存活用と文化・芸術活動の充実